

平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕
結果報告

平成27年2月3日(火)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	13
	◎国語	
	1 小学校国語	14
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	2 中学校国語	26
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	◎社会	
	1 小学校社会	36
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	2 中学校社会	48
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	◎算数・数学	
	1 小学校算数	58
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	2 中学校数学	70
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	◎理科	
	1 小学校理科	80
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	2 中学校理科	92
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	
	◎英語	
	1 中学校英語	102
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析(成果と課題)	
	(3) これからの指導に向けて	

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

※ [4月調査]及び[12月調査]における調査の目的を示している。

2 調査実施日

小・中学校とも平成26年12月9日(火)、10日(水)

3 調査内容

- 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・小4、小5、小6 国語、社会、算数、理科
 - ・中1、中2 国語、社会、数学、理科、英語

4 調査方法

- 教科に関する調査
 - ・小学校 各教科とも45分 各学校で時間を設定して実施。
 - ・中学校 各教科とも50分 各学校で時間を設定して実施。

5 調査の成果指標

- 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1、2〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	163	第4学年	7,631
		第5学年	7,764
		第6学年	7,998
中学校	91	第1学年(県立中学校を含む)	7,876
		第2学年(県立中学校を含む)	7,879
特別支援学校	6	小学部第4学年	3
		小学部第5学年	2
		小学部第6学年	2
		中学部第1学年	5
		中学部第2学年	6
		計	39,166

〔注1〕到達基準について

佐賀県では、平成19年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較が可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法の考え方に沿って、小問毎に「期待正答率」を設定し、それを集約して設定している。「期待正答率」とは、問題の特性や難易度に応じて判断した受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、小問ごとに「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

○「十分達成」は、学習内容の習得が十分であると判断される基準

○「おおむね達成」は、最低限これを上回ることが必要であると判断される基準

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、この到達基準を基に、各学校においては、調査結果に基づいて自校の取組を検証し、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■ 修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■ 校種別期待正答率

(注)上段の数値は「十分達成」、下段の数値は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難
小学校	基礎的・基本的	(A) 0.85(85%) 0.65(65%)	(B) 0.80(80%) 0.60(60%)	
	発展的・応用的	(C) 0.75(75%) 0.55(55%)	(D) 0.70(70%) 0.50(50%)	(E) 0.65(65%) 0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A) 0.75(75%) 0.55(55%)	(B) 0.70(70%) 0.50(50%)	
	発展的・応用的	(C) 0.65(65%) 0.45(45%)	(D) 0.60(60%) 0.40(40%)	(E) 0.55(55%) 0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

1 調査結果の概要

(1) 平成 26 年度[12 月調査]の結果

- 平成 26 年度[12 月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準(P2〔注 1〕参照)に対して「おおむね達成」の到達基準を上回ったものは、22 教科中 19 教科(小学校 12 教科中 12 教科、中学校 10 教科中 7 教科)であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 「十分達成」の到達基準を上回ったものは、中学 1 年生の国語と英語であり、学習内容が十分習得されていた。
- 「おおむね達成」の到達基準を下回ったものは、中学 1 年生の社会、中学 2 年生の社会と理科であり、課題が見られた。

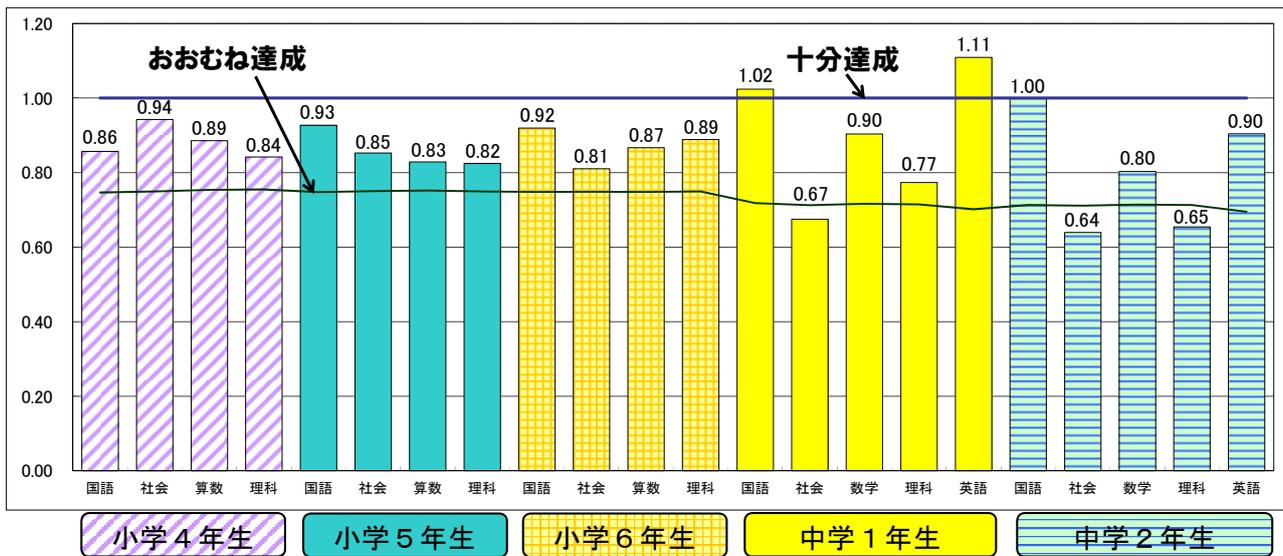
〔表 1〕各学年・教科の到達状況

教科	平成 26 年度[12 月調査]の到達状況				(参考)平成 25 年度(4 月実施)の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	67.6	78.9	58.9	0.86	-	-	-	-
小4社会	75.2	79.8	59.8	0.94	-	-	-	-
小4算数	71.9	81.2	61.2	0.89	-	-	-	-
小4理科	68.6	81.5	61.5	0.84	-	-	-	-
小5国語	73.4	79.2	59.2	0.93	59.3	80.2	60.2	0.74
小5社会	68.2	80.0	60.0	0.85	68.7	78.5	58.5	0.88
小5算数	66.8	80.6	60.6	0.83	66.6	79.1	59.1	0.84
小5理科	65.8	79.8	59.8	0.82	63.4	79.4	59.4	0.80
小6国語	72.9	79.3	59.3	0.92	※ ¹ 53.7	※ ² 77.5	※ ² 57.5	0.69
小6社会	64.4	79.5	59.5	0.81	58.0	79.5	59.5	0.73
小6算数	68.8	79.4	59.4	0.87	※ ¹ 70.2	※ ² 78.8	※ ² 58.8	0.89
小6理科	70.8	79.7	59.7	0.89	58.0	79.4	59.4	0.73
中1国語	72.7	71.0	51.0	※ ³ 1.02	68.5	80.8	60.8	0.85
中1社会	46.9	69.5	49.5	0.67	59.6	79.2	59.2	0.75
中1数学	63.7	70.5	50.5	0.90	72.7	78.9	58.9	0.92
中1理科	54.2	70.1	50.1	0.77	61.4	79.4	59.4	0.77
中1英語	74.3	67.0	47.0	※ ³ 1.11	-	-	-	-
中2国語	69.7	69.7	49.7	1.00	61.6	69.8	49.8	0.88
中2社会	44.3	69.3	49.3	0.64	53.1	68.9	48.9	0.77
中2数学	56.2	70.0	50.0	0.80	53.8	69.4	49.4	0.78
中2理科	45.6	69.7	49.7	0.65	47.5	69.7	49.7	0.68
中2英語	59.3	65.6	45.6	0.90	60.2	64.8	44.8	0.93

平成 25 年度(4 月実施)においては、該当学年の前学年までの内容(中学 1 年は、小学 6 年までの内容)を、また、平成 26 年度[12 月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

[グラフ1] 平成26年[12月調査] 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合

(十分達成=1.00)



(2) 平成26年度[4月調査]との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成26年度[4月調査]の割合を上回ったものは、8教科中7教科であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況に改善が見られた。
- 平成26年度[4月調査]において「おおむね達成」を下回っていた中学2年生の数学は、「おおむね達成」の到達基準を6.2ポイント上回っており、改善が見られた。

[表2] 国語、算数・数学における各学年・教科の到達状況(平成26年度[4月調査]との比較)

教科	平成26年度[12月調査]の到達状況				平成26年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」 に対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に に対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	73.4	79.2	59.2	※4 ↑0.93	67.6	79.8	59.8	0.85
小5算数	66.8	80.6	60.6	※4 ↑0.83	59.7	79.6	59.6	0.75
小6国語	72.9	79.3	59.3	※4 ↑0.92	※1 64.5	※2 78.4	※2 58.4	0.82
小6算数	68.8	79.4	59.4	0.87	※1 69.9	※2 78.0	※2 58.0	0.90
中1国語	72.7	71.0	51.0	※3 ※4 ↑1.02	70.1	80.0	60.0	0.88
中1数学	63.7	70.5	50.5	※4 ↑0.90	70.5	79.5	59.5	0.89
中2国語	69.7	69.7	49.7	※4 ↑1.00	60.4	69.5	49.5	0.87
中2数学	56.2	70.0	50.0	※4 ↑0.80	47.3	68.4	48.4	0.69

平成26年度[4月調査]においては、該当学年の前学年までの内容(中学1年は、小学6年までの内容)を、また、平成26年度[12月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

- ※1 平成25年度(4月実施)及び平成26年度[4月調査]の小6国語、小6算数については、全国調査問題を県独自の基準で採点し、A問題とB問題とを合わせたときの正答率を示している。
- ※2 平成25年度(4月実施)及び平成26年度[4月調査]の小6国語、小6算数については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。
- ※3 網掛けは、「十分達成」に対する割合が1.0を上回っている教科を示している。
- ※4 [表2]にある「↑」は、「十分達成」に対する割合が、平成26年度[4月調査]と比較して上回っている教科を示している。

2 各教科の概要・指導のポイント

【国語】

《概要》

- ・ 小中学校ともに、教科全体正答率は、「おおむね達成」の到達基準を上回った。中学校においては、十分達成の到達基準に達している。
- ・ 「言語についての知識・理解・技能」について、小中学校ともに、「おおむね達成」の到達基準を上回っている。特に、内容・領域「漢字の読み」においては、全学年において、「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- ・ 小中学校ともに、[4月調査]において、課題として挙げられていた内容・領域「読むこと」の「条件に合わせて自分の考えを書く」ことは、引き続き課題が見られた。
- ・ 「漢字の書き」においては、中学2年生が「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 6年間または9年間の指導事項を整理し、系統性を明らかにした上で、身に付けたい力を意識した指導の充実を図る。
- ◎ 「書くこと」と「読むこと」とを関連付けた学習指導の充実を図る。
- ◎ 漢字の意味を確認させ、文脈に即して漢字が正しく書けるような指導の充実を図る。

【社会】

《概要》

- ・ 教科正答率においては、小学校は全ての学年で「おおむね達成」の到達基準を上回っているが、中学校は、すべての学年で下回った。
- ・ 小中学校ともに、資料から必要な情報を読み取り、解答を導き出すことはおおむねできていた。しかし、複数の資料を関連付けて解答を導き出すことについては、平成25年度調査と同様に課題が見られた。
- ・ 内容・領域別に見ると、小学校においては、小学6年生の「国土の様子」（小学5年生の内容）以外は、「おおむね達成」の到達基準を上回っている。中でも、小学4年生の「地域の生産や販売」と「地域社会の歴史」においては、「十分達成」の到達基準を上回っている。中学校の地理的分野においては、中学1年生の「北アメリカ州」、中学2年生の「日本の地域構成」以外は「おおむね達成」の到達基準を上回っている。しかし、歴史的分野においては、「おおむね達成」の到達基準を下回っており、学習内容の定着に課題が見られた。特に、歴史的事象の意味について説明することや歴史的事象に関する知識の定着に小中学校ともに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 小学校においては、社会的な思考力・判断力・表現力を高めるため、中学年では社会的事象の特色や相互の関連等、さらに、高学年では社会的事象の意味について考えさせる活動の充実を図る。
- ◎ 中学校においては、特に歴史的分野の学習において、小学校での学習内容や生徒の実態を把握し、生徒の実態に合わせて歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明させたり、論述させたりする学習活動を設定する。
- ◎ 小中学校ともに、知識や概念を確実に身に付けさせるために、学習の過程において知識・技能を繰り返し活用させるなど学習活動の工夫を行う。

【算数・数学】

《概要》

- ・ 小・中学校共に四則を用いた計算や、数量や図形についての意味や性質の理解に関する項目についてはおおむね良好であった。

- ・ 小学校では、示された情報を基に既習事項を活用して問題を解決したり、解決の方法を式や言葉で説明したりすることについては、課題が見られた。
- ・ 中学校では、内容・領域「数と式」において、具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式や連立二元一次方程式をつくることや内容・領域「関数」において、表、式、グラフを関連付けて理解することについて、課題が見られた。
- ・ 中学校では、事象と式との対応を捉え、事柄が成り立つ理由を説明することや証明を見直して、改善することなどの記述式の設問は課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 示された情報を分類整理したり、必要な情報を取捨選択させたりする学習活動の充実を図る。
- ◎ 数量や図形、数量関係を考察して見出した事実、思考の過程や判断の根拠などを、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて表現させるような学習活動を積極的に取り入れる。

【理科】

《概要》

- ・ 小学校・中学校ともに、自然の事物事象に関する基礎的な知識の定着については、一部の学年に「おおむね達成」の基準を満たしていない学年があるが、おおむね良好であった。
- ・ 小学校・中学校ともに身の回りの事象を、学習した事項と関連づけて説明することに課題が見られた。
- ・ 小学校・中学校ともに観察・実験の基礎的・基本的な技能の定着については、改善の傾向にあるが、まだ課題が見られる。例えば、小学校では「方位磁針や遮光板、アルコールランプの使い方」、中学校では「メスシリンダーの使い方、化学反応式の書き方」などである。

《指導改善のポイント》

- ◎ 授業の導入を工夫し、問題意識を持たせることで、児童生徒が主体的に問題解決に取り組めるような学習指導を工夫する。
- ◎ 学習したことを基に事象の説明をしたり、学んだことと身の回りの事象を関連付けて説明したりする活動の充実を図る。

【英語】

《概要》

- ・ 中学1年生、2年生ともに、全ての評価の観点においては、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- ・ 中学1年生、2年生ともに、内容・領域「聞くこと」においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分習得されていた。
- ・ 中学1年生、2年生ともに、一般動詞を用いた「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く」ことを問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、課題が見られた。
- ・ 中学2年生の内容・領域「読むこと」において、対話文を読んで流れを理解することに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けた指導の充実を図る。
- ◎ 英語の特質を理解させるための、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導の工夫を行う。
- ◎ 読みの段階に応じた発問構成の工夫を行う。

3 地域別の正答率

○ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

(1) 国語

- 県内5地域の教科正答率は【表3】のとおりである。[4月調査]を実施していない小学4年生を除く4学年中3学年において、[4月調査]と比べて地域差が縮小した。
(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回った。【グラフ2】

【表3】 県内5地域における学年別の教科正答率

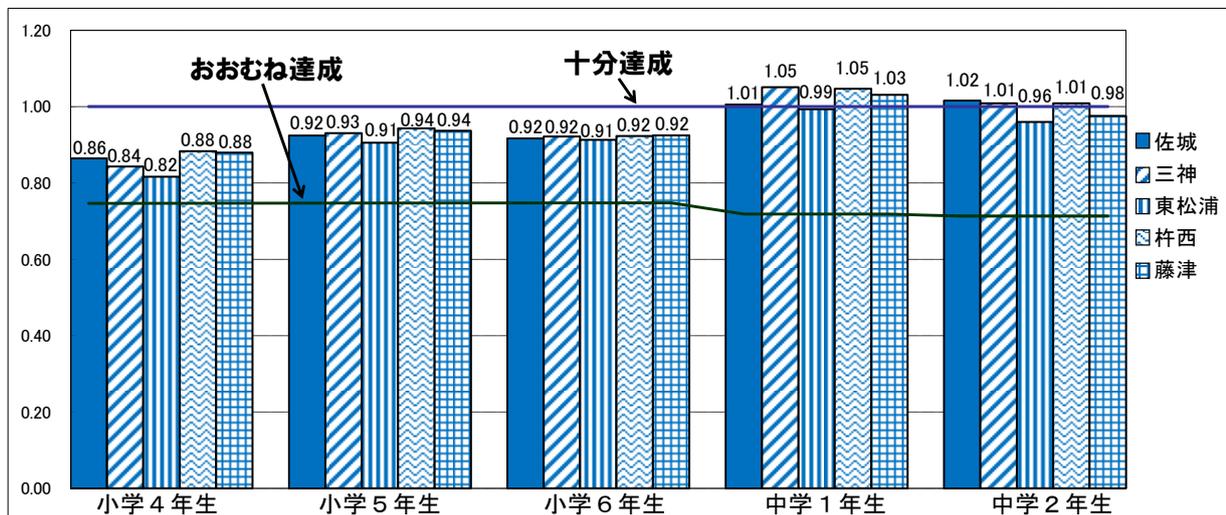
学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
小学4年生	H26[12月]	67.6	68.2	66.5	64.4	69.7	69.4	5.3
	H26[4月]	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	73.4	73.2	73.7	71.7	74.7	74.2	縮 3.0
	H26[4月]	67.6	66.7	68.5	65.7	69.6	68.3	3.9
小学6年生	H26[12月]	72.9	72.7	73.1	72.4	73.2	73.3	縮 0.9
	H26[4月]	64.5	65.8	64.8	61.6	63.3	66.2	4.6
中学1年生	H26[12月]	72.7	71.4	74.6	70.5	74.3	73.2	拡 4.1
	H26[4月]	70.1	68.9	71.7	68.4	72.0	69.5	3.6
中学2年生	H26[12月]	69.7	70.8	70.3	66.9	70.3	68.0	縮 3.9
	H26[4月]	60.4	60.4	62.3	59.0	60.7	58.3	4.0

※ 「拡」は、平成26年度[4月調査]と比べて、地域差が拡大した教科を示している。

※ 「縮」は、平成26年度[4月調査]と比べて、地域差が縮小した教科を示している。

【グラフ2】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(国語)

(十分達成=1.00)



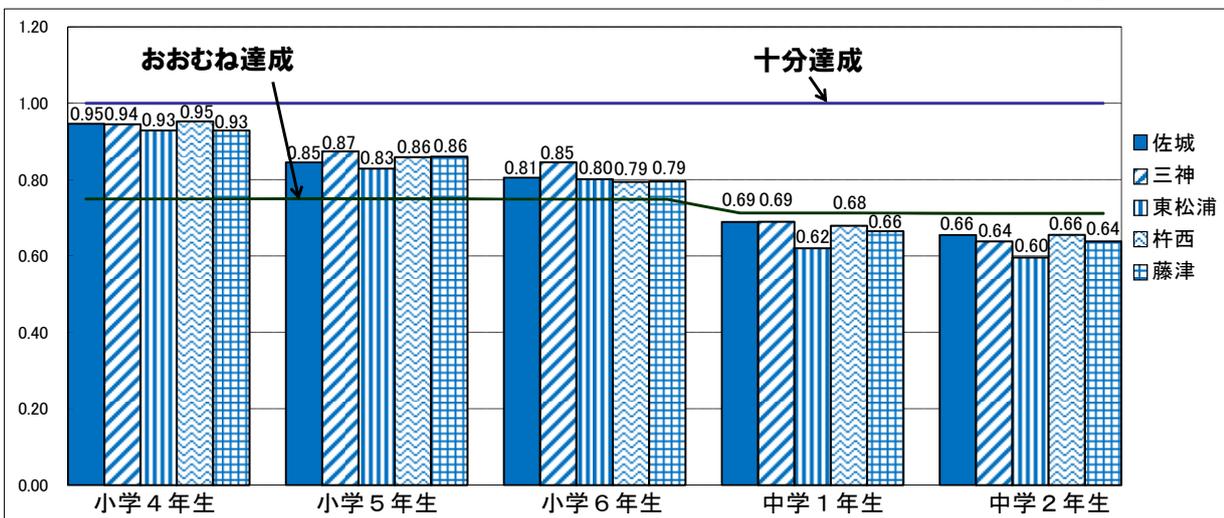
(2) 社会

- 県内5地域の教科正答率は【表4】のとおりである。平成25年度(4月実施)調査を実施していない小学4年生を除く全ての学年において、平成25年度(4月実施)と比べて地域差が縮小した。(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、小学校で「おおむね達成」の基準を上回った。中学校では、中学1年生、中学2年生ともに、5地域において「おおむね達成」の基準を下回った。【グラフ3】

【表4】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H26[12月]	75.2	75.5	75.4	74.1	76.0	74.1	1.9
	H25(4月)	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	68.2	67.6	69.9	66.3	68.7	68.8	縮 3.6
	H25(4月)	68.7	69.9	70.9	66.1	66.5	68.3	4.8
小学6年生	H26[12月]	64.4	64.0	67.2	63.7	63.1	63.2	縮 4.1
	H25(4月)	58.0	57.0	60.0	55.2	59.1	59.3	4.8
中学1年生	H26[12月]	46.9	47.9	47.9	43.1	47.2	46.2	縮 4.8
	H25(4月)	59.6	60.8	62.1	58.1	57.7	56.6	5.5
中学2年生	H26[12月]	44.3	45.4	44.2	41.3	45.4	44.2	縮 4.1
	H25(4月)	53.1	53.5	55.4	50.4	53.2	50.2	5.2

【グラフ3】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(社会)
(十分達成=1.00)



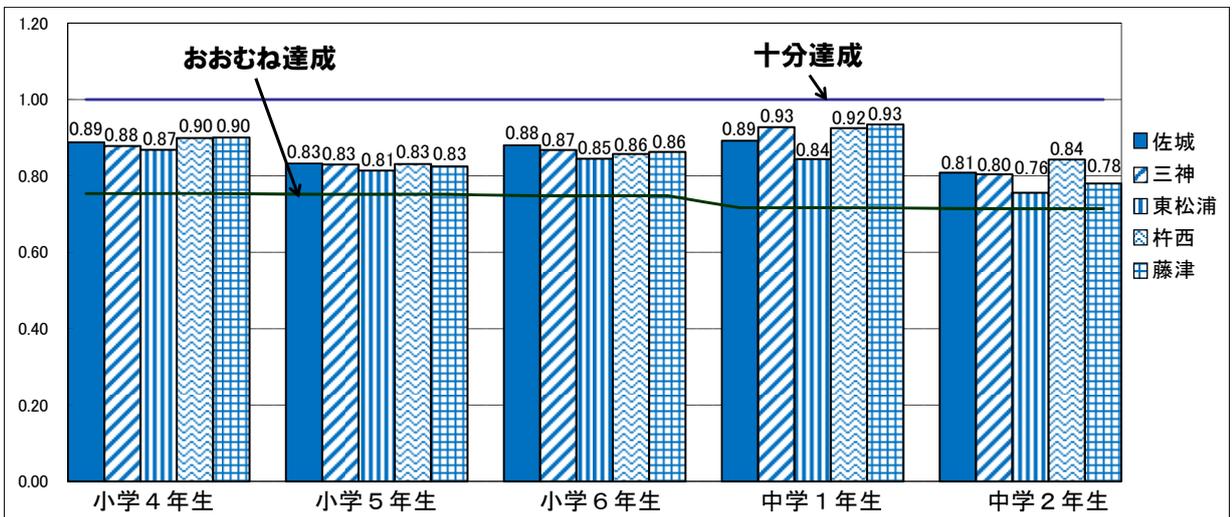
(3) 算数・数学

- 県内5地域の教科正答率は【表5】のとおりである。[4月調査]を実施していない小学4年生を除く4学年中2学年において、[4月調査]と比べて地域差が拡大した。
(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回った。【グラフ4】

【表5】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
小学4年生	H26[12月]	71.9	72.1	71.3	70.5	73.0	73.1	2.6
	H26[4月]	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	66.8	67.1	66.9	65.6	67.0	66.5	縮 1.5
	H26[4月]	59.7	59.8	60.3	57.7	60.9	58.4	3.2
小学6年生	H26[12月]	68.8	69.9	68.9	67.1	68.1	68.5	縮 2.8
	H26[4月]	69.9	70.4	71.0	68.1	68.9	70.2	2.9
中学1年生	H26[12月]	63.7	62.9	65.4	59.5	65.2	65.9	拡 6.4
	H26[4月]	70.5	70.2	72.0	68.9	70.9	70.5	3.1
中学2年生	H26[12月]	56.2	56.6	56.3	52.9	59.0	54.6	拡 6.1
	H26[4月]	47.3	48.3	47.6	44.3	49.3	44.4	5.0

【グラフ4】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(算数・数学)
(十分達成=1.00)



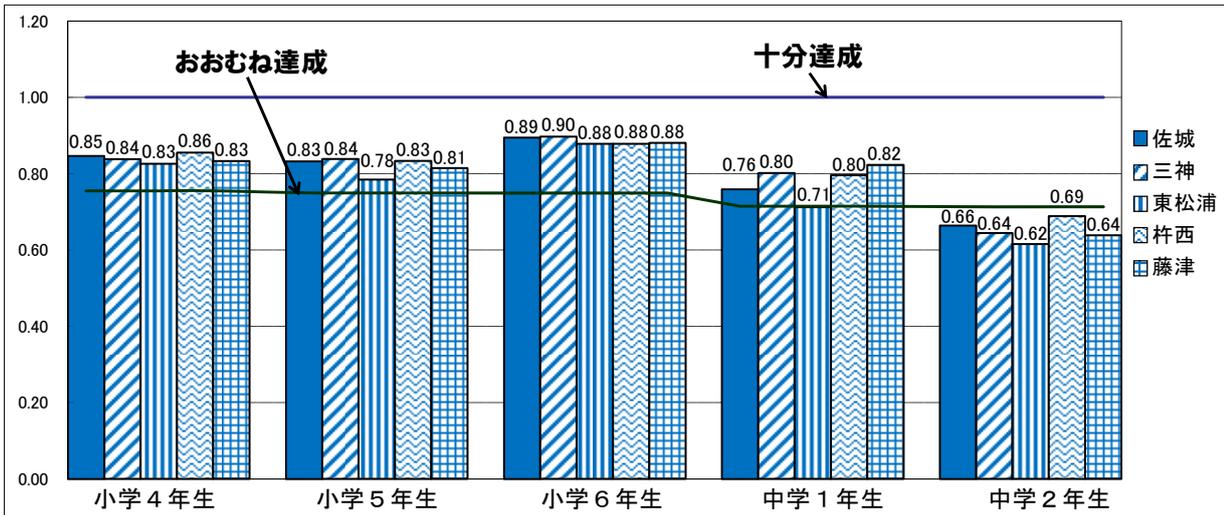
(4) 理科

- 県内5地域の教科正答率は【表6】のとおりである。平成25年度(4月実施)調査を実施していない小学4年生を除く4学年中3学年において、平成25年度(4月実施)調査と比べて地域差が拡大した。(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、小学校で「おおむね達成」の基準を上回った。中学校では、中学2年生において、5地域とも「おおむね達成」の基準を下回った。【グラフ5】

【表6】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H26[12月]	68.6	69.0	68.3	67.3	69.7	67.9	2.4
	H25(4月)	-	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H26[12月]	65.8	66.4	66.9	62.6	66.5	65.0	拡 4.3
	H25(4月)	63.4	64.5	64.5	61.0	62.0	63.9	3.5
小学6年生	H26[12月]	70.8	71.3	71.5	70.0	70.0	70.2	縮 1.5
	H25(4月)	58.0	58.1	60.4	54.6	58.4	57.1	5.8
中学1年生	H26[12月]	54.2	53.2	56.2	49.9	55.8	57.7	拡 7.8
	H25(4月)	61.3	62.2	62.9	58.1	62.2	58.6	4.8
中学2年生	H26[12月]	45.6	46.3	44.9	42.9	48.0	44.5	拡 5.1
	H25(4月)	47.5	49.7	48.9	45.1	45.2	45.0	4.7

【グラフ5】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(理科)
(十分達成=1.00)



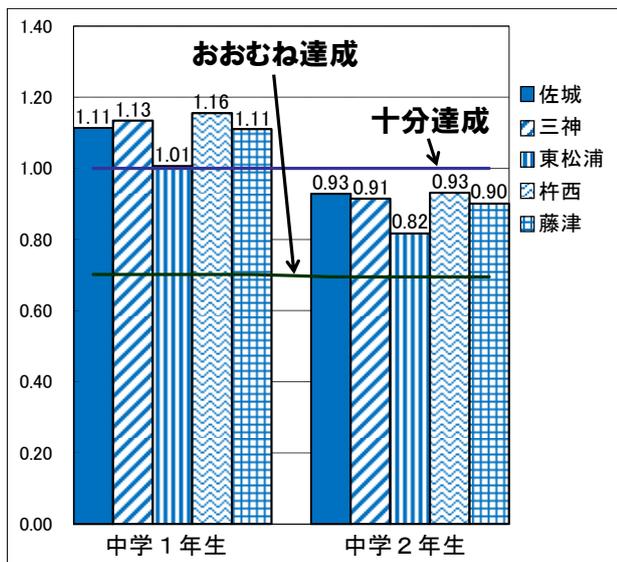
(5) 英語

- 県内5地域の教科正答率は【表7】のとおりである。平成25年度(4月実施)調査において対象教科となっていない中学1年生を除くと、中学2年生において、平成25年度(4月実施)調査と比べて地域差が拡大した。
(「地域差」は、地域別教科正答率の最大値と最小値の差を表す。)
- 教科正答率の到達基準に対する到達状況は、5地域とも、どちらの学年も「おおむね達成」の基準を上回り、中学1年生では、「十分達成」の基準を上回った。【グラフ6】

【表7】 県内5地域における学年別の教科正答率

学年	実施時期	県教科 正答率(%)	地域別教科正答率(%)					地域差
			佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
中学1年生	H26[12月]	74.3	74.6	76.0	67.4	77.4	74.4	10.0
	H25(4月)	-	-	-	-	-	-	-
中学2年生	H26[12月]	59.3	60.9	60.0	53.6	61.1	59.1	拡 7.5
	H25(4月)	60.2	61.7	61.6	58.1	59.4	55.8	5.9

【グラフ6】 県内5地域における学年別の教科正答率の「十分達成」に対する到達状況(英語)
(十分達成=1.00)



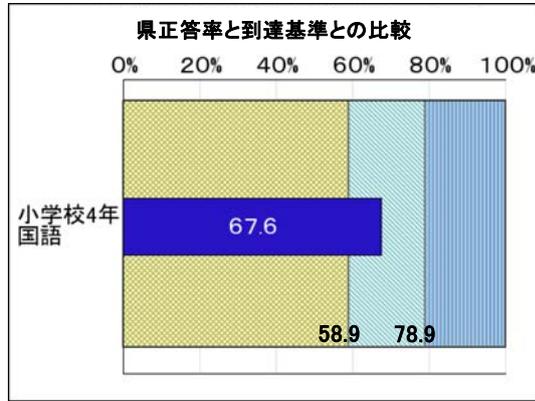
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

1 小学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

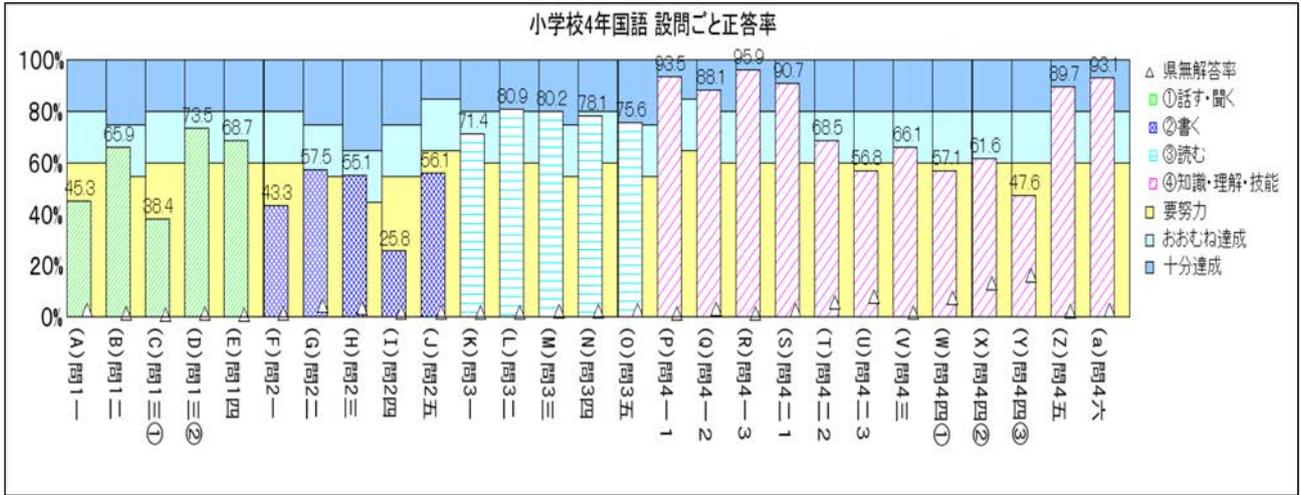
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	(漢字的な書き文化) (漢字的な読み文化)	(伝統的な言語文化) (伝統的な話し文化)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式						
1	一	適切な言葉遣いで話す	○				○				○			80	60	45.3	2.5	●
1	二	目的に応じて、事例などを挙げ工夫して話す	○				○				○			75	55	65.9	1.2	
1	三①	聞き手の反応を見ながら話す	○				○				○			80	60	38.4	0.9	●
1	三②	間を取って話す	○				○				○			80	60	73.5	1.3	
1	四	目的に応じて、筋道を立てて話す	○				○				○			80	60	68.7	0.7	
2	一	相手や目的に応じて、事柄のまとまりを意識して段落を構成する		○				○			○			80	60	43.3	1.1	●
2	二	文と文のつながりを考えて、一文を二文に書き換える		○			○	○			○			75	55	57.5	4.4	
2	三	メモを基に内容の中心を明確にして手紙を書く		○				○				○	○	65	45	55.1	3.6	
2	四	手紙の構成を理解し、後付けを書く		○				○			○			75	55	25.8	1.9	●
2	五	封筒の表書きに住所や宛名を正しい位置に書く		○				○			○			85	65	56.1	1.8	●
3	一	場面の移り変わりに注意しながら読む			○				○		○			80	60	71.4	1.7	
3	二	物語の上での登場人物の気持ちを捉える			○				○		○			80	60	80.9	1.7	◎
3	三	場面と場面とを関係付けて読む			○				○		○			75	55	80.2	2.0	◎
3	四	叙述を基に想像して読む			○				○		○			80	60	78.1	2.3	
3	五	相手や目的に応じ、本の紹介をする			○				○		○			75	55	75.6	2.5	◎
4	一①	文脈に即して、漢字を正しく読む「親友」			○					○		○		85	65	93.5	1.3	◎
4	一②	文脈に即して、漢字を正しく読む「整う」			○					○		○		80	60	88.1	3.0	◎
4	一③	文脈に即して、漢字を正しく読む「道路」			○					○		○		80	60	95.9	1.3	◎
4	二①	文脈に即して、漢字を正しく書く「走る」				○			○		○			80	60	90.7	2.5	◎
4	二②	文脈に即して、漢字を正しく書く「飲む」				○			○		○			80	60	68.5	5.5	
4	二③	文脈に即して、漢字を正しく書く「放送」				○			○		○			80	60	56.8	8.0	●
4	三	国語辞典の使い方を理解する						○			○	○		80	60	66.1	1.6	
4	四①	ローマ字を正しく書く「k o m e」						○			○			80	60	57.1	7.2	●
4	四②	ローマ字を正しく読む「しゃかい」						○			○			80	60	61.6	13.2	
4	四③	ローマ字を正しく読む「ばった」						○			○			80	60	47.6	16.1	●
4	五	修飾語を使って文を詳しくする						○			○			80	60	89.7	2.3	◎
4	六	へんとつくりについて理解する						○			○			80	60	93.1	2.4	◎

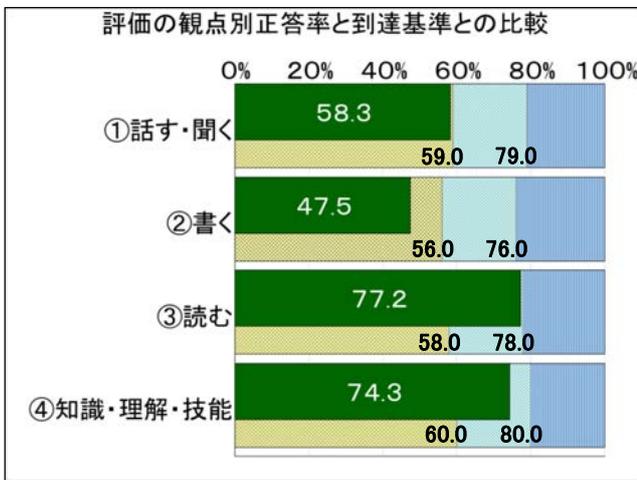
○ 設問ごと正答率



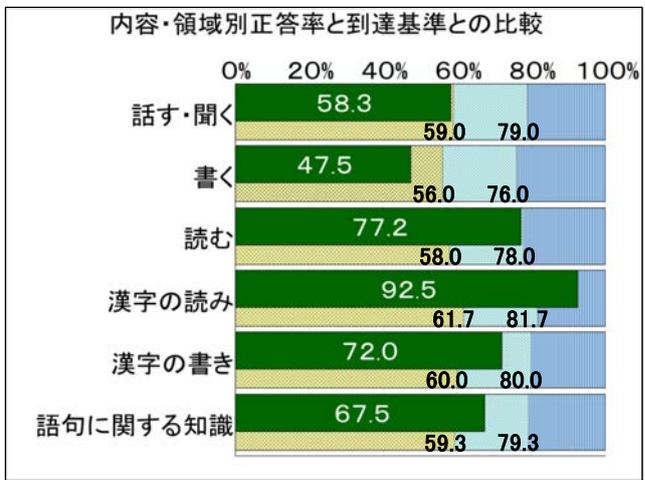
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

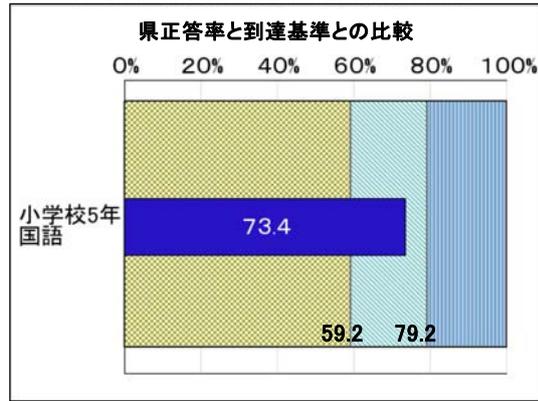


○ 内容・領域別正答率



② 小学5年生

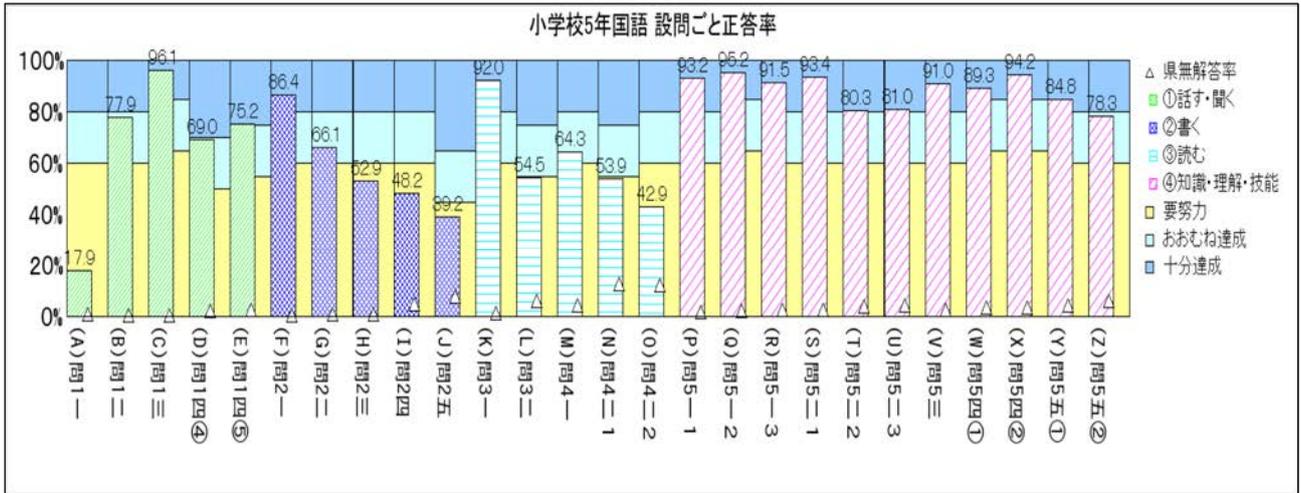
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝言・漢字の読み書き(漢字的な読み)	伝言・漢字の書き(漢字的な書き)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	理解・技能	選択式	短答式						
1	一	司会の役割を理解する	○				○				○			80	60	17.9	0.9	●
1	二	互いの考えの共通点や相違点を考える	○				○				○			80	60	77.9	0.5	
1	三	立場を明確にして話し合う	○				○				○			85	65	96.1	0.6	◎
1	四④	発言内容を簡潔にまとめる	○				○				○	○		70	50	69.0	2.1	
1	四⑤	発言内容を簡潔にまとめる	○				○				○	○		75	55	75.2	2.4	◎
2	一	目的や意図に応じて、簡単に書く		○				○			○			80	60	86.4	0.4	◎
2	二	自分の考えを明確に書くために、構成を考える		○				○			○			80	60	66.1	0.8	
2	三	目的や意図に応じて、工夫して書く		○				○			○			80	60	52.9	0.8	●
2	四	目的に応じて、適切な表現に書き直す		○				○			○			80	60	48.2	4.8	●
2	五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く		○				○			○	○		65	45	39.2	8.0	●
3	一	場面と場面を関係付けて読む			○				○		○			80	60	92.0	1.2	◎
3	二	場面についての描写を捉える			○				○		○			75	55	54.5	6.1	●
4	一	文章全体の構成を捉える			○				○		○			80	60	64.3	4.5	
4	二1	文章の内容を的確に捉える			○				○		○			75	55	53.9	12.6	●
4	二2	文章の内容を的確に捉える			○				○	○	○			80	60	42.9	12.2	●
5	一1	文脈に即して、漢字を正しく読む「配る」			○					○		○		80	60	93.2	1.9	◎
5	一2	文脈に即して、漢字を正しく読む「停車」			○					○		○		85	65	95.2	2.1	◎
5	一3	文脈に即して、漢字を正しく読む「冷ます」			○					○		○		80	60	91.5	2.4	◎
5	二1	文脈に即して、漢字を正しく書く「世界」				○				○		○		80	60	93.4	2.6	◎
5	二2	文脈に即して、漢字を正しく書く「熱い」				○				○		○		80	60	80.3	4.1	◎
5	二3	文脈に即して、漢字を正しく書く「便利」				○				○		○		80	60	81.0	4.5	◎
5	三	漢字辞典の使い方を理解する							○		○	○		80	60	91.0	2.6	◎
5	四①	同音・同訓の漢字を正しく使う「屋」							○		○	○		85	65	89.3	3.3	◎
5	四②	同音・同訓の漢字を正しく使う「夜」							○		○	○		85	65	94.2	3.3	◎
5	五①	接続語を使って二文を一文にする							○		○			80	60	84.8	4.5	◎
5	五②	接続語を使って一文を二文にする							○		○			80	60	78.3	5.9	

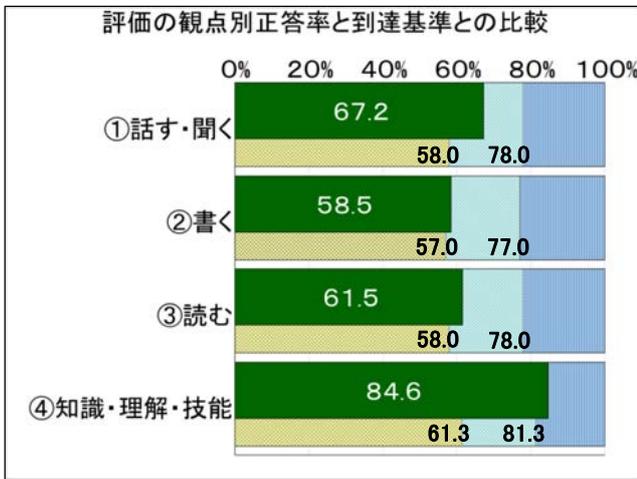
○ 設問ごと正答率



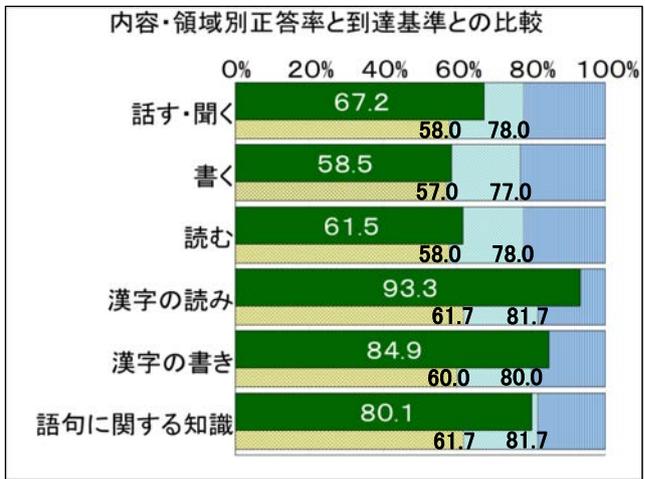
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

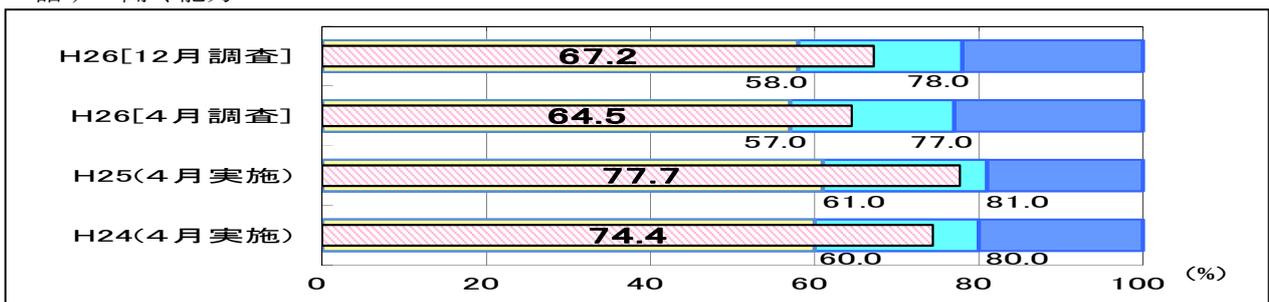


○ 内容・領域別正答率

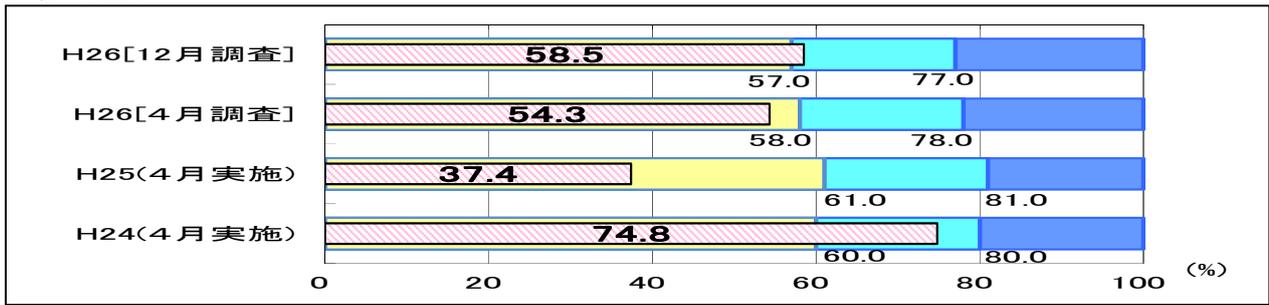


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

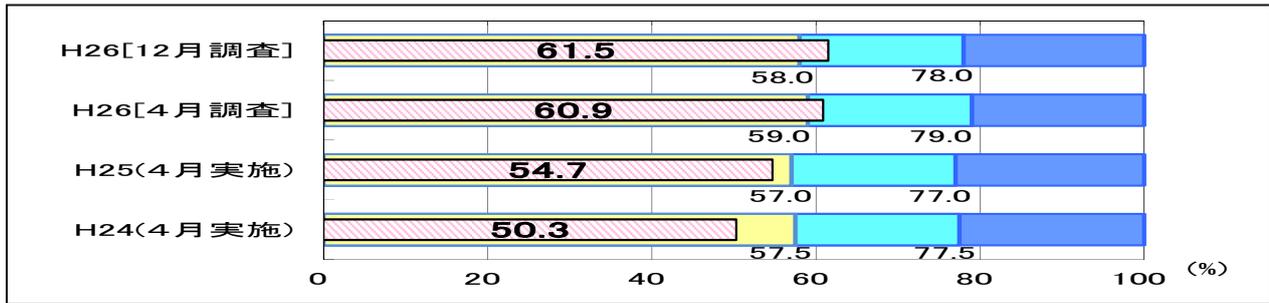
話す・聞く能力



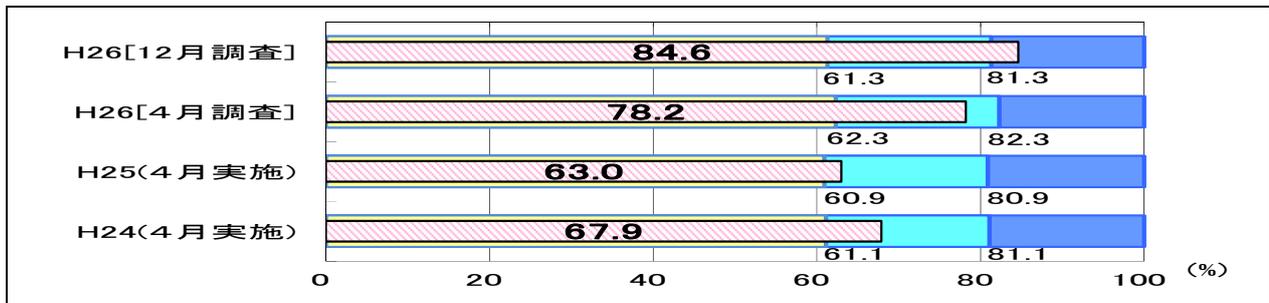
書く能力



読む能力

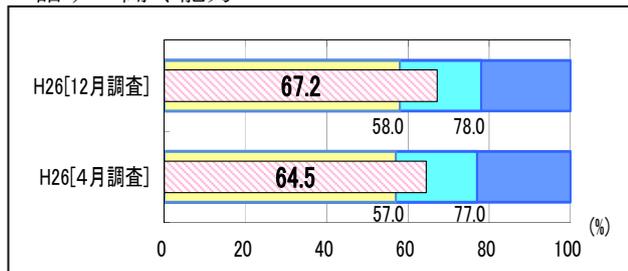


言語についての知識・理解・技能

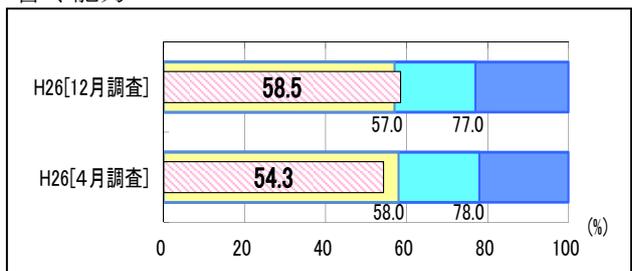


○ 評価の観点別正答率の推移(同一児童)

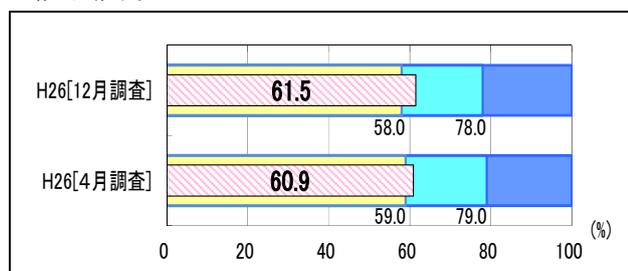
話す・聞く能力



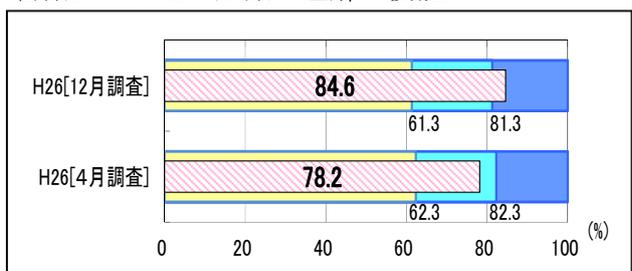
書く能力



読む能力

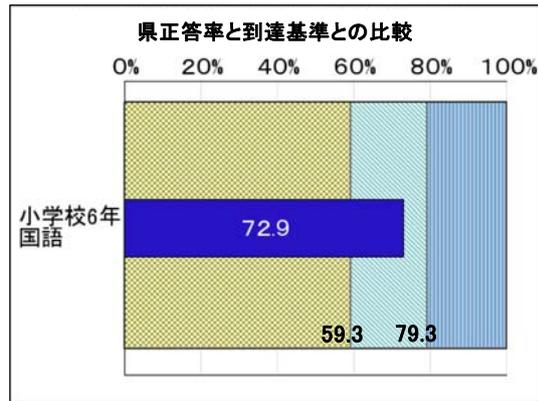


言語についての知識・理解・技能



③ 小学6年生

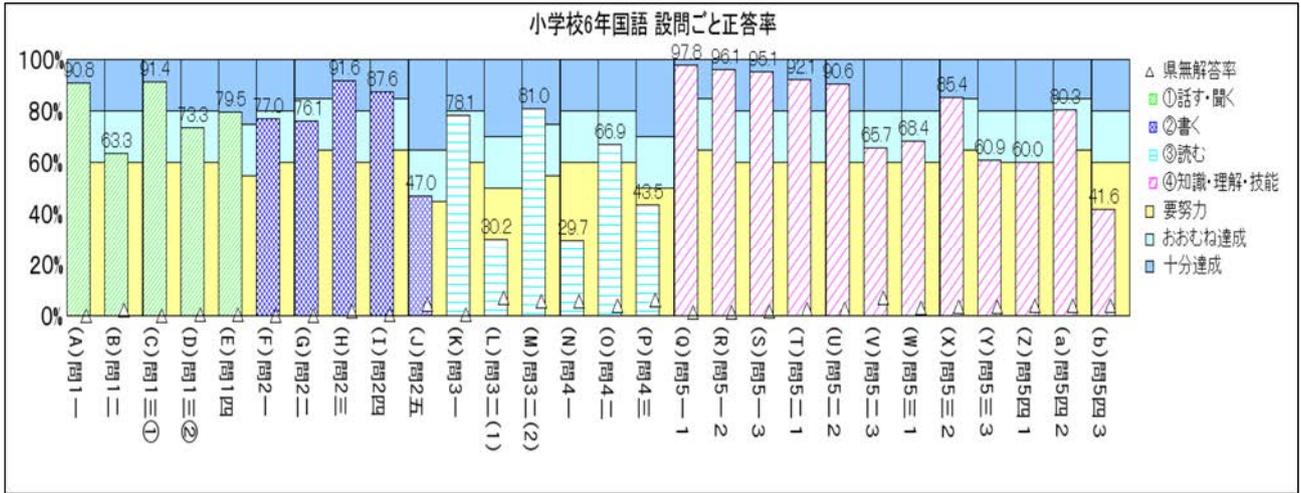
○ 教科全体正答率



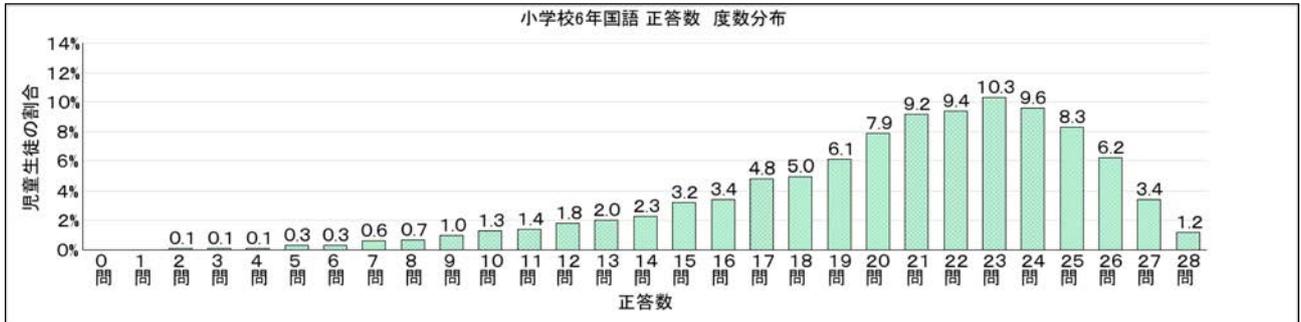
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	選択式	短答式	記述式						
1	一	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の内容を工夫する	○			○			○			80	60	90.8	0.1	◎
1	二	メモを自分の考えに生かす	○			○			○			80	60	63.3	2.1	
1	三①	立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う	○			○			○			80	60	91.4	0.1	◎
1	三②	立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う	○			○			○			80	60	73.3	0.4	
1	四	話し手の意図を捉え、自分の意見と比べ考えをまとめる	○			○			○		○	75	55	79.5	0.3	◎
2	一	目的や意図に応じて、記述の仕方を工夫する		○			○		○			80	60	77.0	0.2	
2	二	事実を整理して、適切な見出しを書く		○			○		○			85	65	76.1	0.2	
2	三	文章の間違いを正す		○			○		○			80	60	91.6	1.8	◎
2	四	自分の考えが伝わるように、図表やグラフを用いる		○			○		○			85	65	87.6	0.4	◎
2	五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く		○			○		○	○		65	45	47.0	4.4	
3	一	場面についての描写を捉える			○				○			80	60	78.1	0.5	
3	二(1)	人物の相互関係や場面についての描写を捉える			○				○		○	70	50	30.2	6.8	●
3	二(2)	伝記に描かれた人物の思いや願いを捉える			○				○		○	75	55	81.0	5.7	◎
4	一	文章の内容を的確に捉える			○				○			80	60	29.7	5.6	●
4	二	構成の仕方や巧みな叙述などを捉える			○				○			80	60	66.9	3.8	
4	三	文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える			○				○	○		70	50	43.5	6.2	●
5	一1	文脈に即して、漢字を正しく読む「浴びる」			○				○			85	65	97.8	1.2	◎
5	一2	文脈に即して、漢字を正しく読む「逆らう」			○				○			80	60	96.1	1.4	◎
5	一3	文脈に即して、漢字を正しく読む「規則」			○				○			80	60	95.1	1.9	◎
5	二1	文脈に即して、漢字を正しく書く「働く」				○			○			80	60	92.1	2.5	◎
5	二2	文脈に即して、漢字を正しく書く「血液」				○			○			80	60	90.6	2.4	◎
5	二3	文脈に即して、漢字を正しく書く「永久」				○			○			80	60	65.7	7.1	
5	三1	熟語の構成について理解する						○	○			80	60	68.4	3.2	
5	三2	熟語の構成について理解する						○	○			85	65	85.4	3.3	◎
5	三3	熟語の構成について理解する						○	○			80	60	60.9	3.6	◎
5	四1	漢字の由来について理解する						○	○			80	60	60.0	4.1	
5	四2	漢字の由来について理解する						○	○			85	65	80.3	4.0	
5	四3	漢字の由来について理解する						○	○			80	60	41.6	4.1	●

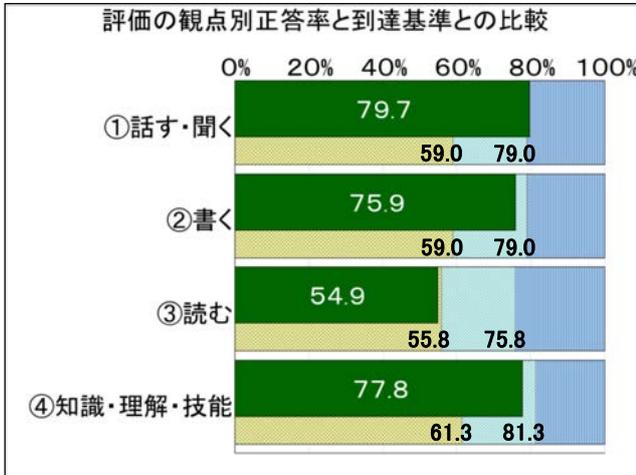
○ 設問ごと正答率



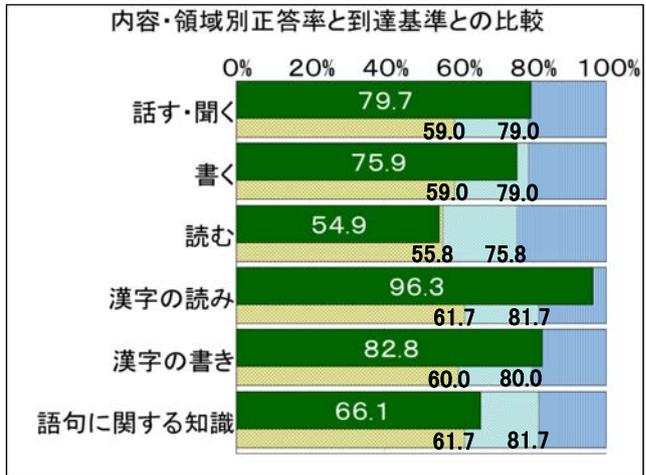
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

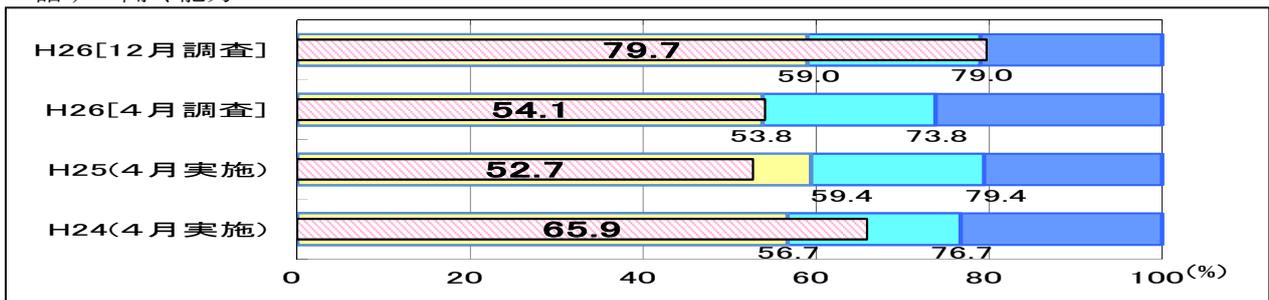


○ 内容・領域別正答率

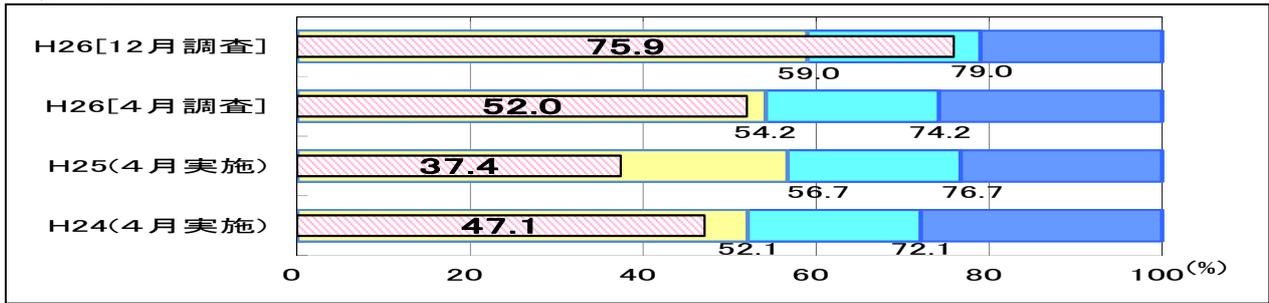


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

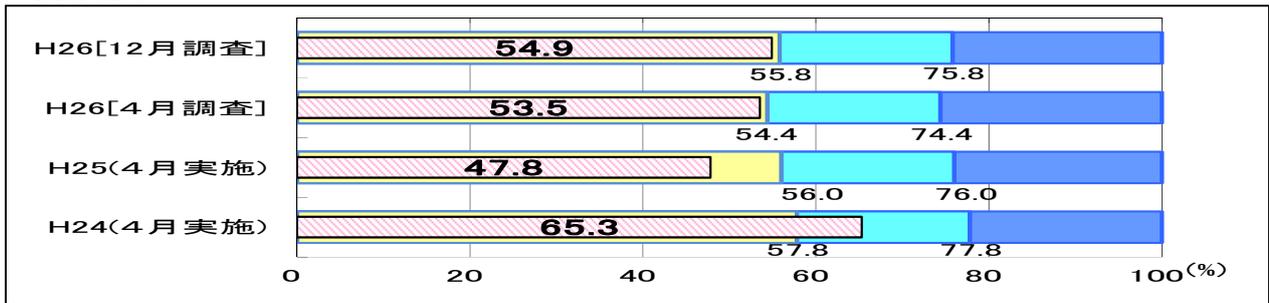
話す・聞く能力



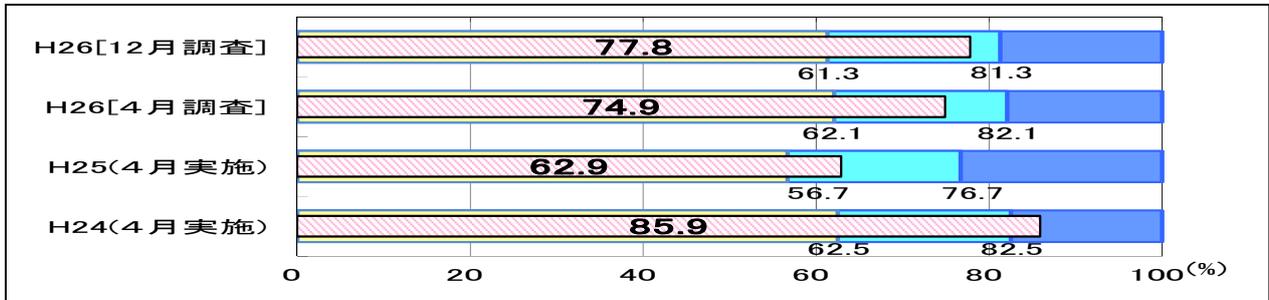
書く能力



読む能力

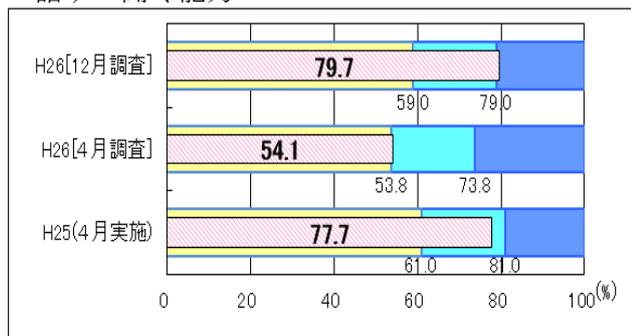


言語についての知識・理解・技能

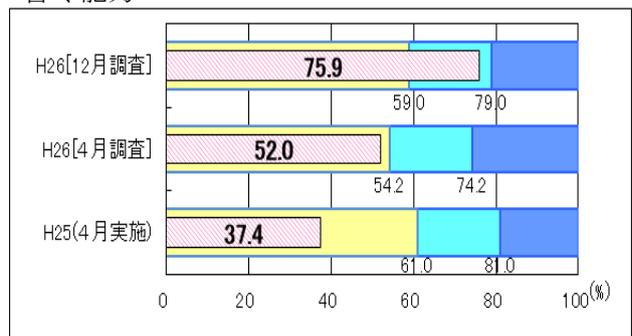


○ 評価の観点別正答率(同一児童)

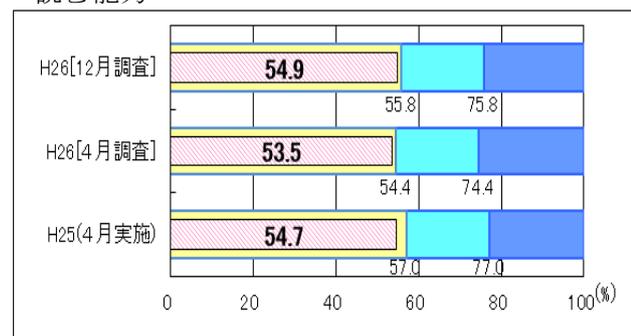
話す・聞く能力



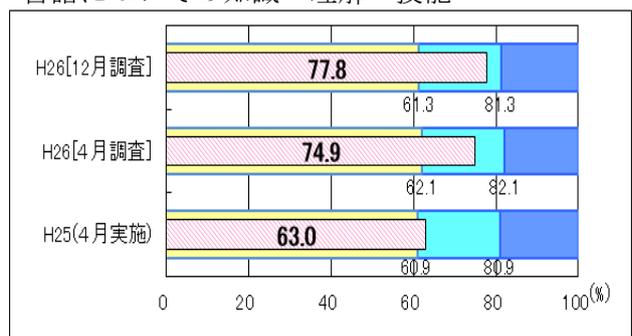
書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 小学校全体

- 教科全体正答率を見ると、全ての学年において、「おおむね達成」の到達基準を上回った。
- 評価の観点別正答率を見ると、「言語についての知識・理解・技能」については、全ての学年で「おおむね達成」の到達基準を上回った。特に、小学5年生においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- 内容・領域別正答率を見ると、[4月調査]に引き続き「漢字の読み」において「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- [4月調査]小学5年生において課題として挙げられていた「複数の条件に合わせて書く」ことについては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っている設問があり、引き続き課題が見られた。

② 小学4年生

- 文学的な文章については、「登場人物の心情を捉える」ことや「場面と場面とを関係付けて読む」ことを問う設問において、「十分達成」の期待正答率を上回っていた。
- 内容・領域「話すこと・聞くこと」については、「適切な言葉遣いで話す」ことを問う設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1一	適切な言葉遣いで話す (短答式)	伝聞の表現に書き直す。	45.3	2.5	80.0	60.0

・ 解答状況

問1一は、スピーチの原稿にある「大泣きしました。」を伝聞の表現に書き直す設問であった。「大泣きしました。」の文の前後に「～そうです。」と伝聞の表現が使われている文があるが、聞いたことを適切に表現する力が付いていないのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

相手や目的に応じて、適切な表現で話すことを日頃から意識させることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

㊦ 相手や目的に応じて適切な表現を使い分けることを、発表の原稿を準備する段階でも意識させるために、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」において、相手や目的に応じ理由や事例を挙げて話したり、書いたりさせる等の関連した指導をする。

㊧ 友達のスピーチを聞く際に、聞く観点(話の順序、組み立て、要点、表現、話し方等)を明確にさせる。児童相互で聞き合った後に、感想や意見を述べたり、質問をしたりして、最終的にはよりよいスピーチとなるように、互いに助言をさせ合うようにする。

- 内容・領域「書くこと」については、「手紙を書く」ために必要な構成、後付けや表書きの理解を問う設問において「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、「手紙を書く」ことには課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2一	相手や目的に応じて、事柄のまとまりを意識して段落を構成する (選択式)	お礼の手紙を書くときの手紙の構成を選択する。	43.3	1.1	80.0	60.0

- ・ 解答状況
問2一は、手紙の構成を問う設問であった。問われている内容とお礼の手紙とを対応させて考えることができなかつたのではないかと、また、選択肢エの「相手の体を気づかう言葉」が手紙の中のどの言葉になるのかが分からなかつたのではないかと推察される。
- ・ 改善・充実に向けて
他教科・領域等の学習とも関連させ、意図的に、目的に合わせて手紙を書く場面を設定する必要がある。
㊦ 依頼状、案内状や礼状など、目的に合わせて実用的な文章としての手紙を書く活動を取り入れる。
㊧ モデルとなる書き方(文章、後付け、表書きなど)を提示し、まねて書いたり、書き換えたりする学習を授業に取り入れる。

④ 小学5年生

- 全ての評価の観点において、「おおむね達成」の到達基準を上回った。特に、「言語についての知識・理解・技能」においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- 「目的や意図に応じて、条件に合わせて書く」ことや「目的に応じて適切な表現に書き直したり、工夫して書いたりする」ことについて問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、[4月調査]から引き続き課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く (記述式)	取材メモを基に、新聞の記事を書く。	39.2	8.0	65.0	45.0

- ・ 解答状況
問2五は、取材メモを基に条件に合わせて新聞記事を書く設問であった。設問の中で新聞記事を書くときの条件は、①3文に分けること、②文末表現を常体にするものの2点であるが、3つの文の内容にも条件があり、詳しく見ると4つの条件に合わせて書かなければならない。取材メモには、箇条書きで簡単に示されている。それらの内容をまとめたり、引用したりしながら、記事の文章にすることは、難しかったのではないかと推察される。また、条件の1つである「まとめる」「引用する」ことの意味の理解が不十分であったのではないかと推察される。
- ・ 改善・充実に向けて
新聞は、目的に応じて記事を選んで読んだり、分析的に読んだり、比べて読んだりすることが大切である。そのことにより、自分の考えを広げたり、深めたりする態度を育てることが重要である。具体的には、次のような指導が効果的である。
㊦ 主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係を捉えながら、メモの内容を文章にさせることや、引用の意味と書き方をモデル文で示しながら指導していく。
㊧ 新聞を読む能力と書く能力を連動させながら系統的に指導していく。
- 内容・領域「読むこと」においては、「文章の内容を的確に捉える」ことについて問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4 二2	文章の内容を的確に捉える (短答式)	説明的な文章の中から適切な接続語を選び、それを用いてカードにまとめる。	42.9	12.2	80.0	60.0

・ 解答状況

説明的な文章をカードにまとめる際、文章の内容を表現に即して的確に捉えることが大切となる。問4二2は、本文中の接続語の中から適切な接続語を選ばなければならないが、接続語の役割の理解が十分ではなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

内容・領域における「読むこと」の説明的な文章の解釈に関する指導は、「書くこと」の「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」と関連付けるとよい。具体的には次のような指導が効果的である。

- ㊦ 中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりして、内容を整理させる。
- ㊧ [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと」と関連付け、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませる。

⑤ 小学6年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」の内容においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- 内容・領域「読むこと」については、「文章の内容を的確に捉える」ことを問う設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4一	文章の内容を的確に捉える (短答式)	説明的な文章の中の序論の内容を捉え、キーワードを見つける。	29.7	5.6	80.0	60.0

・ 解答状況

問4は、説明的な文章の設問である。序論では問題提起をし、本論で4つのロボットの例を挙げている。結論で、筆者のロボットに対する考えを述べている。小問一は、「目的」と「役割」という2つのキーワードを捉える設問である。そのためには、本文中「このように・・・」と4つの例をまとめた段落の内容を捉えることが必要となるが、その段落の内容や文章全体の構成の理解が十分ではなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

文章の内容を的確に押さえるためには、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意することが大切である。そのためには、具体的に次のような指導が効果的である。

- ㊦ 事実と感想、意見などとの関係を捉え文章全体の構成を把握させる。
- ㊧ [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと」と関連付け、指示語や接続語に注意して読ませる。指示語や接続語は、文や文章の構成に関わり、文章の論理的な関係を構築する上で、大切な役割を果たしている。読みの指導においては、文相互の関係とともに、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとして、指導する。

- 内容・領域「読むこと」については、「文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える」ことを問う設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4三	文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える。 (記述式)	筆者の考え(要旨)を、条件に合わせて書く。	43.5	6.2	70.0	50.0

- ・ 解答状況

問4三の筆者の考え(要旨)を書くときの条件は、①筆者の考えに合わせる、②「ロボットに任せる」という言葉を使うことの2点である。問い掛けに対する筆者の考え(要旨)が書かれた段落は捉えられても、筆者の考え(要旨)を、条件に合わせて書くことが難しかったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

説明的文章における筆者の考え(要旨)を書かせる際に、条件を付けて書かせたり、キーワードを用いてまとめさせたりする学習活動を繰り返し行っていくことが大切である。

(3) 改善のポイント

① 表現の仕方に注目して、読みを深めさせる指導を工夫する

- ・ 説明的な文章において、書き手は自分の主張を効果的に伝えるために、書き出しや文末表現、内容構成などを工夫している。このような表現の工夫を捉えながら、文章の要旨や内容を的確に捉えさせていくことが大切である。
- ・ 文学的な文章において、登場人物の心情は直接的に描写されている場合もあるが、行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されているものもある。このような表現の工夫にも注意し、想像を豊かにしながら読ませることが大切である。

② 領域を相互に関連付けた指導を工夫する

- ・ 領域を関連付けて指導することで、より高い指導の効果を得られる場合がある。それぞれの指導のねらいに応じて、複合的な単元計画を工夫することが必要である。
- ・ 「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を関連付けた指導においては、例えばスピーチのメモや取材のメモなど目的に応じたメモの書き方を具体的に学習する時間を単元の中に位置付ける。
- ・ 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導においては、目的に応じて読んだことをまとめさせる活動を取り入れる。また、書いたことを交流させ、読みを深めさせることも大切である。

③ 条件に合わせて考えをまとめさせる活動を工夫する

- ・ 単元の指導事項に応じ、適切な条件(字数・キーワード・引用など)に合わせて書く活動を繰り返し取り入れる。
- ・ モデル文を示し、モデル文のよい点や不完全な点を考えさせる。それを基に、書くときの視点に気付かせる。また、児童の実態に合わせ、モデルを参考にして書かせる学習を取り入れる。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、授業に役立つ実践研究として、国語科の「学習プリント」や「授業指導案」を提供しています。国語の授業や国語に関するスキルタイム、家庭学習などで使用することを目的としたプリントです。基礎・基本的な力を身に付けるプリントや、身に付けた知識・技能を学校生活や日常生活場面で活用する力を付けるためのプリントがあります。

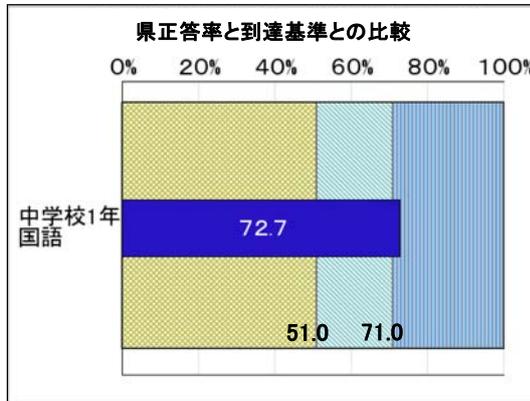
ぜひ、ご活用ください。

2 中学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

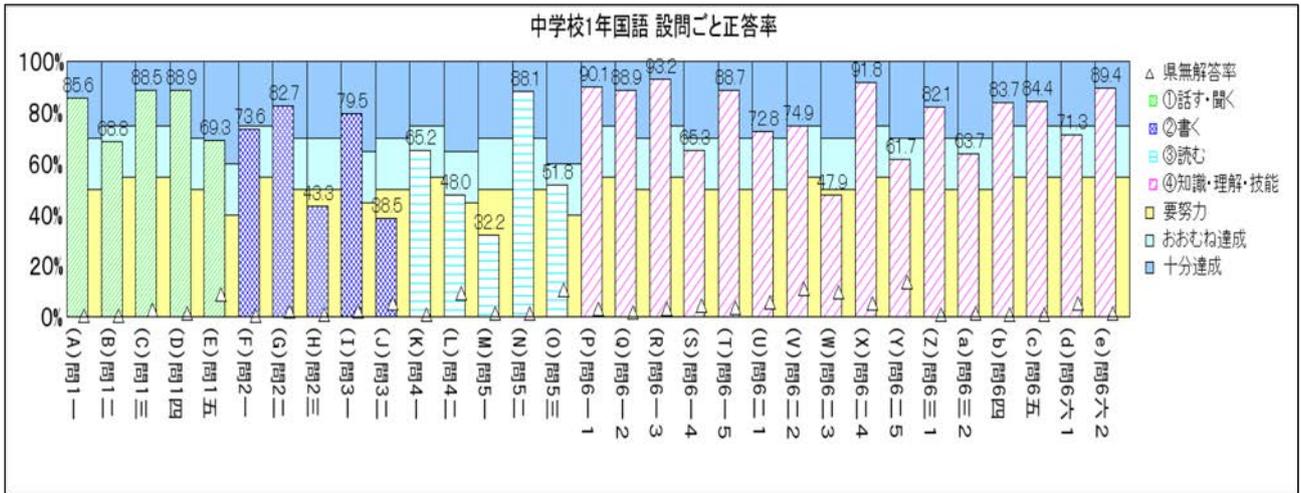
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと (漢字的な言語文化)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・技能	選択式	短答式						記述式
1	一	相手の話をしっかりと聞き、メモを取る	○			○			○			70	50	85.6	0.4	◎
1	二	相手の話をしっかりと聞き、必要に応じて質問する	○			○			○			75	55	68.8	0.4	
1	三	相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す	○			○				○		75	55	88.5	2.8	◎
1	四	全体と部分との関係に注意して話を構成して話す	○			○			○			70	50	88.9	1.4	◎
1	五	伝えたいことを明確にし、組立てを工夫して話す	○			○				○		60	40	69.3	8.7	◎
2	一	伝えたい事実を目的に応じて書く		○			○			○		75	55	73.6	0.6	
2	二	材料を基に、相手意識を明確にして書く		○			○			○		70	50	82.7	2.3	◎
2	三	材料を整理するとともに、項目の役割を構成する		○			○			○		70	50	43.3	0.8	●
3	一	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		○			○			○	○	65	45	79.5	2.2	◎
3	二	図と文章を照らし合わせて、分かりやすい文章に書き換える		○			○			○		70	50	38.5	5.3	●
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する		○				○		○		75	55	65.2	1.0	
4	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要旨を捉える		○				○		○		65	45	48.0	9.1	
5	一	比喻などの表現技法を理解している		○				○		○		70	50	32.2	1.4	●
5	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する		○				○		○		70	50	88.1	1.2	◎
5	三	文章に表れている考え方を捉え、自分の考えをもつ		○				○		○	○	60	40	51.8	10.6	
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・日常生活)「日射」			○				○		○	75	55	90.1	3.0	◎
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字・同訓異字)「収まる」			○				○		○	70	50	88.9	1.7	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「度胸」			○				○		○	75	55	93.2	3.1	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・同じ意味を持つ語)「絵画」			○				○		○	70	50	65.3	4.5	
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「今朝」			○				○		○	70	50	88.7	3.4	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語・日常生活)「服装」				○			○		○	70	50	72.8	5.8	◎
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「困る」				○			○		○	75	55	74.9	11.0	
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「専門」				○			○		○	70	50	47.9	9.7	●
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「忘れる」				○			○		○	75	55	91.8	5.2	◎
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「看病」				○			○		○	70	50	61.7	13.6	
6	三1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(言葉の単位)					○		○	○		70	50	82.1	1.0	◎
6	三2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の働き)					○		○	○		70	50	63.7	1.5	
6	四	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(同訓異字)					○		○	○		75	55	83.7	1.0	◎
6	五	総画数について理解している					○		○	○		75	55	84.4	1.0	◎
6	六1	歴史的仮名遣いについて理解している					○		○	○		75	55	71.3	5.1	
6	六2	故事成語について理解している					○		○	○		75	55	89.4	1.5	◎

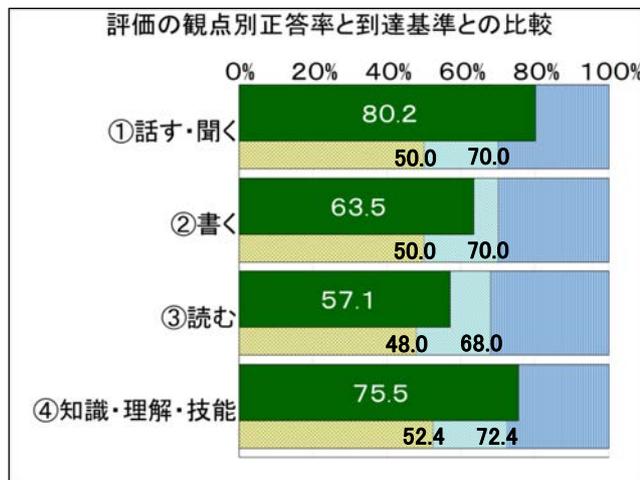
○ 設問ごと正答率



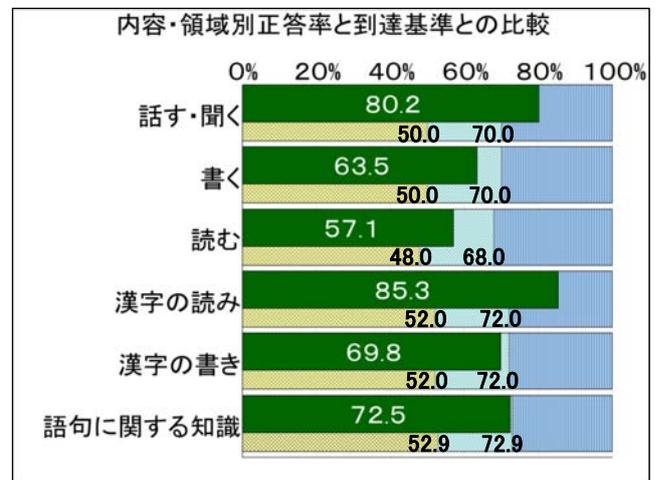
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率



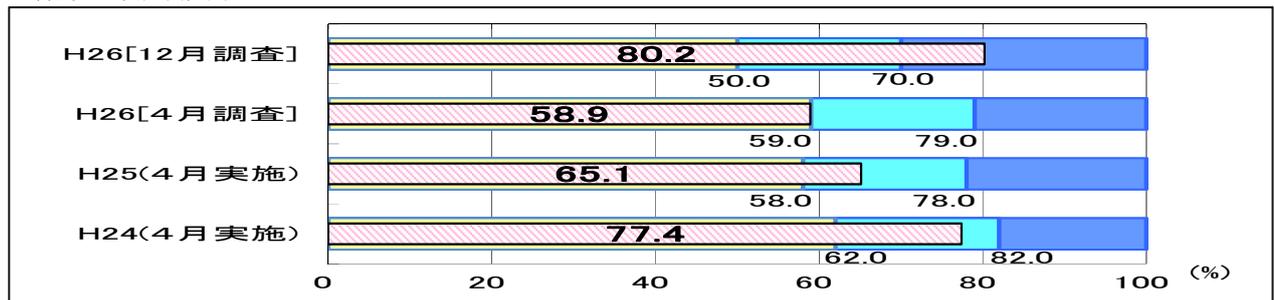
○ 内容・領域別正答率



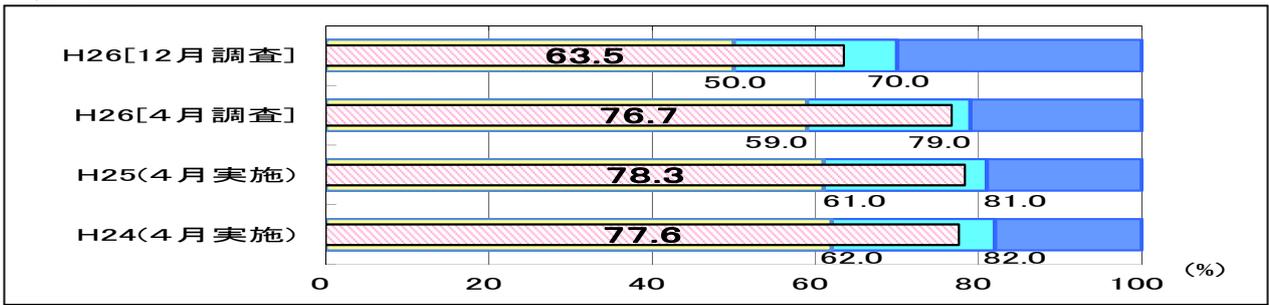
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までは、小学6年生までの内容で調査。

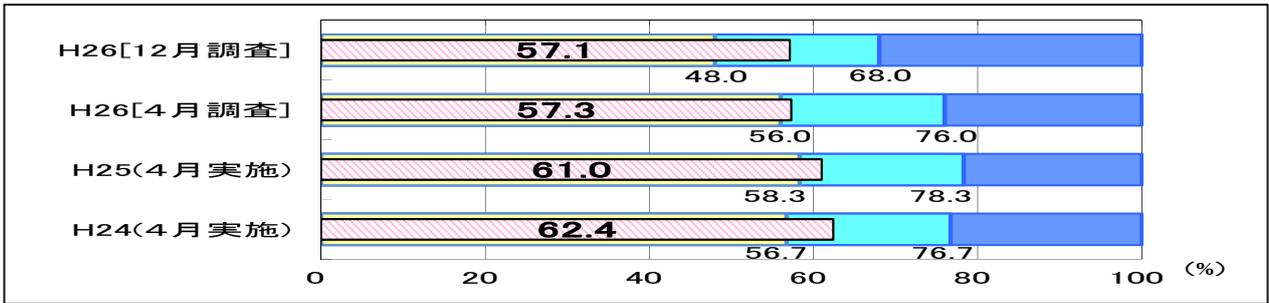
話す・聞く能力



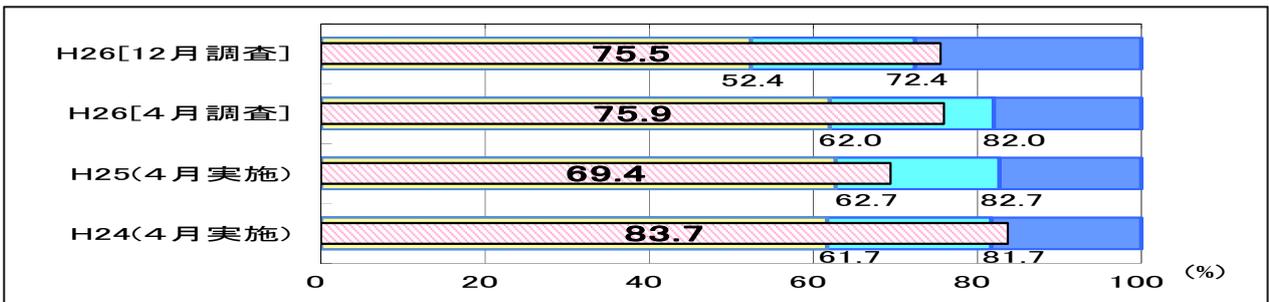
書く能力



読む能力



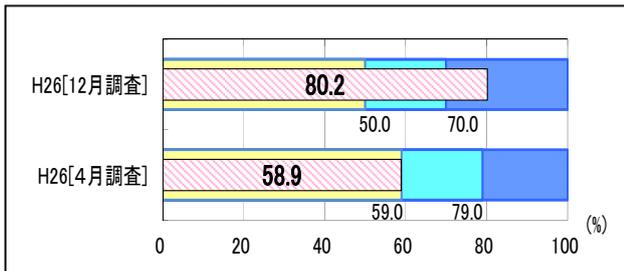
言語についての知識・理解・技能



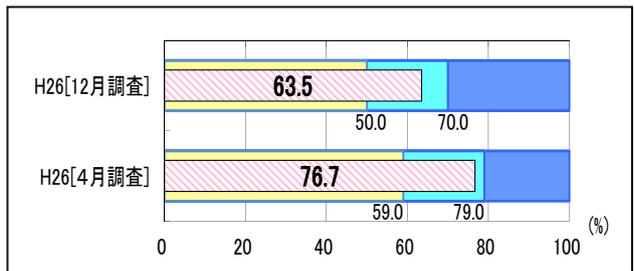
○ 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

※ 平成26年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

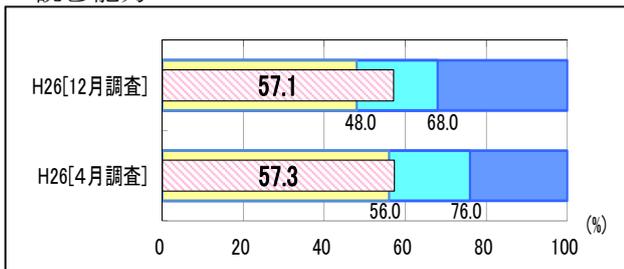
話す・聞く能力



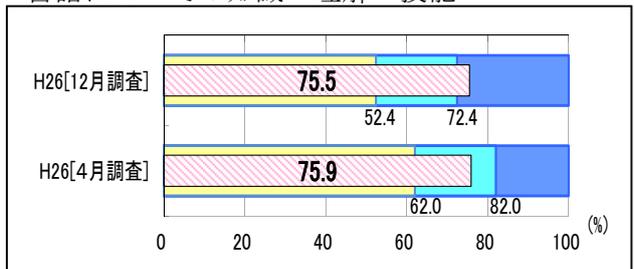
書く能力



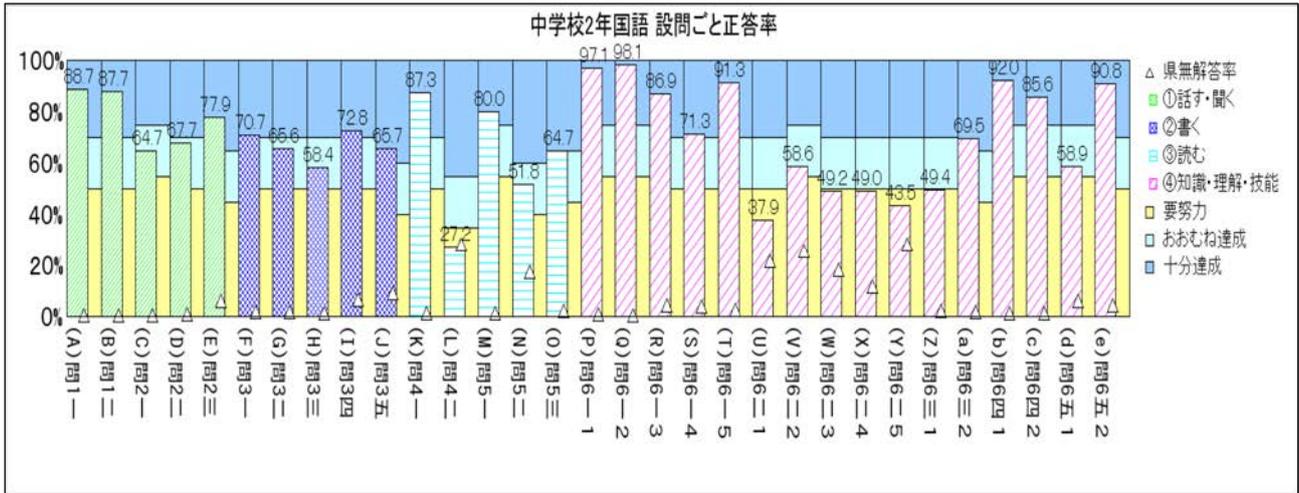
読む能力



言語についての知識・理解・技能



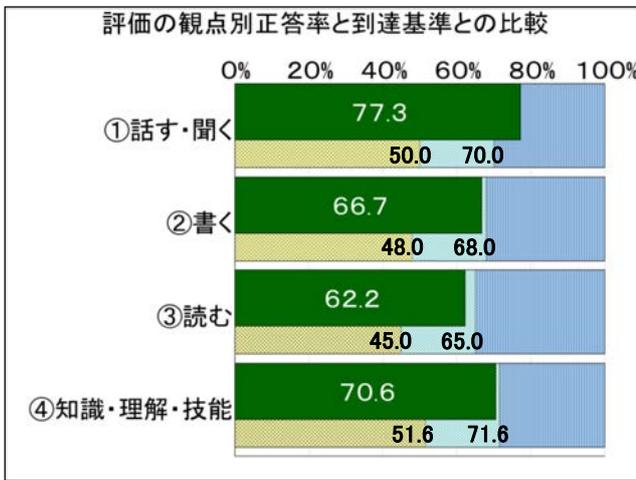
○ 設問ごと正答率



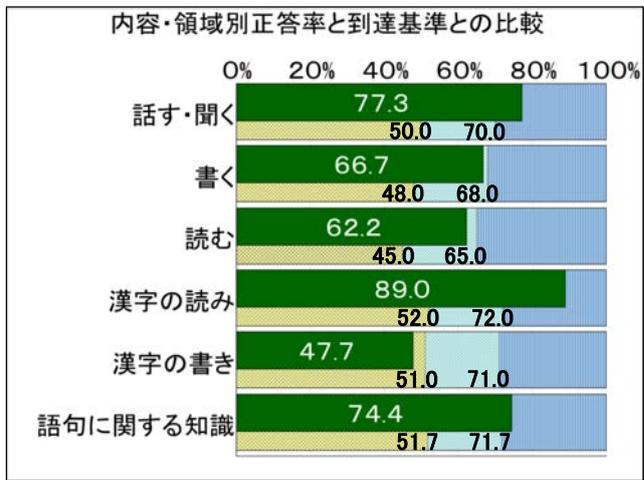
○ 教科正答数度数分布



○ 観点別正答率



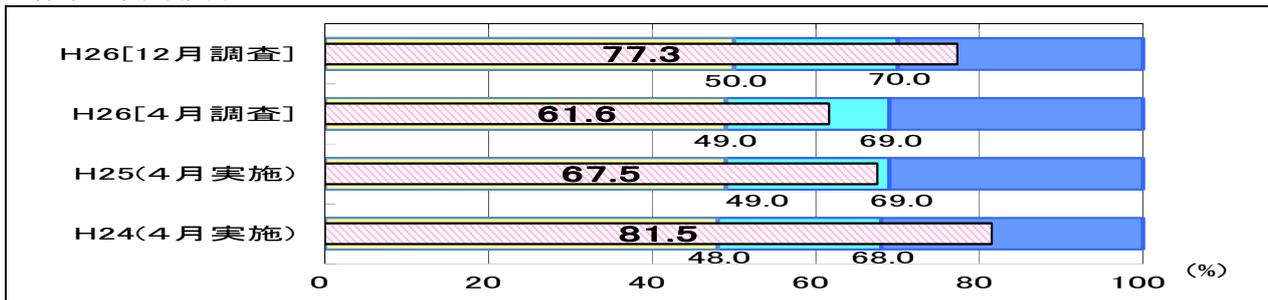
○ 内容・領域別正答率



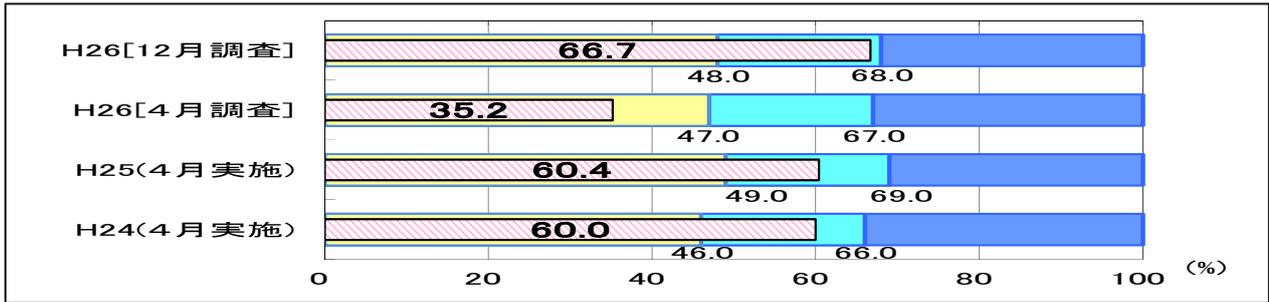
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までは、中学1年生までの内容で調査。

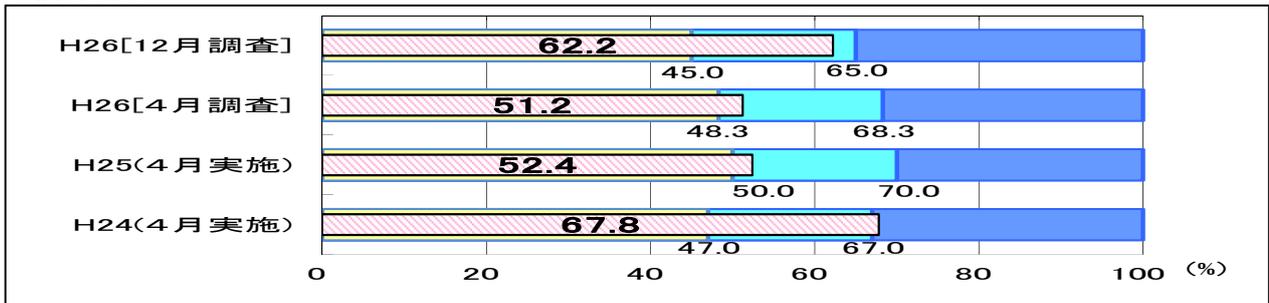
話す・聞く能力



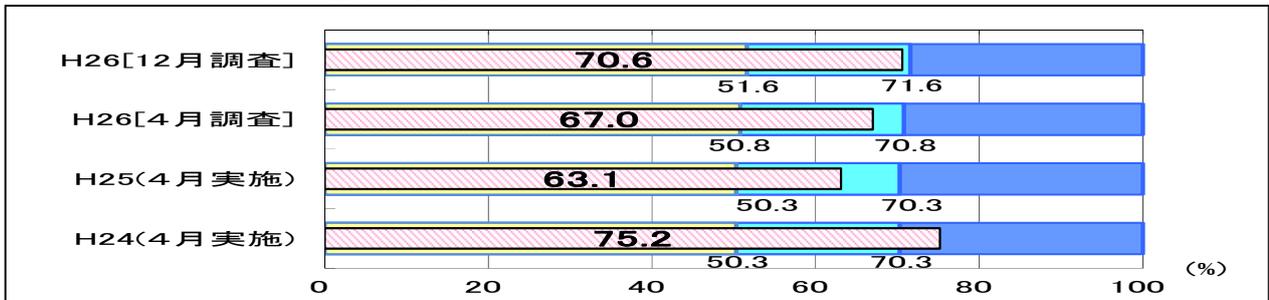
書く能力



読む能力



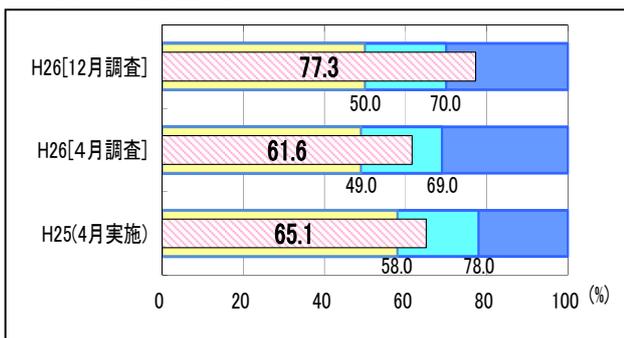
言語についての知識・理解・技能



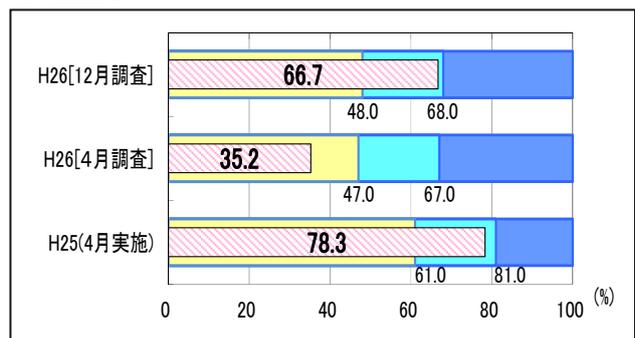
○ 評価の観点別正答率(同一児童)

※ 中学1年生時である平成25年度(4月調査)までは、小学6年生までの内容で調査。

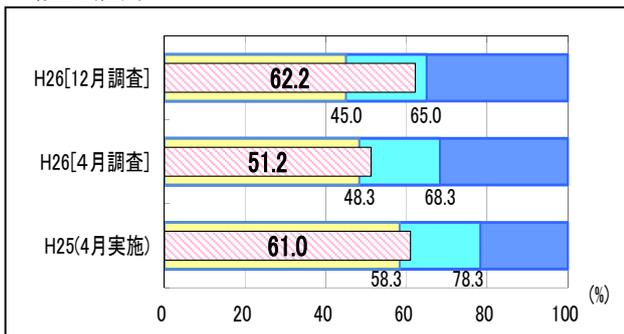
話す・聞く能力



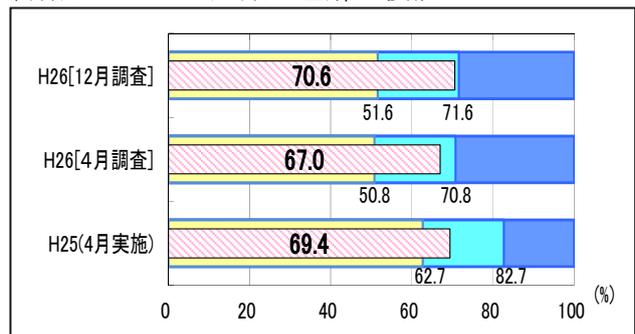
書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生、中学2年生ともに、評価の観点の全てにおいて「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。特に、両学年とも「話す・聞く能力」において「十分達成」の到達基準を上回っていた。中学1年生は「言語についての知識・理解・技能」においても「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- [4月調査]において課題として挙げられていた「条件に合わせて自分の考えをまとめて書く」問題に関しては、引き続き課題が見られた。

② 中学1年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」については、「十分達成」の到達基準を上回っており、「おおむね達成」の到達基準に達していなかった[4月調査]に比べると改善が見られた。評価の観点「言語に関する知識・理解・技能」については、基礎的な知識の定着が見られ、[4月調査]と同じく「十分達成」の到達基準を上回っていた。特に、「漢字の読み」に関する設問は、5問中4問が「十分達成」の期待正答率を15.0ポイント以上上回っていた。
- 内容・領域「書くこと」において、資料と文章を組み合わせて書く指導及び短文を書かせる指導はよく行われているようだが、細部にまで気を配り読んで書くことができていない。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3二	図と文章を照らし合わせて、分かりやすい文章に書き換える。(短答式)	図の構成に合わせて、文章の段落構成を変える。	38.5	5.3	70.0	50.0

・ 解答状況

解答に際しては、【作業の手順を示した図】の①から④に合わせて、【作業の手順を説明する文章の下書き】の段落構成を3段落から4段落に変更しなければならない。そのためには、図や図の中に示された語句等に着目し、文章を照らし合わせ、段落構成を考える必要がある。全ての情報を的確に捉えず、一部の情報のみで判断したのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

複数の資料を関連付けて整理し、段落の役割を考えて文章を構成する学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ㊦ 複数の資料を用いた説明や記録の文章を書く学習活動を仕組む。
- ㊧ 資料と文章を照らし合わせ、段落の役割を考えて文章を構成する指導を行う。
- ㊨ 書いた文章が、資料の情報を的確に表現しているかどうかを確かめて推敲させる。

- 内容・領域「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、[4月調査]と同じく、比喩などの表現技法の正確な理解に課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問5一	比喩などの表現技法を理解している。 (選択式)	文章中に使われている表現技法の種類を答える。	32.2	1.4	70.0	50.0

- ・ 解答状況

「魔法の食べ物のように」に使われている表現の技法を選択肢の中から選ぶ問題である。比喩表現であるということに気付いた上で、「ように」に着目し、「直(明)喩」であることに気付かなければならない。表現の技法の正確な理解の定着ができていないのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

比喩などの表現の技法について正確に理解した上で、文章に使われている表現の特徴について自分の考えをもつ学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ㊦ 例文を示しながら、比喩などの表現の技法について文脈の中で比喩表現の使い方を理解させる。
- ㊧ 文章の中に使われている表現の特徴に着目し、その表現について自分の考えをもつような学習活動を仕組む。
- ㊨ 比喩などの表現の技法を用いて文章を書かせる学習活動を仕組む。

③ 中学2年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」については、「十分達成」の到達基準を上回っており、「十分達成」の到達基準に達していなかった[4月調査]に比べると改善が見られた。評価の観点「書く能力」についても、「おおむね達成」の到達基準を18.7ポイント上回っており、「おおむね達成」の到達基準に達していなかった[4月調査]に比べると改善が見られた。特に、[4月調査]において課題として挙げられていた「文章を読み返し、表記や叙述の仕方に留意して、読みやすく分かりやすい文章にする」ことに改善が見られ、文章を書くだけで終わるのではなく、読み返し、表現を工夫する学習活動を行っていることが推察できる。

- 内容・領域「読むこと」については、[4月調査]と同じく、「条件に合わせて自分の考えを書く」ことに課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4二	文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ。 (記述式)	「これまでの動物園の展示とは正反対のあり方」にすることで、どんなことが期待できるかを、条件に合わせて書く。	27.2	28.2	55.0	35.0

- ・ 解答状況

解答に際しては、「これまでの動物園の展示とは正反対のあり方」がどのようなものであるかを読み取った上で、1文目には「優位」という言葉を使って、文章中のサルを例に挙げながら筆者の考えに沿って期待できることを、2文目には筆者の考えに対する自分の考えを書かなければならない。要旨を読み取ることができず、筆者の考えに沿って1文目を書くことができなかつたことが無解答率の高さにつながったのではないかと考えられる。また、要旨を捉えることはできても条件に合わせて書くことができなかつたことが「おおむね達成」の期待正答率を下回ったことにつながったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

文章に表れているものの見方や考え方を正確に読み取った上で、それに対する自分の考えをもつような学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ㊦ キーワードに着目し、文章の要旨を正確に捉える学習を行う。
- ㊧ 文章に表れているものの見方や考え方に対して、自分の考えをもつような学習活動を仕組む。
- ㊨ 条件に合わせて書かせ、書いたことが条件に合っているかどうか確認するようにさせる。

● 内容・領域「漢字の書き」に関する正答率は、5問中4問が「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問6二1	文脈に即して漢字を 正しく書く。 (短答式)	包装	37.9	21.8	70.0	50.0
問6二3		警報	49.2	18.1	70.0	50.0
問6二4		勤める	49.0	11.9	70.0	50.0
問6二5		統計	43.5	28.1	70.0	50.0

- ・ 解答状況

「漢字の書き」の設問に関しては、全て小学校での既習内容であった。無解答率が高いもの(包装、警報、統計)については漢字そのものを覚えていない、無解答率が低いもの(勤める)については細かい部分においての誤りがあったのではないかと推察される。また、「勤める」に関しては、同訓異字の書き分けもできていないのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

文脈に即して漢字を正しく書く学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が考えられる。

- ㊦ 漢字のもつ意味を踏まえた上で、文脈に即して漢字を書かせる学習活動を行うことが大切である。
- ㊧ 細部にまで意識を払って、繰り返し書いて覚えるようにさせる。

(3) 改善のポイント

① 文章に表れているものの見方や考え方を読み取らせ、自分の考えを条件に合わせて書かせる学習活動を行う

- ・ 文章を読む際には、文章に表れている書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げていくことが大切である。
- ・ 文章を読んで、感じたことや考えたことを具体的に書く学習活動を取り入れることが有効である。
- ・ 自分の考えを文章に表わすことは、以前に比べできるようになっている。条件に合わせて書かせ、書いたことが条件に合っているかどうか確認するようにさせる。

② 漢字の意味を確認させ、文脈に即して漢字が正しく書けるような指導を行う

- ・ 取り立て指導で、単に漢字の形だけではなく、漢字の筆順や意味、点画について正確に理解させる。
- ・ 細部にまで意識を払って繰り返し書いて覚え、日々の学習を積み重ねることを通して、確実に定着させる。
- ・ 語や語句、語彙指導と一体的に指導を行い、読み書きを確実にできるようにした上で、使いこなす指導をする。
- ・ 漢字を文脈の中で使えるように、「書くこと」や「読むこと」の学習と一体的な学習する場を設定する。
- ・ 語彙を増やすため、書籍や新聞を読むなど、普段から文章に触れる機会を設定する。その中で、意味や使い方が分からない言葉があった時は、積極的に辞書を引くよう指導する。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

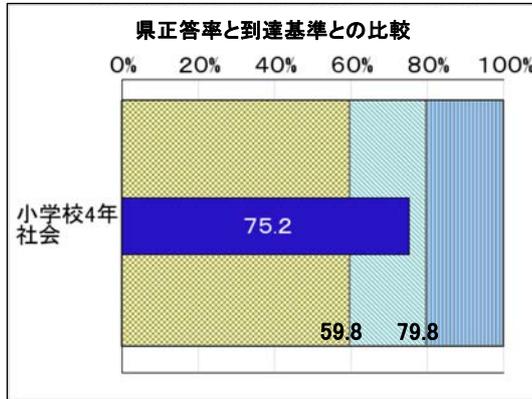
佐賀県教育センターでは、教育センターWeb ページにおいて、授業に役立つ実践研究として「学習プリント」を提供しています。プリントは、①基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるための「知識・技能プリント」②学習したことが身に付いたかどうか確かめる「確認プリント」の2種類です。生徒の実態に合わせて、授業で取り扱ったり、家庭での自学自習用の教材として使ったりすることができます。関連の「手引き」（「生徒用手引き」に同じ）も提供しています。中学1年生から中学3年生まで生徒の実態に応じて適宜選択して、いろいろな場面でお使いください。

1 小学校社会

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

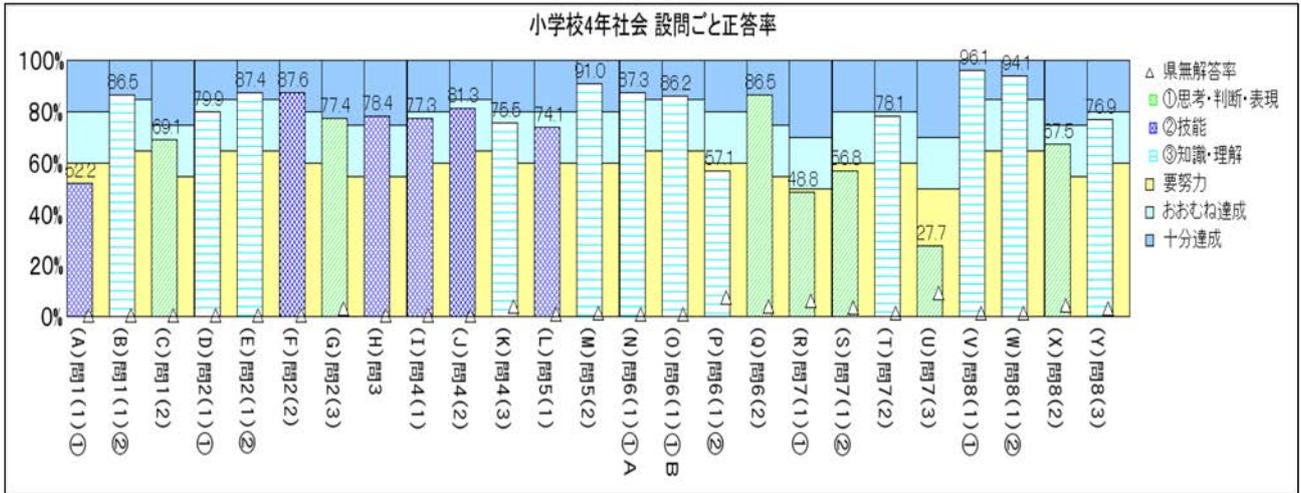
○ 教科全体正答率



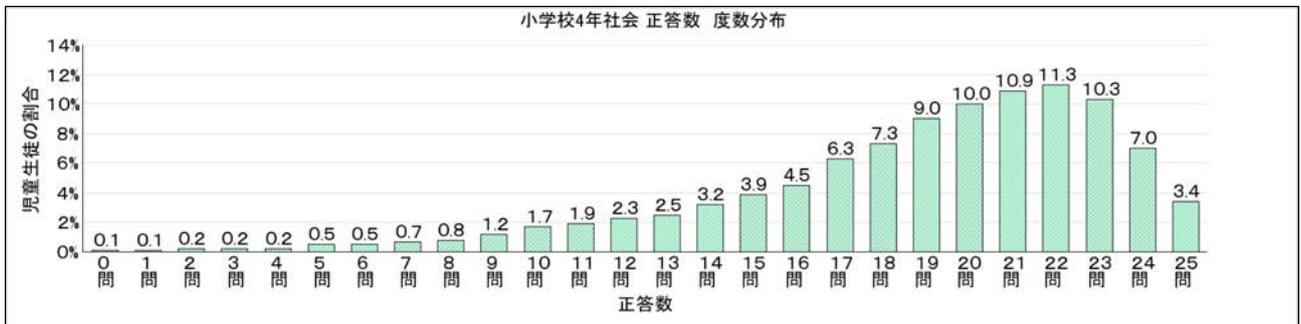
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	表社会的な思考・判断・	観察・資料活用	知識・理解	社会的現象についての	選択式					
1 (1)①	地図から、学校周辺の様子を読み取ることができる	○					○		○			80	60	52.2	0.3	●
1 (1)②	主な地図記号を理解している(神社)	○						○	○			85	65	86.5	0.3	◎
1 (2)	地図記号の知識を基に、実際の土地の様子を考え、適切な絵地図を選択することができる	○					○		○		○	75	55	69.1	0.5	
2 (1)①	販売の仕事に見られる工夫について理解している(売り場の広い通路)	○						○	○			85	65	79.9	0.4	
2 (1)②	販売の仕事に見られる工夫について理解している(大きな文字)	○						○	○			85	65	87.4	0.4	◎
2 (2)	資料から、品物の産地について読み取ることができる	○					○		○			80	60	87.6	0.6	◎
2 (3)	資料を基に、消費者のニーズに合わせた販売の工夫について説明することができる	○					○			○	○	75	55	77.4	2.9	◎
3	市の畑で作られている野菜を調べるために、必要な資料を選択することができる	○						○	○			75	55	78.4	0.3	◎
4 (1)	ごみの処理について疑問に思ったこと、それを調べる方法との適切な組み合わせを選択することができる			○				○	○			80	60	77.3	0.4	
4 (2)	資料から、ごみの出し方を読み取ることができる			○				○	○			85	65	81.3	0.3	
4 (3)	資源ごみを再利用するリサイクルについて理解している			○					○	○		80	60	75.5	3.7	
5 (1)	グラフから、水使用量の変化と人口の変化を読み取ることができる			○				○	○			80	60	74.1	0.8	
5 (2)	浄水場の働きを理解している			○					○	○		80	60	91.0	1.4	◎
6 (1)① A	人々の安全を守る仕事について理解している(交通安全教室)				○				○	○		85	65	87.3	0.7	◎
6 (1)① B	人々の安全を守る仕事について理解している(パトロール)				○				○	○		85	65	86.2	1.0	◎
6 (1)②	警察の施設の1つである交番を理解している				○				○	○		80	60	57.1	7.4	●
6 (2)	資料を基に、子どもたちの安全を守るための工夫が行われている理由について説明することができる				○		○			○	○	75	55	86.5	3.7	◎
7 (1)①	資料を基に、通信指令室へ連絡が入る理由について説明することができる				○		○				○	70	50	48.8	6.3	●
7 (1)②	連絡の内容を表す資料を基に、通信指令室からの連絡先を考えることができる				○		○			○		80	60	56.8	3.6	●
7 (2)	消防署員が、火事の現場へ素早く駆け付けけることができる工夫について理解している				○				○	○		80	60	78.1	1.4	
7 (3)	資料を基に、消防団員の減少による課題について説明することができる				○		○				○	70	50	27.7	9.3	●
8 (1)①	古くから残るくらしに関わる道具を理解している(かまど)					○			○	○		85	65	96.1	1.2	◎
8 (1)②	古くから残るくらしに関わる道具を理解している(火鉢)					○			○	○		85	65	94.1	1.4	◎
8 (2)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々のくらしの変化について説明することができる					○	○				○	75	55	67.5	4.3	
8 (3)	佐賀県の祭りや行事を理解している					○			○	○		80	60	76.9	3.1	

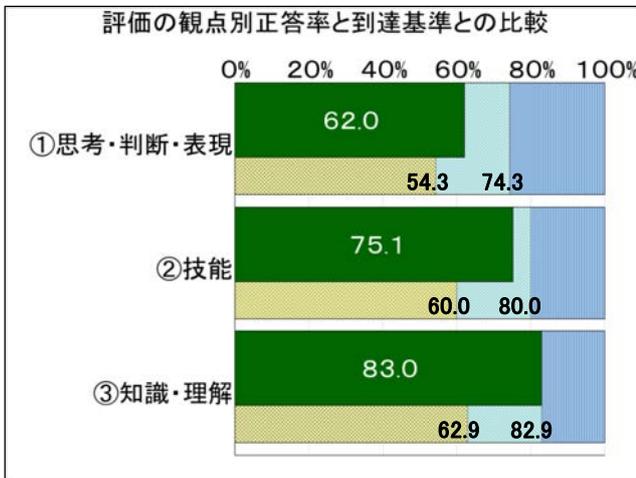
○ 設問ごと正答率



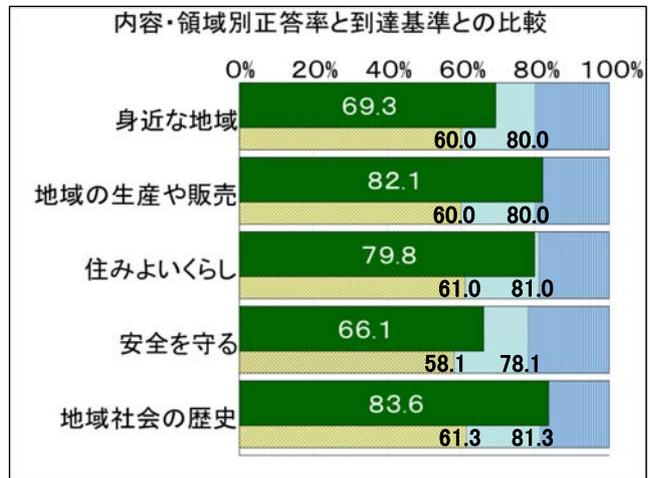
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

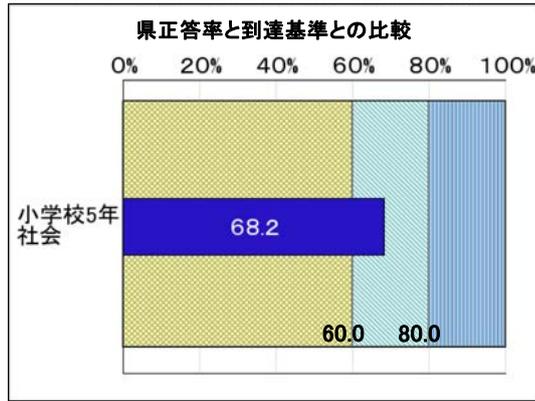


○ 内容・領域別正答率



② 小学5年生

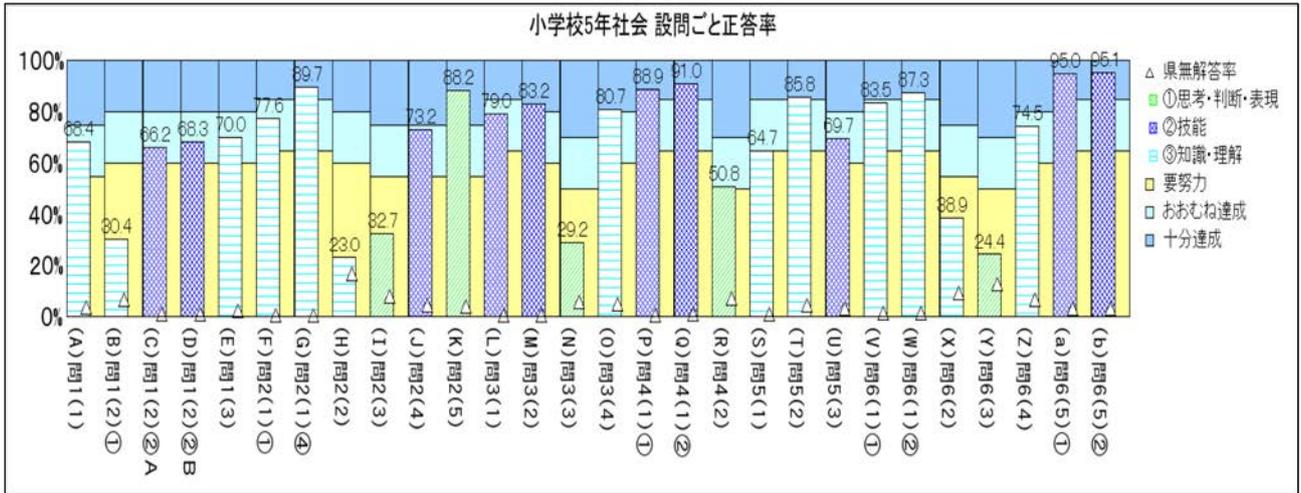
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題		正答率	無解答率	到達状況		
		県の様子(3・4年)	国土の様子	生活	食料生産の様子と国民生活	工業の様子と国民生活	表現	社会的な思考・判断	観察・資料活用	知識・理解	社会的な事象についての	選択式	短答式				記述式	十分達成
1 (1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している	○						○	○					75	55	68.4	3.6	
1 (2)①	佐賀県に面している海の名称と位置を理解している	○						○		○				80	60	30.4	6.7	●
1 (2)②A	地図から県内の土地利用の様子を読み取ることができる(土地の高さが100m未満の場所)	○						○		○				80	60	66.2	0.8	
1 (2)②B	地図から県内の土地利用の様子を読み取ることができる(土地の高さが400m以上の場所)	○						○		○				80	60	68.3	0.8	
1 (3)	都道府県の名称と位置を理解している	○								○	○			80	60	70.0	2.1	
2 (1)①	米作りの作業について理解している(苗づくり)			○					○	○				85	65	77.6	0.4	
2 (1)④	米作りの作業について理解している(稲刈り)			○					○	○				85	65	89.7	0.4	◎
2 (2)	農業だけで収入を得ている農家が専業農家であることを理解している			○					○		○			80	60	23.0	16.4	●
2 (3)	資料を基に、農業機械の所有台数の減少に着目した質問を考えることができる			○			○				○	○		75	55	32.7	7.8	●
2 (4)	資料から、日本の農業の問題点を読み取ることができる			○				○			○			75	55	73.2	4.4	
2 (5)	資料を基に、農作業の時間が短くなった理由について説明することができる			○			○				○	○		75	55	88.2	4.0	◎
3 (1)	資料から、水揚げ量が多い漁港を読み取ることができる			○				○		○				85	65	79.0	0.5	
3 (2)	資料から、日本の漁業別生産量の変化を読み取ることができる			○				○		○				80	60	83.2	0.5	◎
3 (3)	資料を基に、栽培漁業を行う理由について説明することができる			○			○				○	○		70	50	29.2	5.6	●
3 (4)	トラックで魚を運ぶ際の工夫について、その理由を理解している			○				○		○				80	60	80.7	4.7	◎
4 (1)①	資料から、米の自給率を読み取ることができる			○				○		○				85	65	88.9	0.6	◎
4 (1)②	資料から、大豆の自給率を読み取ることができる			○				○		○				85	65	91.0	0.7	◎
4 (2)	資料を基に、茨城県産のピーマンが大阪府より東京都へ多く出荷されている理由を説明することができる			○			○				○	○		70	50	50.8	7.0	
5 (1)	日本の工業の種類について理解している				○				○	○				85	65	64.7	0.7	●
5 (2)	工業地帯や工業地域が集まっている所が太平洋ベルトであることを理解している				○				○	○				85	65	85.8	4.3	◎
5 (3)	資料から、大工場と中小工場の工場数や生産額の違いを読み取ることができる				○			○			○			80	60	69.7	2.9	
6 (1)①	自動車の生産過程について理解している(組み立て)				○				○	○				85	65	83.5	1.5	
6 (1)②	自動車の生産過程について理解している(溶接)				○				○	○				85	65	87.3	1.5	◎
6 (2)	自動車工場が現地で生産している理由を理解している				○				○		○			75	55	38.9	9.2	●
6 (3)	資料を基に、自動車の燃費が向上することが環境を守ることにつながる理由について説明することができる				○	○					○	○		70	50	24.4	12.6	●
6 (4)	自動車工業と関わりがある工場が関連工場であることを理解している				○				○		○			80	60	74.5	6.7	
6 (5)①	資料から、自動車会社の取組の工夫を読み取ることができる(福祉)				○			○		○				85	65	95.0	2.9	◎
6 (5)②	資料から、自動車会社の取組の工夫を読み取ることができる(安全)				○			○		○				85	65	95.1	2.9	◎

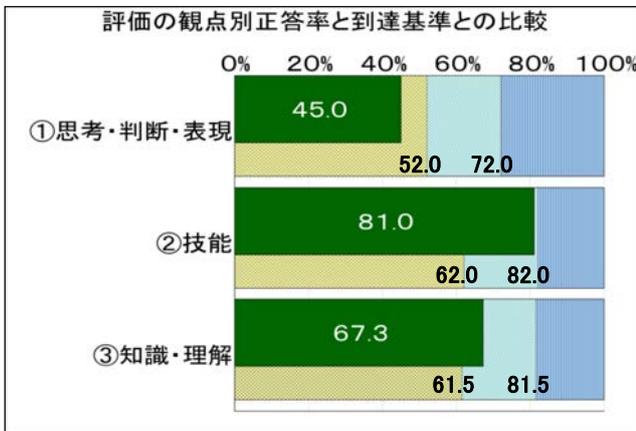
○ 設問ごと正答率



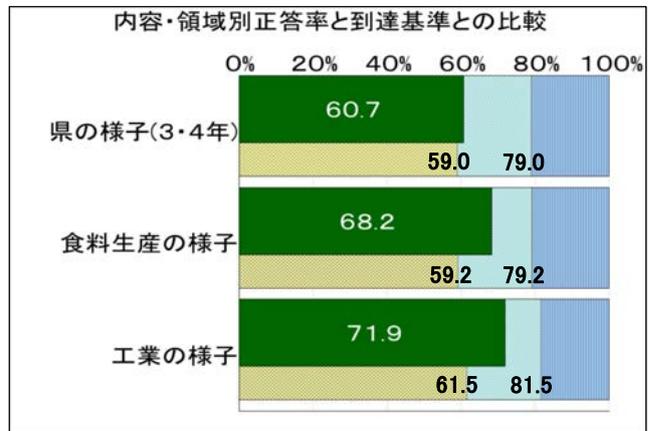
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

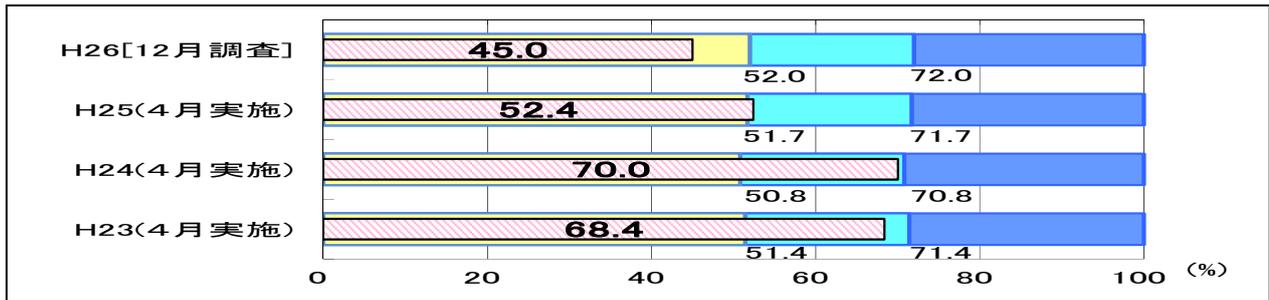


○ 内容・領域別正答率

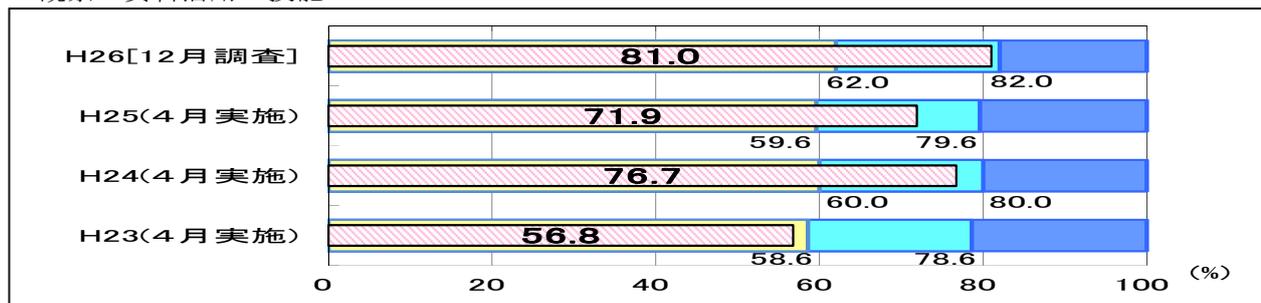


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

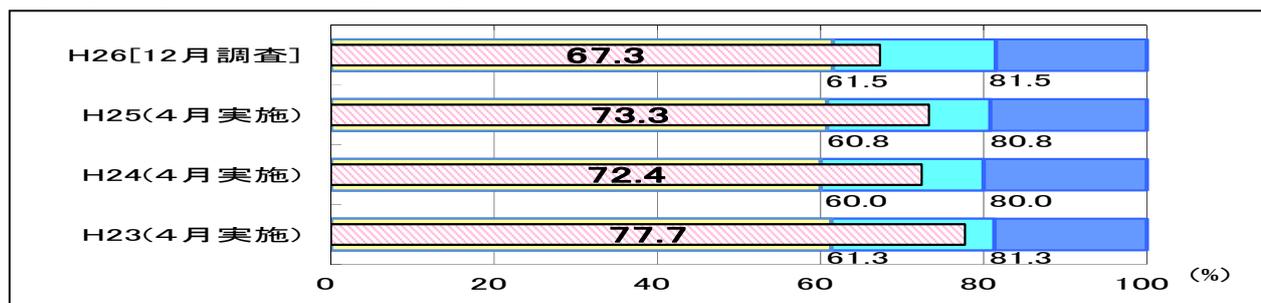
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

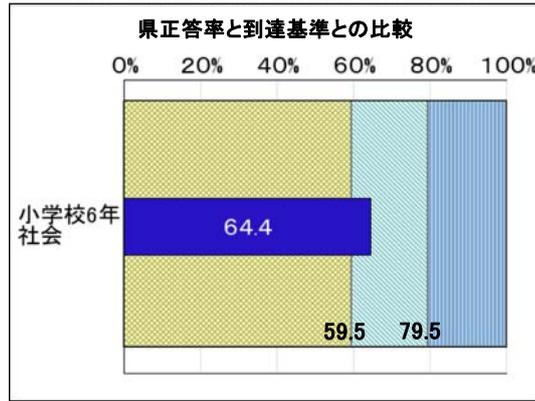


社会的事象についての知識・理解



③ 小学6年生

○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史	表社会的な思考・判断・	観察・資料活用	知識・理解	社会的な事象についての	選択式	短答式					
1 (1)	資料から、日本の国土の範囲を読み取ることができる	○		○		○				80	60	61.4	0.2	
1 (2)	北方領土の問題について理解している	○			○			○		80	60	68.8	1.6	
1 (3)	資料から、日本海側の気候の特色を読み取ることができる	○			○			○		80	60	35.4	0.5	●
2 (1)	資料から、弥生土器の特徴を読み取ることができる		○		○			○		85	65	67.7	0.1	
2 (2)	卑弥呼が治めていた国が邪馬台国であることを理解している		○			○		○		85	65	58.5	6.4	●
2 (3)	古墳が、豪族の墓であることを理解している		○			○		○		80	60	87.2	1.7	◎
2 (4)	資料から、大和朝廷により国土の統一が進められたことを読み取ることができる		○		○			○		75	55	45.5	6.3	●
3 (1) A	大化の改新の内容について理解している(中大兄皇子)		○			○		○		85	65	93.8	0.0	◎
3 (1) B	大化の改新の内容について理解している(天皇)		○			○		○		80	60	92.6	0.0	◎
3 (2)	貴族の食事の内容を基に、各地の産物が税として都に運ばれてきていたことを説明することができる		○	○				○	○	70	50	43.8	4.1	●
3 (3)	資料から、正倉院の建物を選ぶことができる		○		○			○		80	60	87.1	0.1	◎
3 (4)	源氏物語の作者が紫式部であることを理解している		○			○		○		85	65	68.3	0.2	
4 (1)	資料を基に、平氏を倒すために源頼朝のもとに多くの兵が集まった理由について説明することができる		○	○				○	○	65	45	29.0	7.6	●
4 (2)	資料から、平氏が滅亡した壇ノ浦の場所を選ぶことができる		○		○			○		85	65	51.5	1.0	●
4 (3)	御恩と奉公の関係について理解している		○			○		○		80	60	57.6	6.5	●
5 (1)	南蛮貿易の様子を理解している		○			○		○		85	65	59.8	0.2	●
5 (2)	豊臣秀吉が刀狩を行った理由について理解している		○			○		○		80	60	66.0	3.9	
5 (3)	資料を基に、江戸幕府が行った大名の配置の工夫を説明することができる		○	○				○	○	70	50	35.7	6.4	●
6 (1)	歌川広重が描いた東海道五十三次の「日本橋」が浮世絵であることを理解している		○			○		○		80	60	67.9	4.9	
6 (2)	古事記伝の作者が本居宣長であることを理解している		○			○		○		85	65	87.5	0.3	◎
6 (3)	伊能忠敬が精密な日本地図を作ったことを理解している		○			○		○		85	65	92.2	1.2	◎
6 (4)	資料を基に、江戸時代には本を読むことができる人々が増加した理由について説明することができる		○	○				○	○	70	50	57.0	4.3	
7 (1)	ペリーが来航した浦賀の位置を理解している		○			○		○		85	65	70.0	0.4	
7 (2)	不平等な条約の内容について理解している		○			○		○		80	60	59.7	8.1	●
7 (3)	明治政府が進めた工業を盛んにし強い軍隊を持つという政策が、富国強兵であることを理解している		○			○		○		80	60	39.6	14.4	●
8 (1)	大日本帝国憲法制定に尽力した人物が伊藤博文であることを理解している		○			○		○		85	65	61.4	0.5	●
8 (2)	資料から、製糸工場に働いていた人々にとっての問題点を読み取ることができる		○		○			○		75	55	82.1	3.2	◎
8 (3)	資料を基に、日露戦争後結ばれた条約によって国民が不満をもった理由を説明することができる		○	○				○	○	65	45	32.5	7.1	●
9 (1)	資料から、戦時中の国民の生活を読み取ることができる		○		○			○		80	60	86.0	0.8	◎
9 (2)	原子爆弾の被害に遭った広島、長崎の位置を理解している		○			○		○		85	65	86.5	0.8	◎

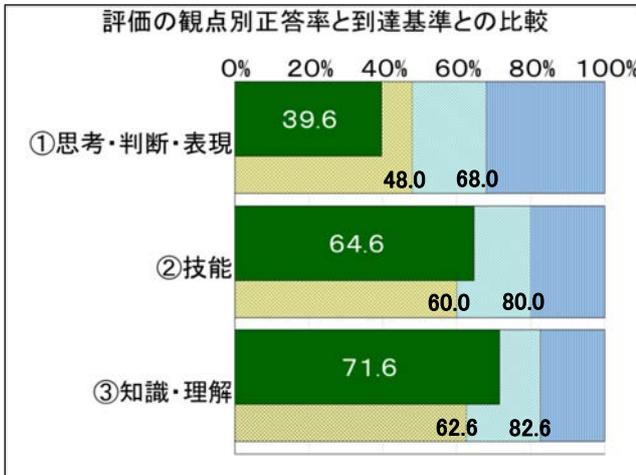
○ 設問ごと正答率



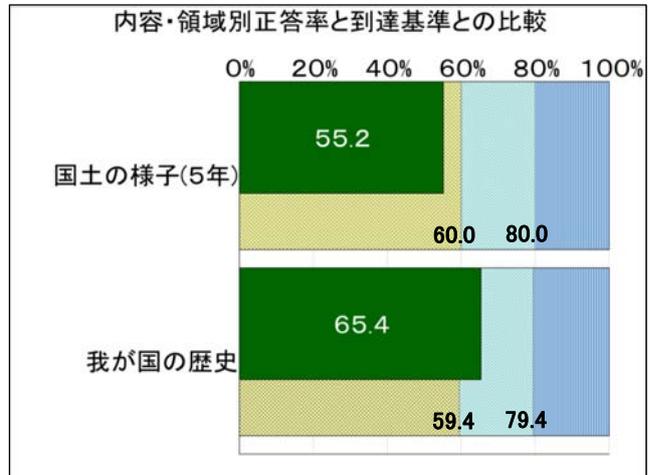
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

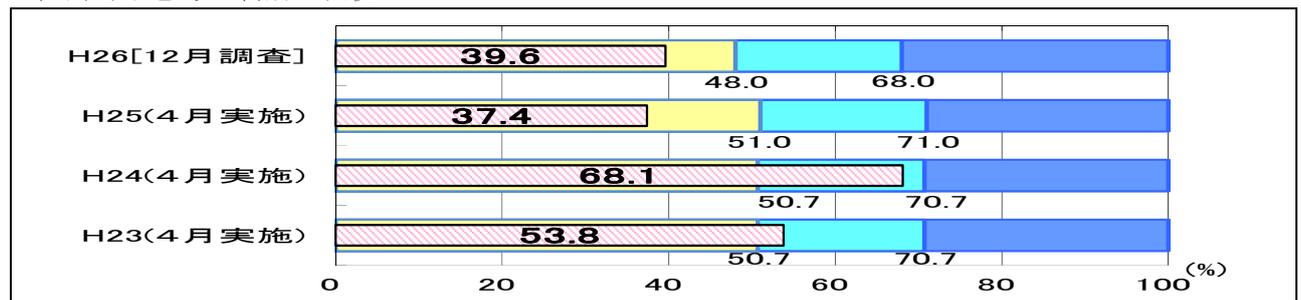


○ 内容・領域別正答率

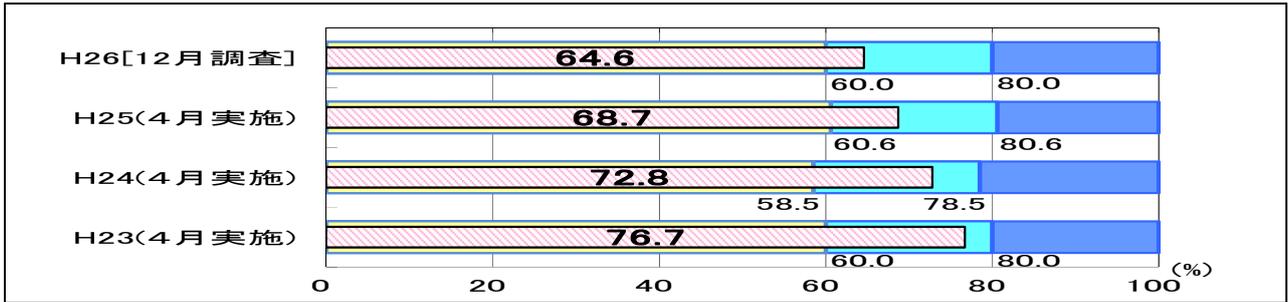


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

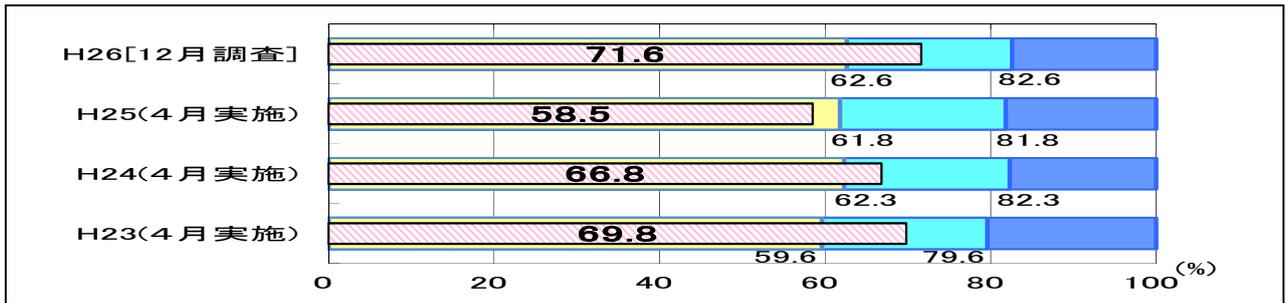
社会的な思考・判断・表現



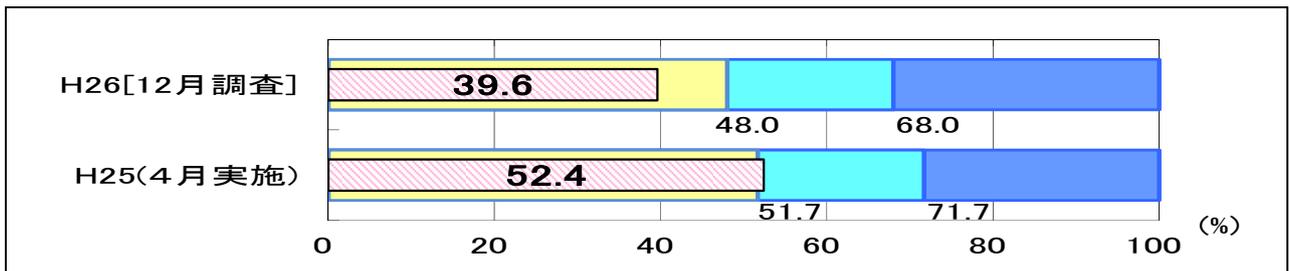
観察・資料活用の技能



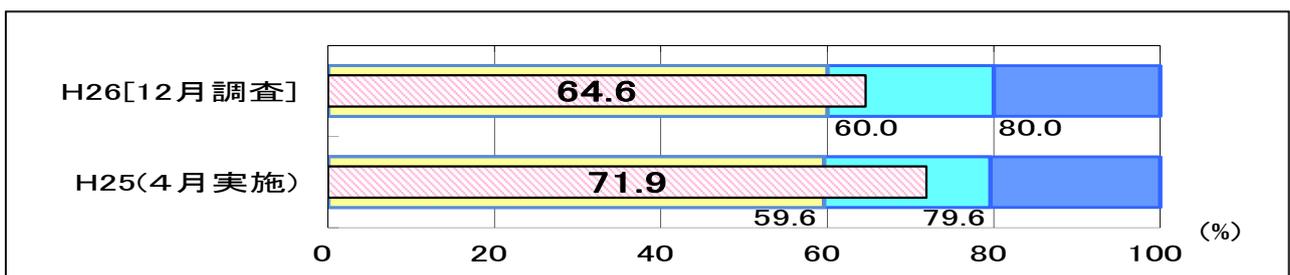
社会的事象についての知識・理解



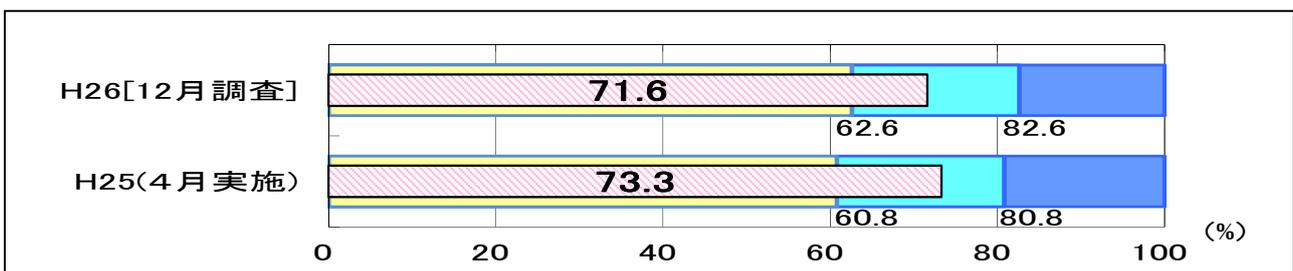
- 評価の観点別正答率(同一児童)
- 社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 小学校全体

- 全ての学年において、評価の観点「観察・資料活用の技能」と「社会的事象についての知識・理解」が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。特に、小学4年生の「社会的事象についての知識・理解」については、「十分達成」の到達基準を上回っていた。また、平成25年度調査において課題として挙げられていた小学6年生の「社会的事象についての知識・理解」については、平成26年度[12月調査]では、「おおむね達成」の到達基準を上回っており、改善が見られた。
- 小学6年生の「社会的な思考・判断・表現」については、平成25年度調査において「おおむね達成」の到達基準を下回り課題として挙げられていたが、平成26年度[12月調査]も「おおむね達成」の到達基準を下回っており引き続き課題が見られた。また、小学5年生の「社会的な思考・判断・表現」についても、平成26年度[12月調査]は「おおむね達成」の到達基準を下回っており課題が見られた。

② 小学4年生

- 内容・領域別正答率については、全ての内容・領域において「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。特に、「地域の生産や販売」と「地域社会の歴史」においては、「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」については、社会的事象の特色や相互の関連において説明することに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7 (1)①	資料を基に、通信指令室へ連絡が入る理由について説明することができる。 (記述式)	119番の電話が、全て消防局の通信指令室につながる理由について考え、記述する。	48.8	6.3	70.0	50.0

・ 解答状況

119番の電話が全て消防局の通信指令室につながることにについては、理解していると考えられる。しかし、資料から通信指令室から消防署や警察署などの関係諸機関へ情報を迅速に一括して送ることができることのよさを読み取ることができず、その理由について記述できなかったと推察される。

・ 改善・充実に向けて

関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制を取っていることを指導するには、緊急事態が発生した時には、一刻を争って事態に対処していることを具体的に調べさせることが大事である。資料から、連絡の経路だけでなく情報を迅速に伝えるための工夫について考えさせるような指導が必要である。

また、無解答率が6.3であった。授業の中に自分の考えを記述させるような活動を取り入れることが必要である。その際、何に着目して書くのかなど、観点を示すことが効果的である。

- 評価の観点「観察・資料活用の技能」については、「おおむね達成」の到達基準を上回っていたが、「十分達成」の到達基準は下回っていた。中でも、資料から必要な情報を読み取ることに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1 (1)	地図から、学校周辺の様子を読み取ることができる。 (選択式)	太郎さんの学校から見て、駅や工場がどの方位にあるか選ぶ。	52.2	0.3	80.0	60.0

・ 解答状況

地図は普通、北を上に表示することや四方位で方位を表すことについては、多くの児童が理解しているものと思われる。しかし、地図上のある場所を基にその他の建物などがどの方位にあるのかを読み取ることが難しかったためと推察される。

・ 改善・充実に向けて

方位については、最初に四方位を扱い、八方位については小学4年生修了までに身に付けるようにするものである。その場合に知識として指導するだけにとどまらず、観察、調査した結果を地図に表したり地図を読み取ったりする際に活用できるようにすることが必要である。

③ 小学5年生

- 内容・領域別正答率については、全ての内容・領域において「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」については、自分が通う小学校がある市や町の佐賀県内における地理的位置を問う問題を到達基準を1として同一学年の経年比較をすると、平成24年度調査から平成26年度[12月調査]にかけて改善が見られた。
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」については、「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。中でも、社会的事象の意味について説明することに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2 (3)	資料を基に、農業機械の所有台数の減少に着目した質問を考えることができる。 (記述式)	質問した内容を、資料と農家の方からの答えを基に考え、記述する。	32.7	7.8	75.0	55.0

・ 解答状況

資料から農業機械の所有台数の減少を読み取ることができるが、農家の方の答えにある農業機械を共同で購入するということと農業機械の所有台数の減少を関連付けて考えることができなかつたためと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

農業機械を共同で購入するという食料生産に従事している人々の工夫を機械化による費用が掛かるという資料を基にどのように解釈させるかが大事である。資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えることに加え、その原因や理由について考えさせるような指導が効果的である。

④ 小学6年生

- 内容・領域「我が国の歴史」については、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」については、「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。中でも、歴史的事象の意味について説明することに課題が見られた。

・ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 3(2)	貴族の食事の内容を基に、各地の農産物が税として都に運ばれてきていたことを説明することができる。 (記述式)	貴族がさけやあわびを食べることができた理由を、資料を基に考え、記述する。	43.8	4.1	70.0	50.0

・ 解答状況

「各地の主な産物」と「庶民の負担」の2つの資料から読み取ったことを基に、各地の産物が都に集まってきていたことを税という言葉を使って記述させる問題であった。2つの資料と歴史的背景を関連付けながら、貴族が各地の産物を食べることができた理由を考えることが難しかったためと推察される。

・ 改善・充実に向けて

「各地の産物」の資料からは、魚や貝などの産物が各地で採れていたことを、「庶民の負担」の資料からは、産物を税として納めていたことや都まで運んでいたことを読み取らせ、それらを関連付けて考えさせることが必要である。複数の資料から、共通点や相違点を見付けてその理由を考えさせるような指導が効果的である。

- 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」については、「おおむね達成」の到達基準を上回っているものの「十分達成」の到達基準を下回っていた。中でも、歴史的な事象に関わる理解と知識の定着について課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 7(3)	明治政府が進めた工業を盛んにし強い軍隊を持つという政策が、富国強兵であることを理解している。 (短答式)	明治政府が外国に追いつくように国を豊かにし、強くなるように進めた政策について記述する。	39.6	14.4	80.0	60.0

・ 解答状況

明治政府が、徴兵令、地租改正、官営工場の建設などを基に富国強兵を目指した歴史的背景とそれぞれの政策の関連付けが理解できていない児童が多かったためと推察される。

・ 改善・充実に向けて

徴兵令、地租改正、官営工場の建設などの政策について、大隈重信や伊藤博文らの業績として理解させるとともに、なぜ明治政府は富国強兵を目指したのかということを見聞させることで、我が国の国力を充実させ、国際的地位を向上させるための国づくりであったことをそれぞれの政策と関連付け、総合的に理解させていく指導が必要である。

(3) 改善のポイント

① 社会的な思考力・判断力・表現力を高めるための指導と評価の工夫

澤井は、社会的な思考力・判断力・表現力に関して「社会科における『考える力』は、もっている知識（理解）や資料活用等で得た情報を、比較・関連づけ・総合して社会的事象の特色、相互の関連、意味について考える力です。」¹⁾と述べている。また、比較について「比較は、複数の情報を『比べる』思考方法です。」²⁾、関連付けについて「関連づけは、複数の情報を『つなげる』思考方法です。」³⁾、総合について「総合は、学習したことを『まとめる』思考方法です。」⁴⁾と述べている。これらを基に、児童の「考える力」を高めるために、「比較・関連付け・総合」の思考

方法を活用して児童が思考できるような活動やその際の効果的な教師の問いについて、「我が国の農業」を例にして以下の⑦から⑯で述べる。

- ⑦ 比較(比べる)の思考方法を用いた授業では、農業の盛んな地域の様子を比べさせるような活動が考えられる。そこでは、共通点や相違点などに着目させ、「どのような違いがあるだろう」や「同じところはどこだろう」といった問いが効果的となる。
- ⑧ 関連付け(つなげる)の思考方法を用いた授業では、農業の盛んな地域と地形とを結び付けて、社会的事象の意味や背景を考えさせるような活動が考えられる。そこでは、広い平野が広がるといった条件に着目させ、「なぜ、～だろう」や「どのような働き、役割があるのか」といった問いが効果的である。
- ⑯ 総合(まとめる)の思考方法を用いた授業では、農家の人は、「半年かけて養分がいったいの土を作っている」や「毎日見回って水の量を調節している」などの調べて分かった事実を基に、「つまり農家の人は、おいしい野菜を作るためにいろいろな工夫をしている」とまとめさせるような活動が考えられる。そこでは、「つまりどんな工夫があるのか」や「これらをまとめると何がわかるか」といった問いが効果的となる。

このように、学習の目標が達成できるように、1時間の授業の中でどのような活動を仕組み、また、児童にどのような思考方法を基に思考をすればよいのかを教師が考え、意図的に問い掛けることが必要である。さらに、単元を通して児童が思考できるような活動をどのように設定するか、計画的な指導が必要である。

《引用文献》

- 1)2)3)4) 澤井 陽介『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』2013年 図書文化 pp. 62-64

② 歴史的事象に関する知識を定着させるための指導の工夫

これまでの歴史の学習では、断片的な歴史的事象を暗記させ、知識を増やすことに力を入れる指導が見られることがある。このことについて小学校学習指導要領解説社会編には、「先人の業績については、歴史上の人物が当時の世の中の課題を解決し人々の願いを実現していったことを調べたり、調べたことをまとめたりしながら、人物の働きを共感的に理解できるようにすること」⁵⁾と示されている。また、理解という言葉の捉え方として中学校学習指導要領解説社会編には、「『理解』とは、思考や表現の過程なども踏まえて学習内容を十分に分かりながら身に付けることを意味しており、機械的・表面的な「記憶」だけを表すものではない。よく考え納得して身に付けた内容は、単純な記憶やその再生とは違って、焦点や脈絡をもった自分の言葉で表現できるものである。」⁶⁾と示されている。これらのことから、歴史の学習では、人物の願いや業績などを多面的に調べる活動はもちろん、獲得した知識を活用し総合的に考えるような活動を単元の中に意図的に仕組むことが必要である。その中で、人物の生きた時代の様子や歴史的背景などを具体的に理解させることで歴史的事象に関する知識を定着させることが可能になると考えられる。

《引用文献》

- 5) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成20年8月 教育出版 p. 70
- 6) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会編』 平成20年9月 教育出版 p. 11

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

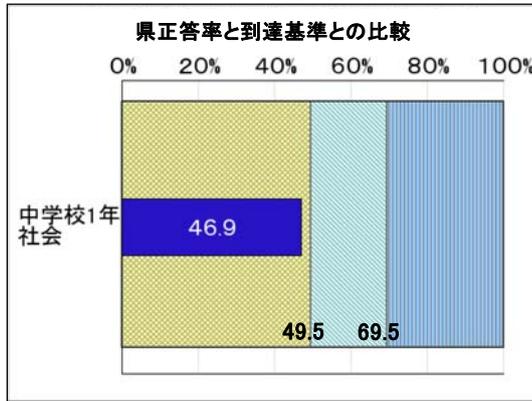
佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「社会的な問題に出会わせる手立て」などを取り上げ、発問や板書、ワークシートの工夫を取り入れた実践事例などを紹介しています。

2 中学校社会

① 各学年の調査結果

① 中学1年生

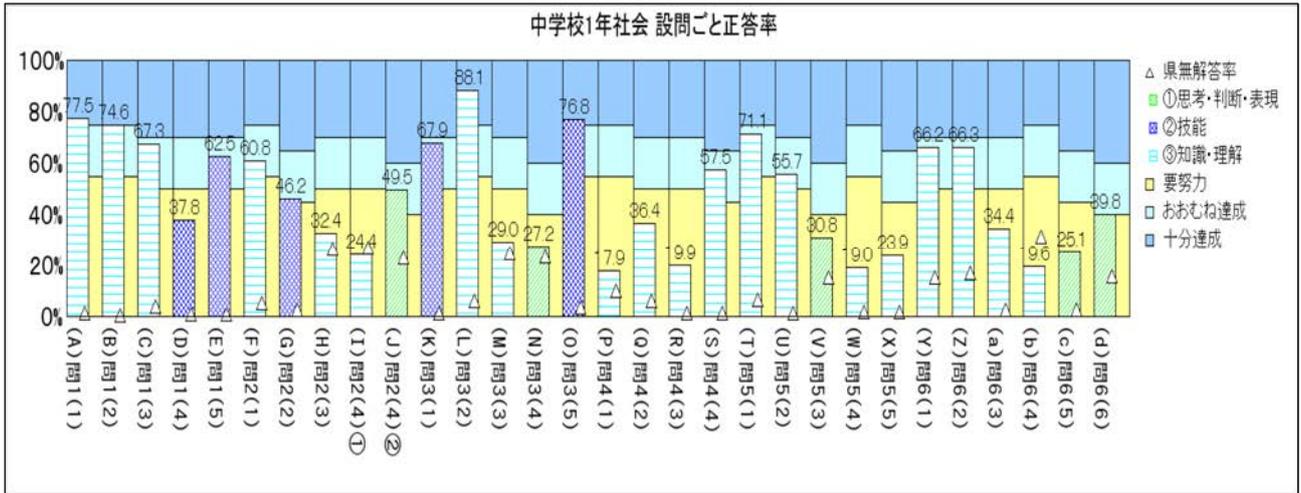
○ 教科全体正答率



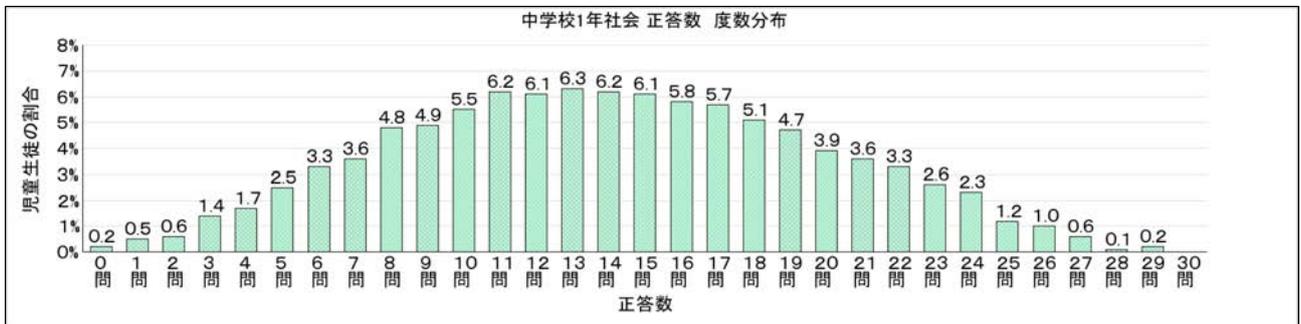
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等						評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		世界の地域構成	世界の諸地域(北アメリカ州)	世界の諸地域(アジア州)	歴史のとらえ方	古代までの日本	表現	社会的な思考・判断	資料活用	社会的現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	アフリカ大陸と太平洋の位置と名称を理解している	○								○	○			75	55	77.5	1.2	◎
1 (2)	大陸と海洋の面積の比率を理解している	○								○	○			75	55	74.6	0.3	
1 (3)	経度0度の線が本初子午線であることを理解している	○								○	○			70	50	67.3	3.7	
1 (4)	資料に示された地点の緯度と経度を読み取ることができる	○								○	○			70	50	37.8	0.7	●
1 (5)	地図の索引を用いて、都市の位置を読み取ることができる	○								○	○			70	50	62.5	0.7	
2 (1)	ロッキー山脈の位置と名称を理解している		○								○			75	55	60.8	5.4	
2 (2)	資料から、北アメリカ州の気候の特色を読み取ることができる		○								○			65	45	46.2	2.6	
2 (3)	アメリカ合衆国にはヒスパニックと呼ばれる移民がいることを理解している		○								○			70	50	32.4	26.6	●
2 (4)①	北緯37度より南の先端技術産業が盛んな地域が、サンベルトと呼ばれていることを理解している		○								○			70	50	24.4	26.8	●
2 (4)②	資料を基に、五大湖周辺で鉄鋼業や機械工業が発展していった理由を説明することができる		○								○	○		60	40	49.5	23.1	
3 (1)	資料から、中国の東部に人口が集中していることや人口の多くを漢民族が占めていることを読み取ることができる			○							○			70	50	67.9	1.1	
3 (2)	中国で取られている人口抑制政策が一人っ子政策であることを理解している			○							○			75	55	88.1	6.0	◎
3 (3)	東南アジアの国々が経済的に結び付いた共同体が東南アジア諸国連合(ASEAN)であることを理解している			○							○			70	50	29.0	25.0	●
3 (4)	資料を基に、東南アジア諸国に日本の企業が進出している理由を説明することができる			○							○	○		60	40	27.2	23.6	●
3 (5)	資料から、サウジアラビアで主に信仰されている宗教がイスラム教であることを読み取ることができる			○							○			75	55	76.8	3.4	◎
4 (1)	年代の表し方の「西暦」を理解している				○						○			75	55	17.9	9.8	●
4 (2)	年代の表し方の「世紀」を理解している				○						○			70	50	36.4	6.3	●
4 (3)	時代区分の「古代」について理解している				○						○			70	50	19.9	1.3	●
4 (4)	政治の中心地で時代を区分することを理解している				○						○	○		65	45	57.5	1.3	
5 (1)	石を打ちかいて作った道具が打製石器であることを理解している					○					○			75	55	71.1	6.7	
5 (2)	縄文時代の人々の生活の様子について理解している					○					○	○		70	50	55.7	1.4	
5 (3)	資料を基に、縄文時代から弥生時代の生活の変化について説明することができる					○	○					○	○	60	40	30.8	15.2	●
5 (4)	弥生時代を代表する遺跡である吉野ヶ里遺跡について理解している					○					○	○		75	55	19.0	1.7	●
5 (5)	古代の日本で国家が形成されていった流れと中国との関係について理解している					○					○	○		65	45	23.9	1.8	●
6 (1)	聖徳太子の制定した役人の心得が十七条の憲法であることを理解している						○				○			70	50	66.2	15.3	
6 (2)	中大兄皇子と中臣鎌足が行った政治改革が大化の改新であることを理解している						○				○			70	50	66.3	17.0	
6 (3)	大宝律令により整えられた国家の仕組みについて理解している						○				○	○		70	50	34.4	2.7	●
6 (4)	平城京が唐の都である長安にならってつくられたことを理解している						○				○			75	55	19.6	31.5	●
6 (5)	資料を基に、桓武天皇が都を平安京に移した理由を考えることができる						○	○						65	45	25.1	2.8	●
6 (6)	資料を基に、藤原氏が行った摂関政治が成立した過程を説明することができる						○	○				○	○	60	40	39.8	15.7	●

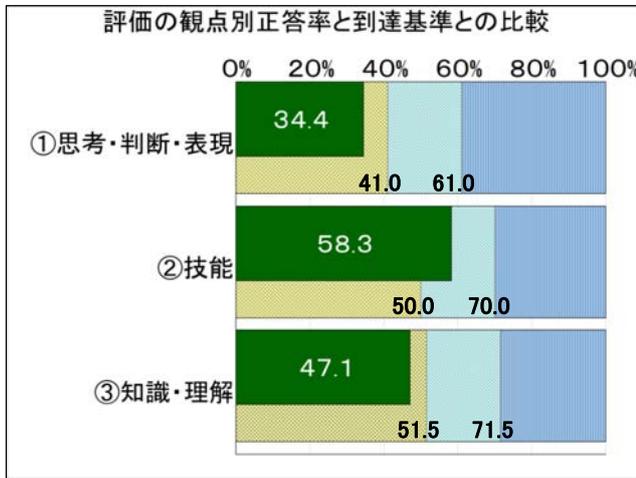
○ 設問ごと正答率



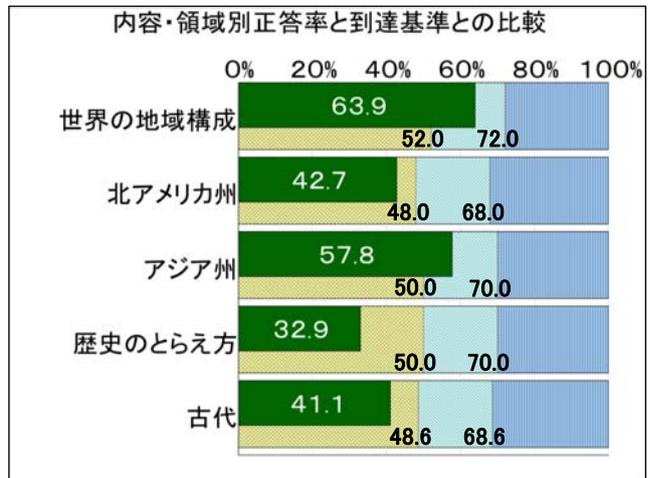
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

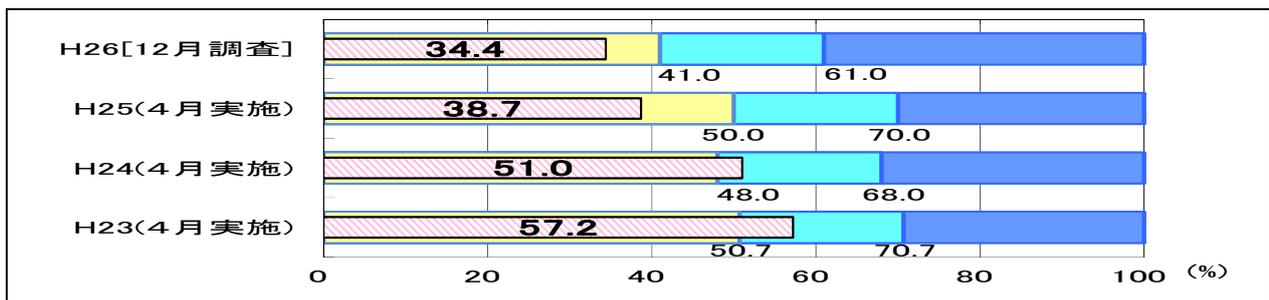


○ 内容・領域別正答率

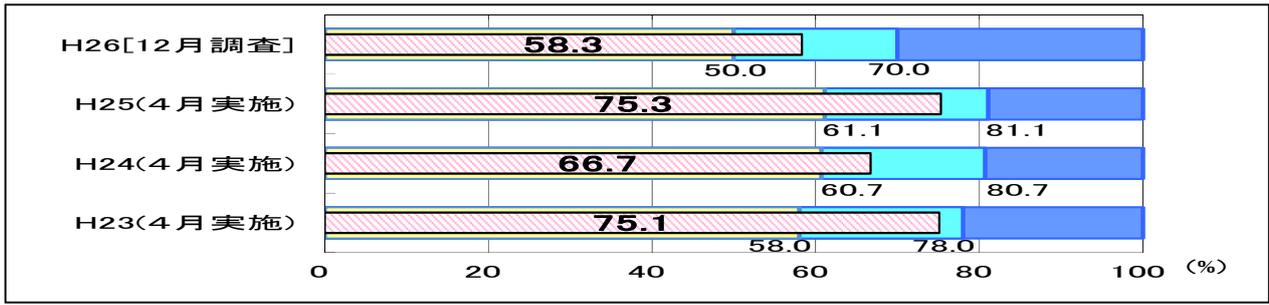


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

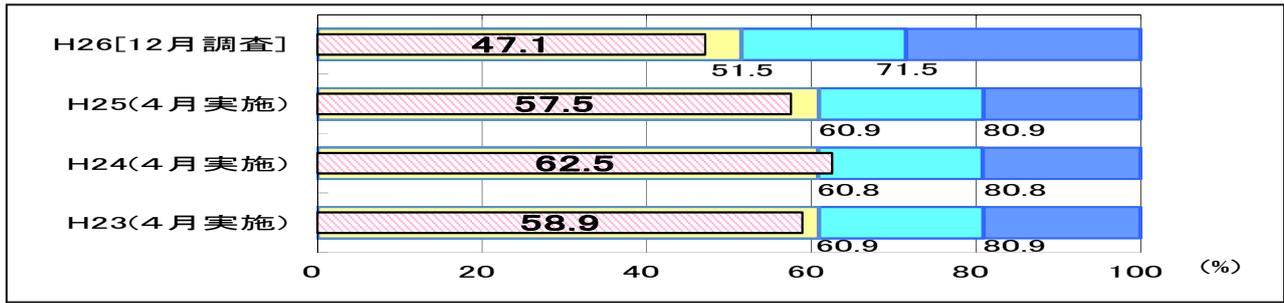
※ 平成25年度(4月実施)までは、小学6年生までの内容で調査。
社会的な思考・判断・表現



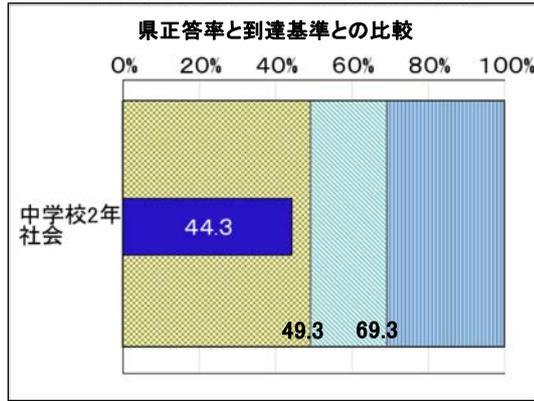
資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解



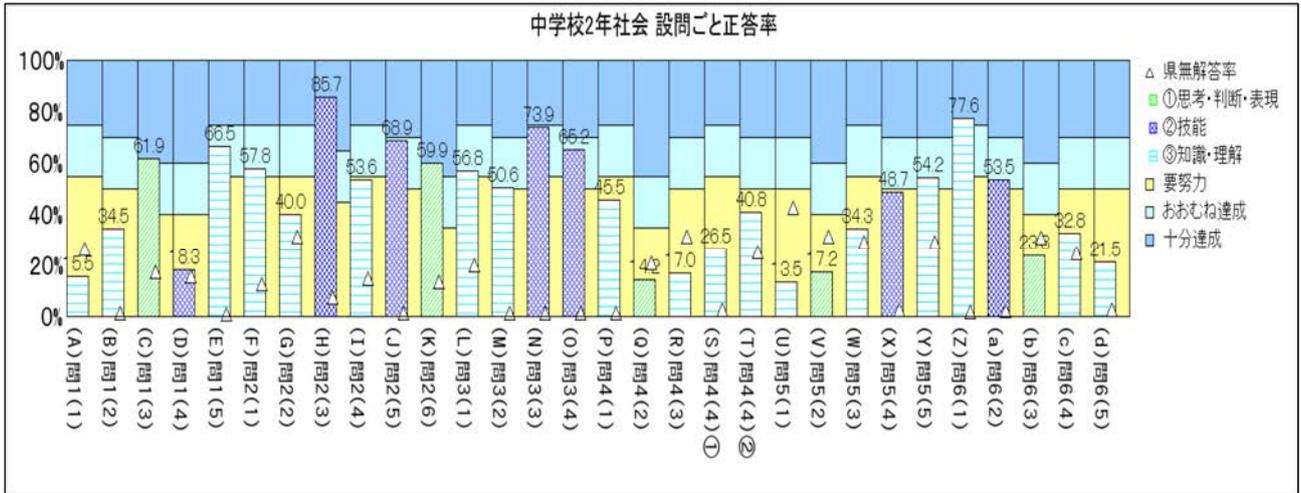
- ② 中学2年生
○ 教科全体正答率



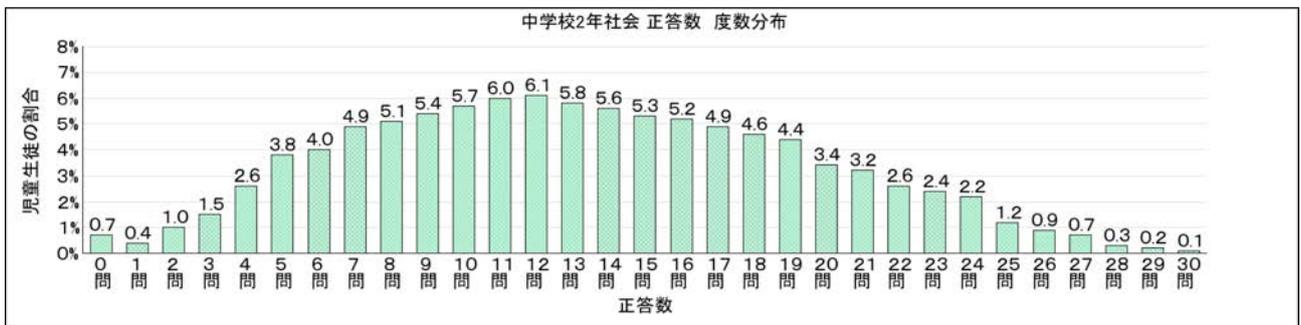
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		日本の地域構成	世界的特色	日本の諸地域	中世の日本	近世の日本	表現	社会的な思考・判断	資料活用	知識・理解	社会的な事象についての						選択式
1 (1)	北方領土である国後島と択捉島の名称と位置を理解している	○							○		○		75	55	15.5	26.6	●
1 (2)	領空の範囲が領土と領海を合わせた範囲であることを理解している	○							○	○			70	50	34.5	1.2	●
1 (3)	資料を基に、日本がブラジルに比べて領土に対する排他的経済水域の面積の割合が大きい理由を説明することができる	○						○			○	○	60	40	61.9	17.4	◎
1 (4)	資料から、ニューヨークが1月1日午前0時の時の日本の時刻を読み取ることができる	○						○			○		60	40	18.3	15.5	●
1 (5)	日本の7地方区分した地図における関東地方と近畿地方の位置と名称を理解している	○							○	○			75	55	66.5	0.9	
2 (1)	日本列島を含み太平洋を取り囲むように連なっている造山帯が環太平洋造山帯であることを理解している		○						○	○			75	55	57.8	12.5	
2 (2)	日本列島の地形を東と西に分ける溝状の地形がフォッサマグナであることを理解している		○						○	○			75	55	40.0	31.4	●
2 (3)	資料から、日本の川が世界の川と比べると長さが短く、傾斜が急であることを読み取ることができる		○						○		○		65	45	85.7	7.4	◎
2 (4)	川が山地から平地へ流れるところに土砂が溜まってできた地形が扇状地であることを理解している		○						○	○			75	55	53.6	15.0	●
2 (5)	資料から、温帯に属している東京の雨温図を読み取ることができる		○						○	○			70	50	68.9	1.4	
2 (6)	資料を基に、日本海側の人々の生活の工夫と気候の特色を関連付けて説明することができる		○						○		○	○	55	35	59.9	13.6	◎
3 (1)	火山の噴火口の周りがくぼんでできた地形がカルデラであることを理解している			○						○	○		75	55	56.8	20.1	
3 (2)	北九州エコタウンの取組について理解している			○						○	○		70	50	50.6	1.4	
3 (3)	資料から、鹿児島県の農業の特色を読み取ることができる			○						○	○		75	55	73.9	1.3	
3 (4)	資料から、宮崎県のピーマン生産農家の工夫を読み取ることができる			○						○	○		70	50	65.2	1.3	
4 (1)	資料から、源頼朝が開いた鎌倉幕府の位置を読み取ることができる			○						○	○		75	55	45.5	1.4	●
4 (2)	資料を基に、承久の乱の後、鎌倉幕府の西国に対する支配が強まった理由を説明することができる			○					○		○	○	55	35	14.2	20.9	●
4 (3)	鎌倉時代に武士の慣習を基につくられた法律が御成敗式目であることを理解している			○						○	○		70	50	17.0	31.5	●
4 (4)①	弘安・文永の役で日本が戦った元について理解している			○						○	○		75	55	26.5	2.7	●
4 (4)②	弘安・文永の役で日本が戦ったときの執権が北条時宗であることを理解している			○						○	○		70	50	40.8	25.1	●
5 (1)	後醍醐天皇が行った政治改革が建武の新政であることを理解している			○						○	○		70	50	13.5	42.5	●
5 (2)	資料を基に、足利尊氏が兵を挙げた理由を説明することができる			○							○	○	60	40	17.2	31.5	●
5 (3)	日明貿易で正式な貿易商人かどうかを判断するために使用された勘合を理解している			○						○	○		75	55	34.3	29.3	●
5 (4)	資料から、室町時代の文化の特色を読み取ることができる			○						○	○		70	50	48.7	2.6	●
5 (5)	応仁の乱の頃から見られた風潮である下剋上を理解している			○						○	○		70	50	54.2	29.0	
6 (1)	江戸幕府において、将軍を補佐し政治を行っていた役職が老中であることを理解している				○					○	○		75	55	77.6	1.8	◎
6 (2)	資料から、江戸幕府の大名の配置と支配の工夫について読み取ることができる				○						○	○	70	50	53.5	2.2	
6 (3)	資料を基に、大名が江戸幕府に従い反抗することができなかった理由を説明することができる				○					○	○		60	40	23.8	31.0	●
6 (4)	九州地方で起こったキリスト教の弾圧や重い年貢の取り立てに反対した人々の反乱が島原・天草一揆であることを理解している				○					○	○		70	50	32.8	24.9	●
6 (5)	幕府による鎖国政策のねらいについて理解している				○					○	○		70	50	21.5	2.5	●

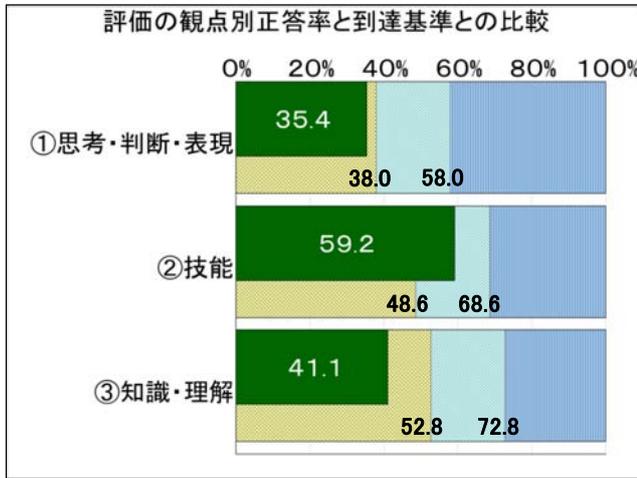
○ 設問ごと正答率



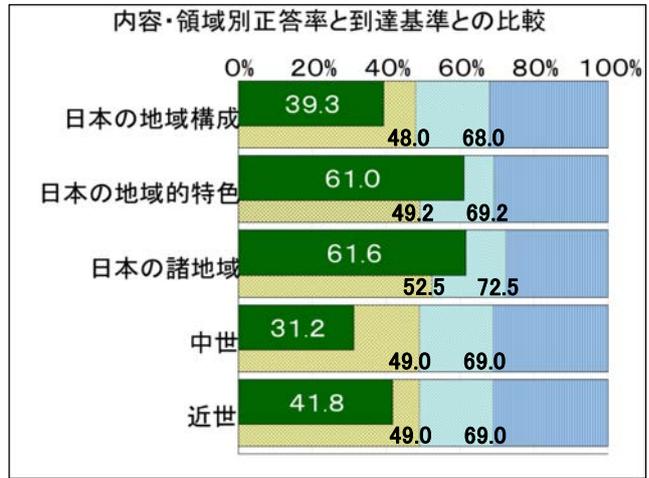
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

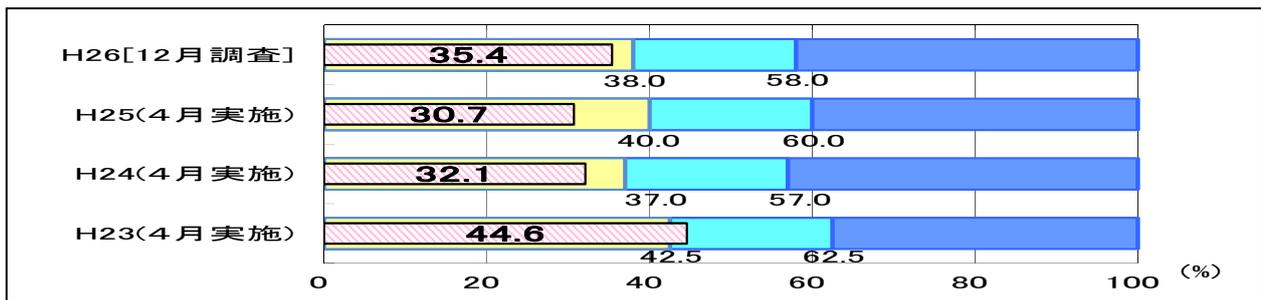


○ 内容・領域別正答率

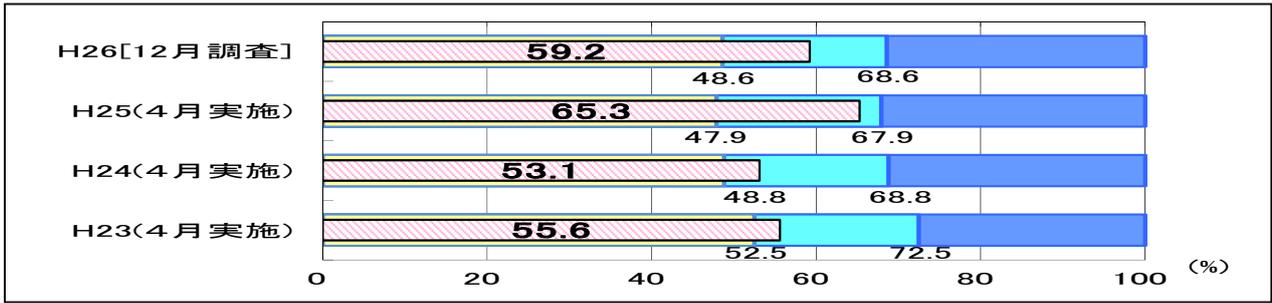


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

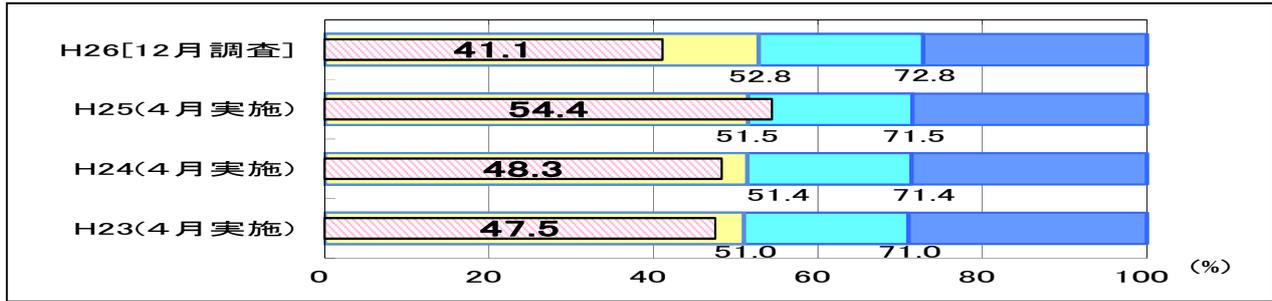
※ 平成25年度(4月調査)までは、中学1年生までの内容で調査。
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能

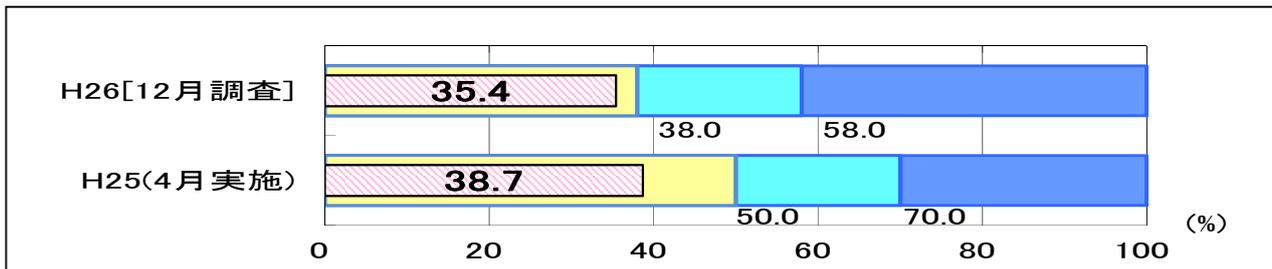


社会的事象についての知識・理解

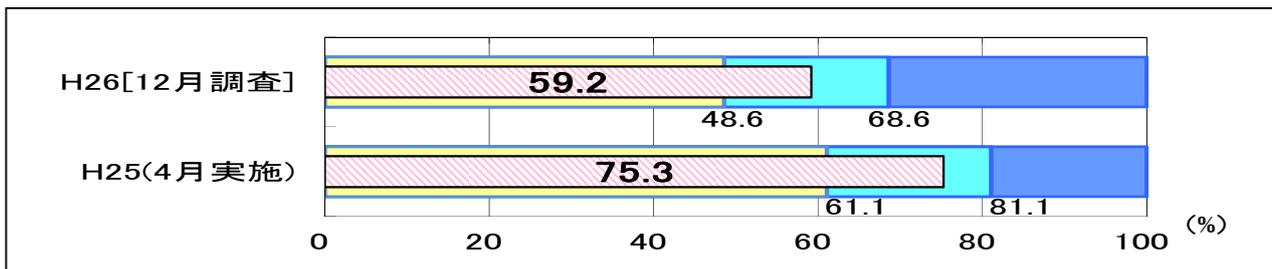


○ 評価の観点別正答率(同一生徒)

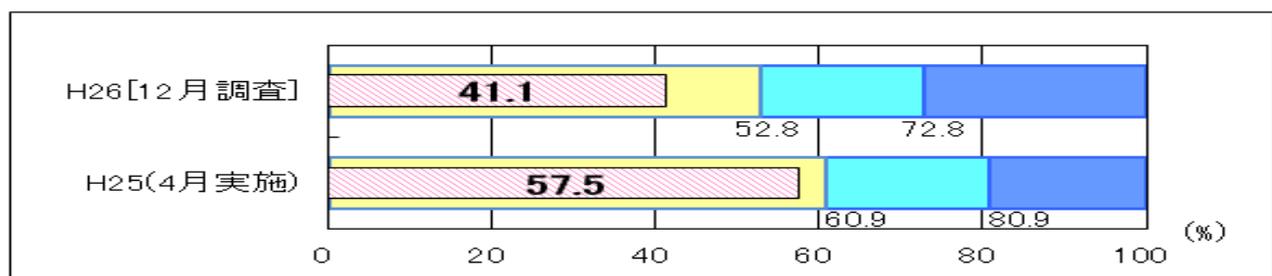
※ 中学1年生時である平成25年度(4月実施)は、小学6年生までの内容で調査。
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生、中学2年生ともに評価の観点「資料活用の技能」は、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 中学1年生、中学2年生ともに評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」は、「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。平成25年度調査において課題として挙げられていた「社会的な事象に関わる知識、概念を習得すること」「資料から読み取ったことや自分で解釈したことを説明すること」においては、平成26年度[12月調査]も課題が見られた。

② 中学1年生

- 内容・領域別正答率については、地理的分野の内容・領域「世界の地域構成」「アジア州」において「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 内容・領域「アジア州」の「社会的な思考・判断・表現」を問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3(4)	資料を基に、東南アジア諸国に日本の企業が進出している理由を説明することができる。 (記述式)	企業数の変化と賃金の比較を示した資料を基に、日本企業が東南アジア諸国に進出する理由を条件に合わせて説明する。	27.2	23.6	60.0	40.0

・ 解答状況

資料から、東南アジア諸国に進出する日本企業が増えていること、東南アジア諸国の賃金が日本に比べると安いことが読み取れる。この設問では、賃金が安いということと生産に掛かる費用を関連付けて考えることや条件に合わせて適切に記述することができなかつたのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

生徒の身の回りにある食料品や工業製品に着目させ、生産地を調べさせたり、東南アジアに進出した日本企業の写真や映像などを見せたりすることで東南アジア諸国と日本との関わりについて気付かせる。その後、「なぜ、日本の企業が東南アジア諸国に進出しているのか」を学習課題として設定する。資料を基に調べ、生産面など特定の視点からその理由を考察させることが必要である。

- 内容・領域別正答率において、歴史的分野では「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。内容・領域「歴史のとらえ方」の年代の表し方、時代区分についての設問において課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4(3)	時代区分の「古代」について理解している。 (記述式)	会話文中に当てはまる時代区分を選択する。	19.9	1.3	70.0	50.0

- ・ 解答状況

この設問は、聖武天皇を示す資料と会話文を参考に文章中に当てはまる語句を選択する設問である。歴史の流れをつかむ基本となる年代の表し方や時代区分についての理解が不十分だったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

黒板の年表に小学校で学習した歴史上の人物などを提示し、人物の分布に注目させながら、時代区分に気付かせる。また、それぞれの時代ごとに、どのような出来事があったかを発表させながら時代ごとのイメージをもたせる。その中で「貴族や天皇が活躍した時代」というように大まかな時代像を捉えさせ、「原始」「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」の時代区分を確認させる。学習を進めるにあたって、年代の表し方や時代区分については、各単元の導入やまとめを行う際に継続的・計画的に扱う必要がある。

② 中学2年生

- 評価の観点別正答率について、到達基準を1とした値で同一生徒の経年比較をすると、「社会的な思考・判断・表現」は平成25年度調査より上回っている。
- 内容・領域「日本の諸地域」については、平成25年度調査で内容・領域別正答率において「おおむね達成」の到達基準を下回っていたが、平成26年度[12月調査]では「おおむね達成」の到達基準を上回っており、改善が見られた。
- 内容・領域別正答率については、地理的分野の内容・領域「日本の地域構成」において「おおむね達成」の到達基準を下回った。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H26 中2 問1(1)①②	北方領土である国後島と択捉島の名称と位置を理解している。 (短答式)	資料に示されている北方領土である「国後島」と「択捉島」を答える。	15.5	26.6	75.0	55.0
H25 中3 問1(1)①②			21.8	24.9		

- ・ 解答状況

この設問は、平成25年度調査(中学3年生)と同一の設問である。平成25年度調査(中学3年生)と比較して、期待正答率は6.3ポイント下回り、無解答率は1.7ポイント増加した。北方領土である国後島や択捉島の位置や名称の理解が不十分だったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

まず、地球儀や地図を活用し、日本の国土の位置や海洋国家としての特色を理解させる。次に、北方領土が我が国の固有の領土であり、ロシアに返還を求めていることなどを資料から読み取らせる。そして、地図上で北方領土の位置や名称を確認させることで、我が国の領土・領域について理解させることが大切である。また、歴史的分野や公民的分野で取り扱う際にも地図を活用し、位置や名称を確認していくことで理解が深まる。

- 歴史的分野の内容・領域「中世の日本」「近世の日本」において「おおむね達成」の到達基準を下回った。特に歴史的分野の内容・領域「中世の日本」の「社会的な思考・判断・表現」を問う設問において、課題が見られた。鎌倉時代の歴史的事象についての理解が不十分だったのではないかと推察される。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問 4(2)	資料を基に、承久の乱の後、鎌倉幕府の西国に対する支配が強まった理由を説明することができる。 (記述式)	承久の乱前後の幕府のしくみの変化と西国(西日本)の変化を示した資料を基に、鎌倉幕府が支配力を強めていったことを説明する。	14.2	20.9	55.0	35.5

・ 解答状況

資料から、承久の乱後に六波羅探題が設置され、朝廷を監視したことや西国の武士を統制したこと、西国(西日本)に守護や地頭が任命されたことを読み取り、2つの資料を関連させながら鎌倉幕府が支配力を西国(西日本)へ強めていったことを考えることができなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

承久の乱が起こった時代背景や鎌倉幕府と御家人の関係を確認させる。後鳥羽上皇が幕府から政権を取り戻そうとして承久の乱が起こったことや鎌倉幕府と主従関係を結んだ御家人が東国に多かったことを理解させる。次に、承久の乱後に京都に六波羅探題が設置されたことを確認し、その意味や意義を考えさせる。そして、承久の乱で活躍した東国の武士が守護や地頭として西国に任命されたことを理解させる。これらのことを関連させながら、鎌倉幕府が西国へ支配力を強めていったことを考えさせることが必要であるとする。

- 歴史的分野の内容・領域「中世の日本」の「社会的事象についての知識・理解」を問う設問において、課題が見られた。鎌倉時代から室町時代にかけての時代の特色や歴史的な事象についての理解が不十分だったのではないかと推察される。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問 5(1)	後醍醐天皇が行った政治改革が建武の新政であること理解している。 (短答式)	後醍醐天皇が始めた新しい政治「建武の新政」を答える。	13.5	42.5	70.0	50.0

・ 解答状況

この設問は、後醍醐天皇について説明してあるカードの空欄に当てはまる語句を答える短答式の設問である。この設問は、無解答率が他の設問に比べると高かった。建武の新政が行われた年代、新政を行った後醍醐天皇やその時代の社会の様子などが理解できていなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

まず、蒙古襲来を境に鎌倉幕府の政治が行き詰まる中で、幕府に従わない武士たちが登場したこと、後醍醐天皇が政治の実権を取り戻そうと幕府に不満をもつ御家人や悪党を味方に付け幕府を倒そうとしたことを理解させる。次に、幕府を倒した後に、後醍醐天皇を中心とする政治が始められ、これまでの武家のしきたりを無視したことや天皇に権力を集めた政策を行ったことを理解させる。そして、それらの政治改革に不満をもった武士や農民、貴族がいたことを理解させ「なぜ、足利尊氏は兵を挙げたのか」という学習課題を設定し、考察させることで建武の新政の意味や意義、特色を当時の時代背景を踏まえながら捉えさせることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 社会的事象についての知識や概念の理解と定着

- ・ 基礎的・基本的な知識や概念を一度の学習によって定着させることは難しい。また、授業で知識や技能が定着したとしても、それらを活用して課題を解決するまでには至っていないと考えられる。そこで、学習する際には、適切な学習課題の設定や課題を追求する調査活動、表現活動を行い習得した知識や概念を活用する場面を学習に取り入れていく必要がある。具体的には、資料や作業的・体験的な学習からつかんだ社会的事象を他の社会的事象と比較・関連付けたり、説明したりすることで知識や概念を習得させるような工夫が必要である。
- ・ 単元や授業の前後に小テストなどを実施し、反復的な学習を設定する。単元や授業の導入の部分で、重要語句など一問一答形式で出題し、語句の理解の定着を図る。そして、単元や授業のまとめでは、その語句について説明させるなどの表現活動を行う。その際、事象の背後にある関係性などを見付け、習得した知識や概念を使いながら説明できるように、支援を行う必要があると考える。
- ・ 小学校での学習内容や生徒が身に付けている力について把握し、小学校との系統性を踏まえた学習内容や指導の工夫を行うことも必要であると考えられる。

② 思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実

- ・ 学習指導要領解説には「社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味・意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの、言語活動に関わる学習を一層重視すること」¹⁾として、言語活動の充実について述べてある。社会的事象の意味・意義を解釈したり、特色や関連を説明したりするなどの活動など、言語を使って考え、判断し、表現するという学習の充実が必要である。

地理的分野においては、「地図」を十分に活用する。世界の様々な地域の調査や身近な地域の調査において、地図を活用して事象を説明したり、自分の解釈を論述したり、意見交換したりする学習に取り組ませる。

歴史的分野においては、各時代を大観し表現する活動を通して、その時代の特色を捉える学習や政治面などの変革の特色を考えて時代の転換の様子を捉える学習の際に、自分の言葉でまとめたことを表現したり、意見交換したりする学習に取り組ませる。

公民的分野においては、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方をを用いて、政治、経済、国際関係に関する諸事象を捉えさせる。そして、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の意見をまとめたりする学習に取り組ませる。また、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求させ、解決策を考えたり、議論したりする学習に取り組ませる。

これらの学習活動を充実させることによって、「思考力・判断力・表現力」を育むことができると考える。また、日頃より文章で答えさせる指導をすることも必要であると考えられる。一問一答や重要語句を答えさせる質問だけでなく、キーワードや資料を使い事象の特色や事象間の関連を説明させたり、記述させたりする必要のある質問を行う。そうすることで、学習内容についての理解や認識を一層深めることができると思われる。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「取り上げるべき社会的な問題の整理の仕方」、「問題を明解にする手立て」、「取り組みやすい授業の在り方」なども紹介しています。

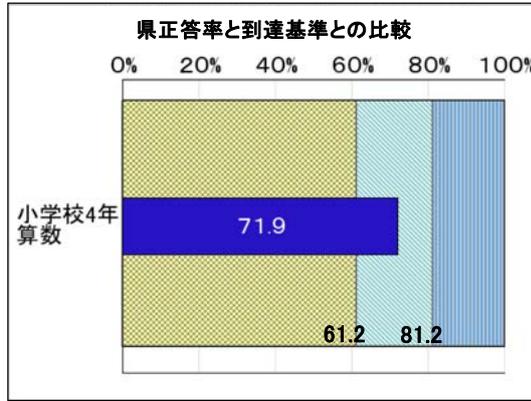
※引用文献 1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会編』 平成20年9月 p. 6

1 小学校算数

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

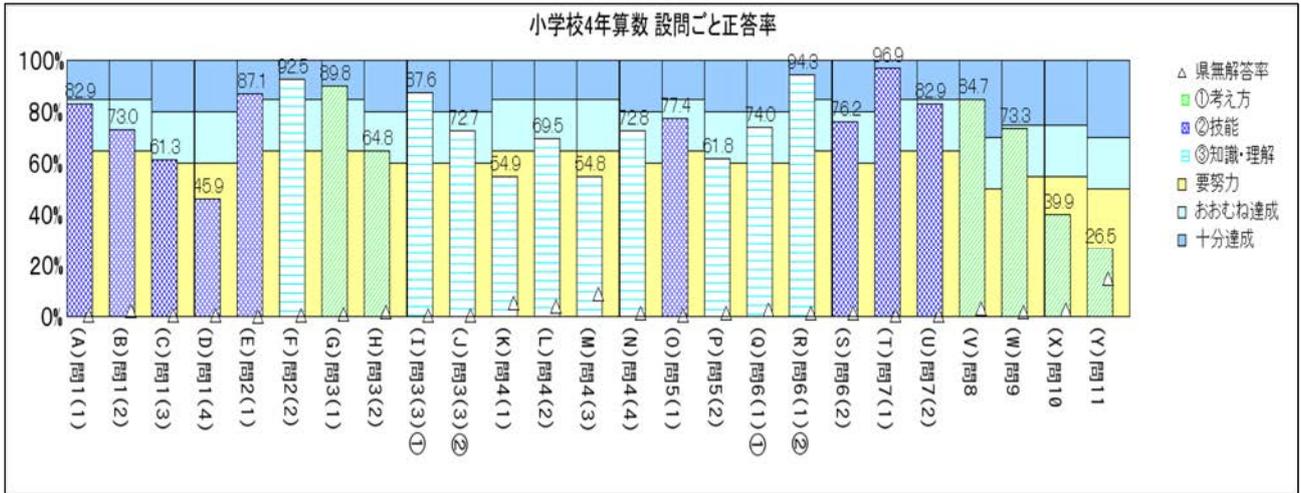
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての知識・理解	技能や図形についての	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	2位数×2位数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	82.9	0.3	
1 (2)	除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	73.0	2.1	
1 (3)	1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○			○			80	60	61.3	0.6	
1 (4)	四則の混合した式の計算をすることができる				○	○			○			80	60	45.9	0.6	●
2 (1)	分度器を用いて角の大きさを求めることができる		○			○			○			85	65	87.1	0.1	◎
2 (2)	1回転したときの角の大きさが360°であることを理解している		○				○		○			85	65	92.5	0.3	◎
3 (1)	長方形の面積の公式を理解し、面積と横の長さから、縦の長さの求め方を考えることができる				○	○			○			85	65	89.8	0.9	◎
3 (2)	複合図形の面積の求め方を考えることができる				○	○			○			80	60	64.8	1.6	
3 (3)①	条件に適した重さの単位について理解している				○			○	○			80	60	87.6	0.4	◎
3 (3)②	条件に適した体積の単位について理解している				○			○	○			80	60	72.7	0.3	
4 (1)	半径の意味と用語について理解している			○				○	○			85	65	54.9	5.2	●
4 (2)	正三角形の特徴を理解している			○				○	○			85	65	69.5	3.7	
4 (3)	対角線の意味と用語について理解している			○				○	○			85	65	54.8	8.6	●
4 (4)	億と兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○						○	○			80	60	72.8	1.2	
5 (1)	直線の位置関係に着目し、平行な2つの直線を見付けることができる			○			○		○			85	65	77.4	0.3	
5 (2)	台形の特徴を理解している			○				○	○			80	60	61.8	1.3	
6 (1)①	分配法則について理解している				○			○	○			80	60	74.0	2.7	
6 (1)②	交換法則について理解している				○			○	○			85	65	94.3	1.5	◎
6 (2)	四則を混合させたり()を用いたりして立式をすることができる				○		○		○			80	60	76.2	1.2	
7 (1)	折れ線グラフで表されていることを読み取ることができる				○		○		○			85	65	96.9	0.5	◎
7 (2)	折れ線グラフの変化の様子を読み取ることができる				○		○		○			85	65	82.9	0.5	
8	考え方を表している図を基に、与えられたおはじきの数の求め方を説明することができる				○	○			○	○		70	50	84.7	2.9	◎
9	四角形を敷き詰めたときの角と角の関係を考えることができる			○		○			○			75	55	73.3	1.7	
10	示された情報を基に、図書館にいた時間を考えることができる		○			○			○	○		75	55	39.9	2.7	●
11	示された情報を基に、目標の金額になるための毎月の貯金額を求め、その求め方を説明することができる	○				○			○	○		70	50	26.5	14.9	●

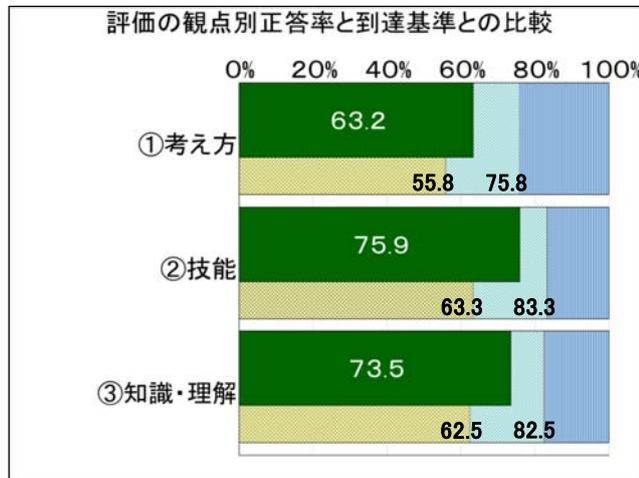
○ 設問ごと正答率



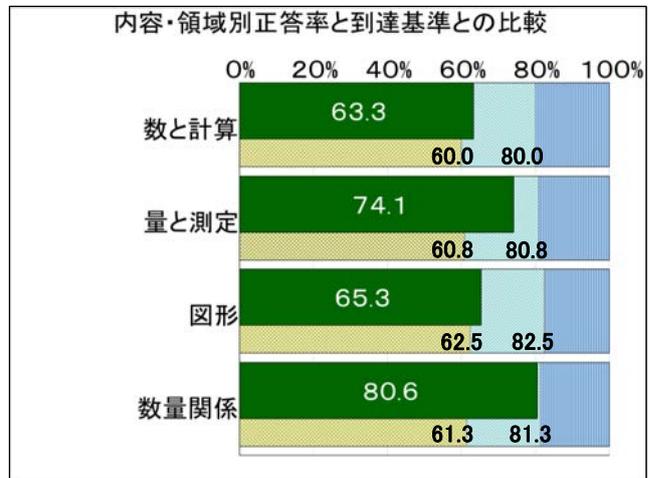
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

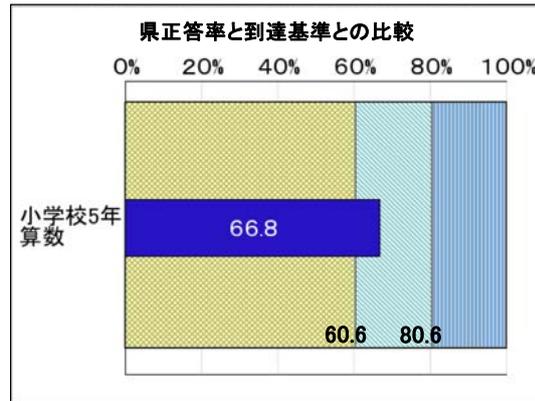


○ 内容・領域別正答率



② 小学5年生

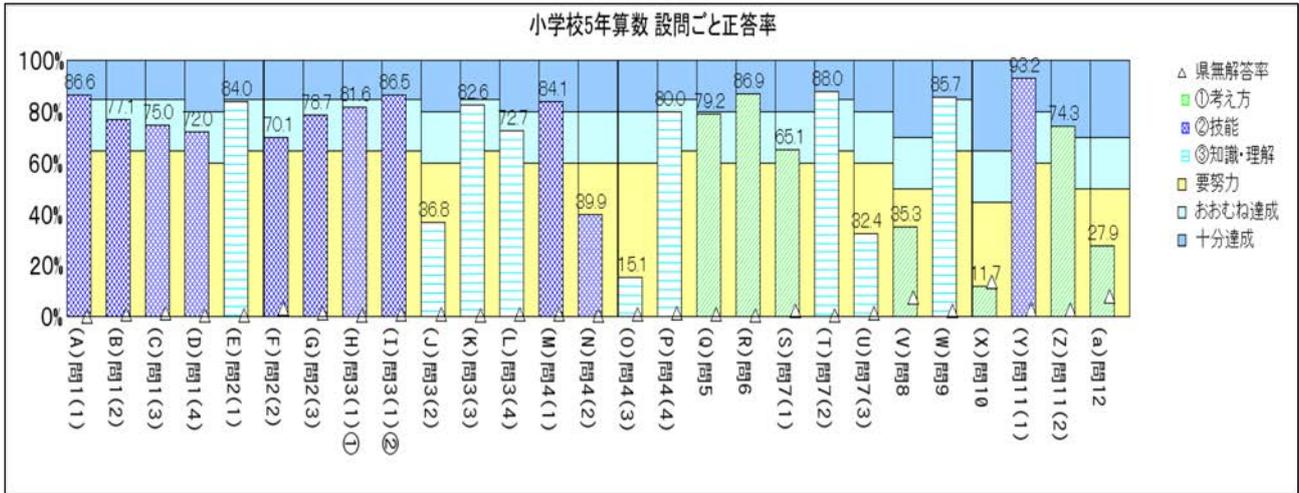
○ 教科全体正答率



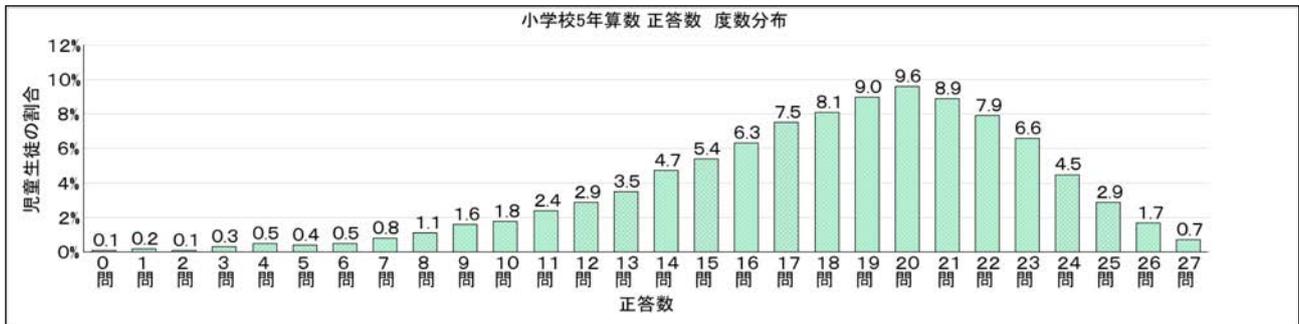
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能や知識・理解	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式						
1 (1)	被乗数、乗数が共に小数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	86.6	0.2	◎
1 (2)	被除数、除数が共に小数の除法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	77.1	0.7	
1 (3)	被除数が整数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	75.0	1.1	
1 (4)	()を用いた式の計算をすることができる				○	○			○			80	60	72.0	0.6	
2 (1)	奇数の意味について理解している	○						○	○			85	65	84.0	0.3	
2 (2)	二つの数の最大公約数を求めることができる	○				○			○			85	65	70.1	3.0	
2 (3)	二つの数の最小公倍数を求めることができる	○				○			○			85	65	78.7	1.4	
3 (1)①	小数を100倍した数を求めることができる	○				○			○			85	65	81.6	0.5	
3 (1)②	小数を1/100にした数を求めることができる	○				○			○			85	65	86.5	0.8	◎
3 (2)	小数の除法について、被除数、除数及び余りの間の関係について理解している	○						○	○			80	60	36.8	0.9	●
3 (3)	帯分数の大きさについて理解している	○						○	○			85	65	82.6	0.6	
3 (4)	小数の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している	○						○	○			80	60	72.7	0.9	
4 (1)	180° より大きい角の大きさを求めることができる	○				○			○			80	60	84.1	0.9	◎
4 (2)	m ² で表された面積を、cm ² で表すことができる	○				○			○			80	60	39.9	0.6	●
4 (3)	条件に適した単位について理解している	○				○		○	○			80	60	15.1	0.7	●
4 (4)	体積の単位と測定の意味について理解している	○				○		○	○			85	65	80.0	1.1	
5	考えを説明している言葉を基に、与えられた立体の体積を求める式を考えることができる	○				○			○			80	60	79.2	0.8	
6	展開図を組み立ててできる立体の頂点の位置関係を捉えることができる			○		○			○			80	60	86.9	0.6	◎
7 (1)	三角形の三つの角の大きさの和が180° になることを基に、未知の角の大きさを求めることができる			○		○			○			80	60	65.1	2.2	
7 (2)	合同な図形について理解している			○				○	○			85	65	88.0	0.6	◎
7 (3)	合同な三角形をかくために必要な条件を理解している			○				○	○			80	60	32.4	1.3	●
8	示された情報を基に、棚の中に片付けることができるコップの数を求め、その求め方を説明することができる	○				○			○	○		70	50	35.3	7.2	●
9	ものの位置の表し方を理解している			○					○			85	65	85.7	2.2	◎
10	示された情報を基に、看板に色を塗るために必要なペンキの量を求め、その求め方を説明することができる	○	○			○			○	○		65	45	11.7	13.5	●
11 (1)	図や表を基にして、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、未知の数量を求めることができる				○		○		○			80	60	93.2	2.4	◎
11 (2)	図や表を基にして、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、変わり方のきまりを考えることができる				○	○			○			70	50	74.3	2.7	◎
12	示された条件を基に、減らす水の体積が、入れ物の容積の何倍になるかを考えることができる			○		○			○	○		70	50	27.9	7.7	●

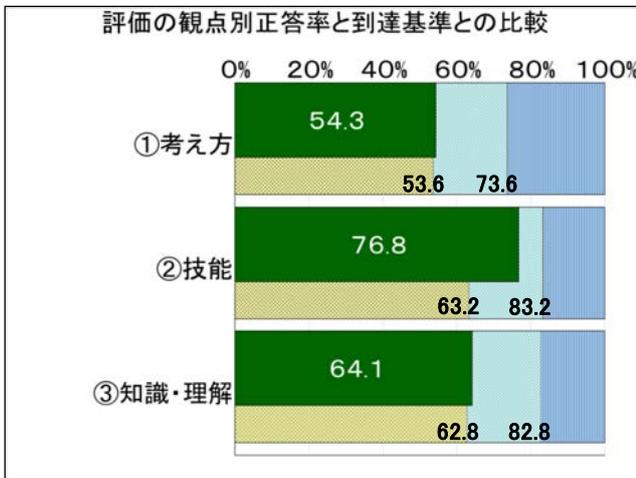
○ 設問ごと正答率



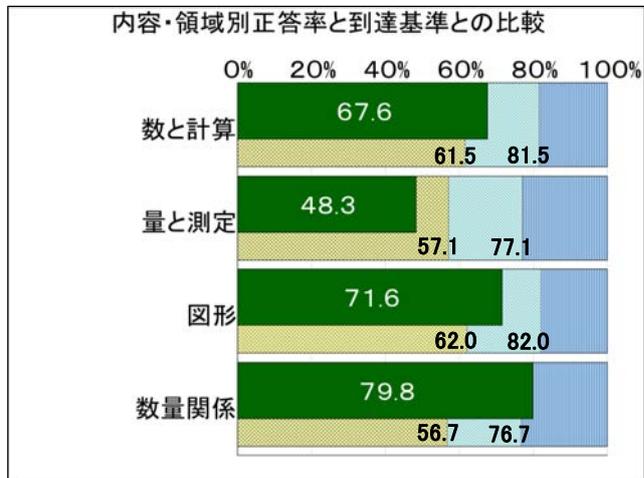
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

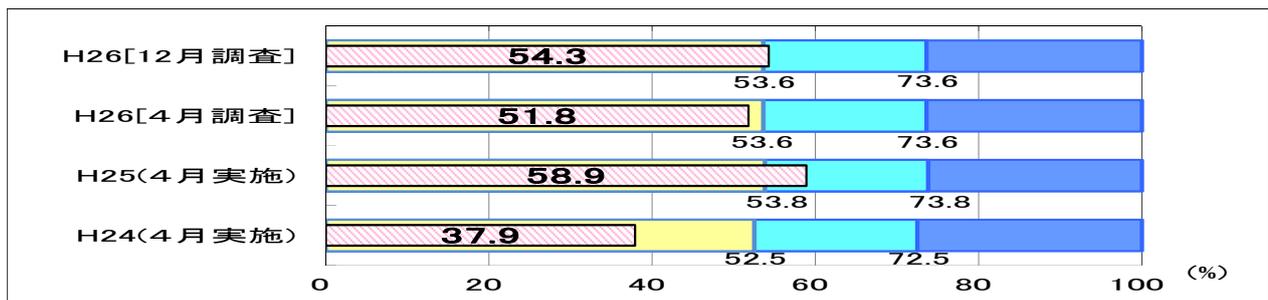


○ 内容・領域別正答率

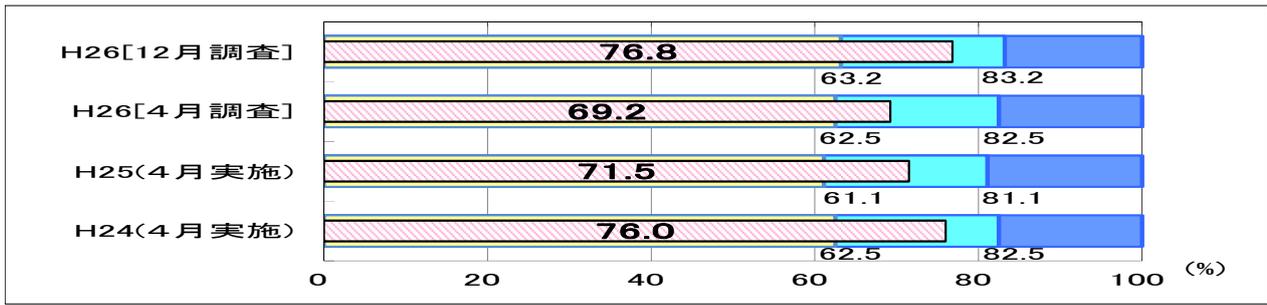


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

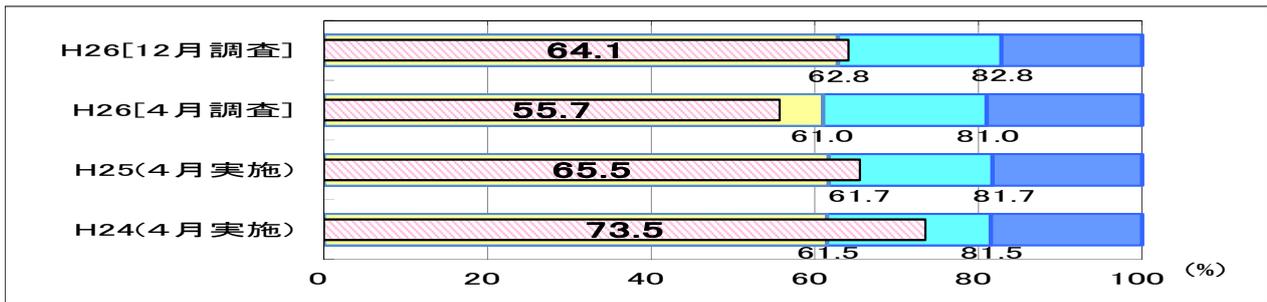
数学的な考え方



数量や図形についての技能

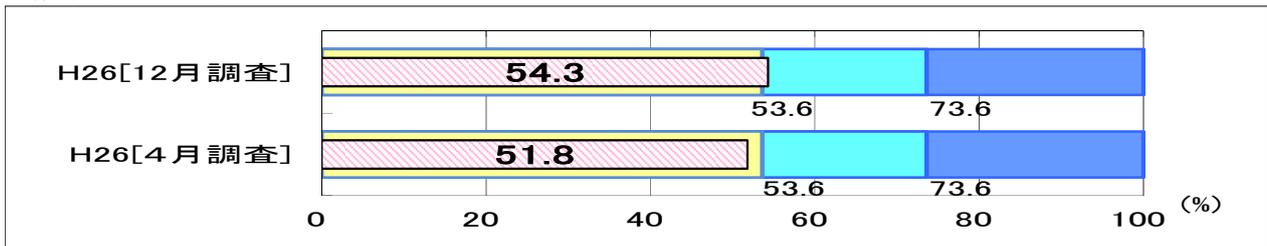


数量や図形についての知識・理解

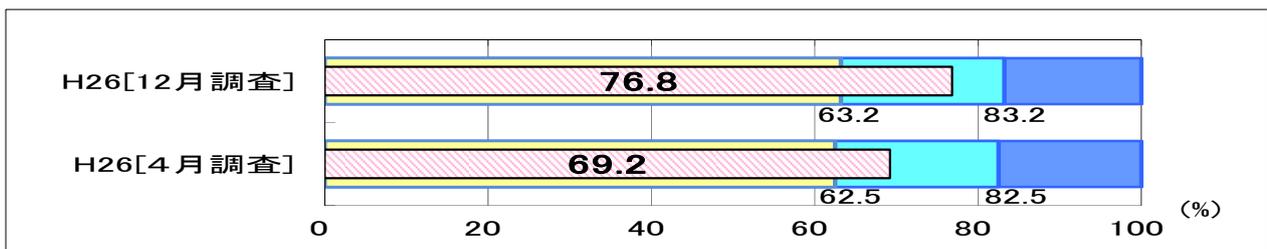


○ 評価の観点別正答率の推移(同一児童)

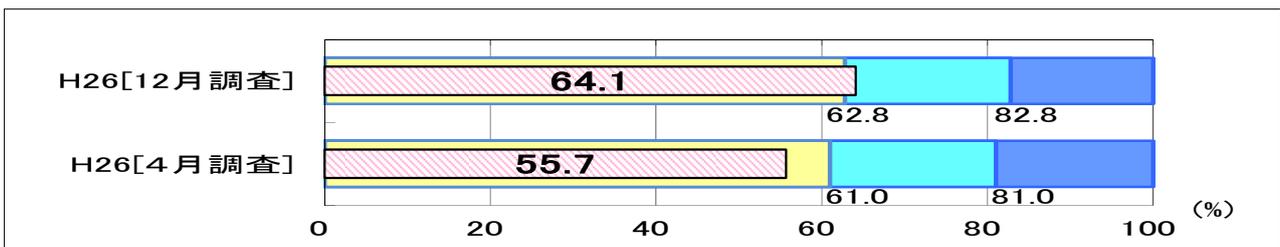
数学的な考え方



数量や図形についての技能

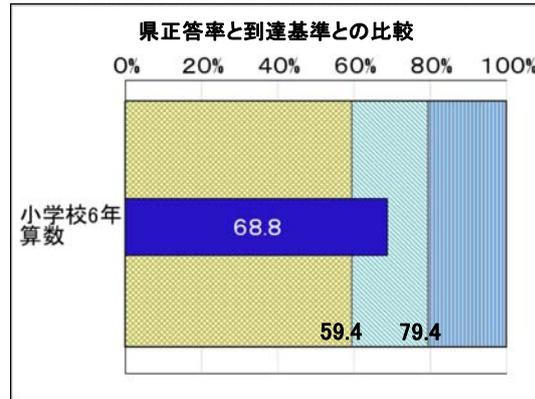


数量や図形についての知識・理解



③ 小学6年生

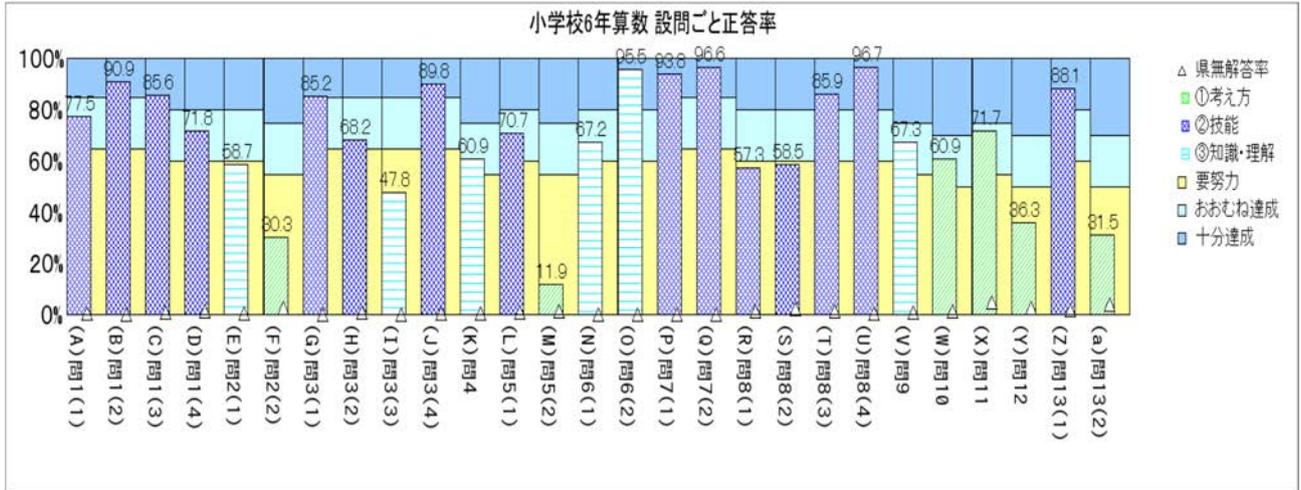
○ 教科全体正答率



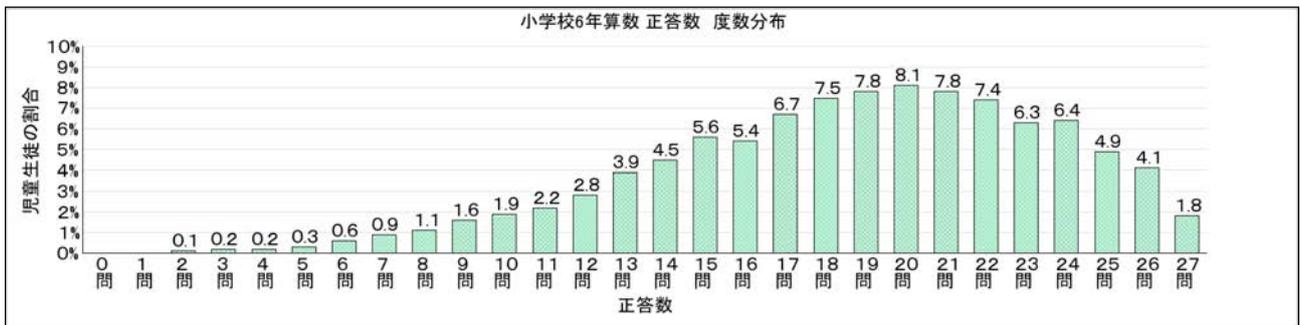
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	技能や図形についての	知識や図形についての	数量や図形についての	選択式	短答式					
1 (1)	異分母の分数の加法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	77.5	0.5	
1 (2)	分数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	90.9	0.2	◎
1 (3)	分数の除法の計算をすることができる	○				○			○			80	60	85.6	0.7	◎
1 (4)	被除数が分数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○				○			○			80	60	71.8	1.5	
2 (1)	場面と数直線を関連付けて、二つの数量の関係を理解している								○	○		80	60	58.7	0.5	●
2 (2)	数量の関係を捉え、基準にする大きさを求める式を考えることができる	○				○			○			75	55	30.3	2.7	●
3 (1)	円の面積を求めることができる		○			○			○			85	65	85.2	0.2	◎
3 (2)	三角柱の体積を求めることができる		○			○			○			85	65	68.2	0.9	
3 (3)	平行四辺形の面積を求める公式を理解している		○						○	○		85	65	47.8	0.2	●
3 (4)	長さや時間から速さを求めることができる		○			○			○			85	65	89.8	0.5	◎
4	除数が分数である除法において、除数と商の大きさの関係について理解している	○							○	○		75	55	60.9	0.4	
5 (1)	平均を求めることができる		○			○			○			80	60	70.7	0.7	
5 (2)	円を半分にした形の周りの長さを考えることができる			○		○			○			75	55	11.9	1.3	●
6 (1)	線対称な図形における対称の軸の数を理解している			○					○	○		80	60	67.2	0.2	
6 (2)	点対称な図形における対応する点の位置関係を理解している			○					○	○		80	60	95.5	0.1	◎
7 (1)	拡大図の対応する角の大きさを求めることができる			○		○			○			85	65	93.8	0.1	◎
7 (2)	拡大図の対応する辺の長さを求めることができる			○		○			○			85	65	96.6	0.2	◎
8 (1)	x や y を用いて、数量の関係を式に表すことができる				○	○			○			80	60	57.3	1.1	●
8 (2)	百分率を用いて計算することができる				○	○			○			80	60	58.5	2.0	●
8 (3)	比を簡単にすることができる				○	○			○			80	60	85.9	1.1	◎
8 (4)	反比例の関係を基に、当てはまる値を求めて表を完成することができる				○	○			○			80	60	96.7	0.5	◎
9	比例のグラフの特徴を理解している				○				○	○		75	55	67.3	0.8	
10	示された情報を基に、安売りの日のおつりの金額を考えることができる	○				○			○	○		70	50	60.9	1.3	
11	示された説明を解釈し、用いられている考えを別の図形に適用して説明することができる		○			○				○	○	75	55	71.7	4.9	
12	示された情報を基に、正しい比にするために必要なマヨネーズの量を考えることができる				○	○			○	○		70	50	36.3	2.4	●
13 (1)	資料を基に、10月の貸し出し冊数が、8月の貸し出し冊数の何倍になっているかを求めることができる				○	○			○			80	60	88.1	1.6	◎
13 (2)	示された考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて判断し、その理由を説明することができる				○	○				○	○	70	50	31.5	3.9	●

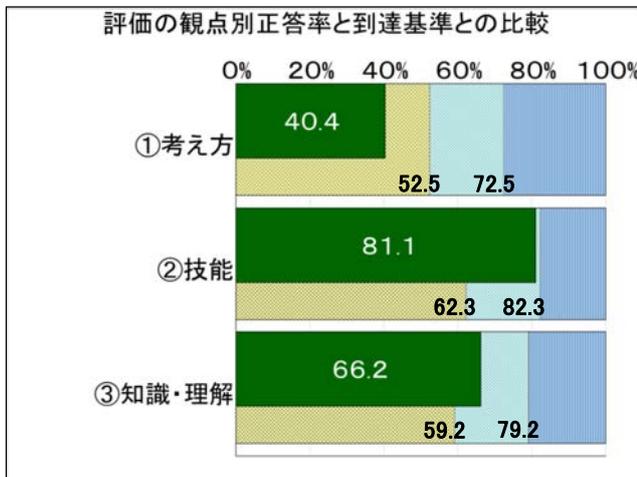
○ 設問ごと正答率



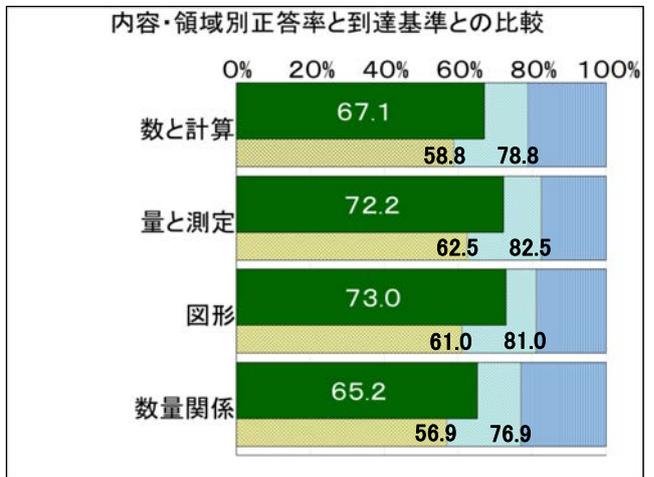
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

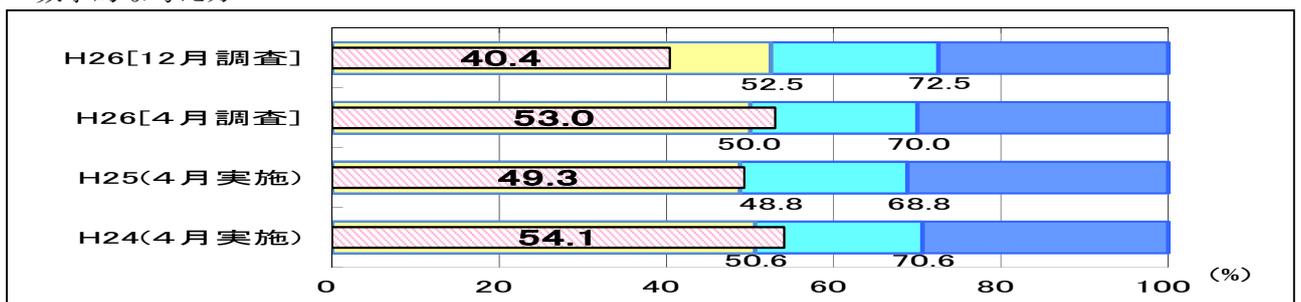


○ 内容・領域別正答率

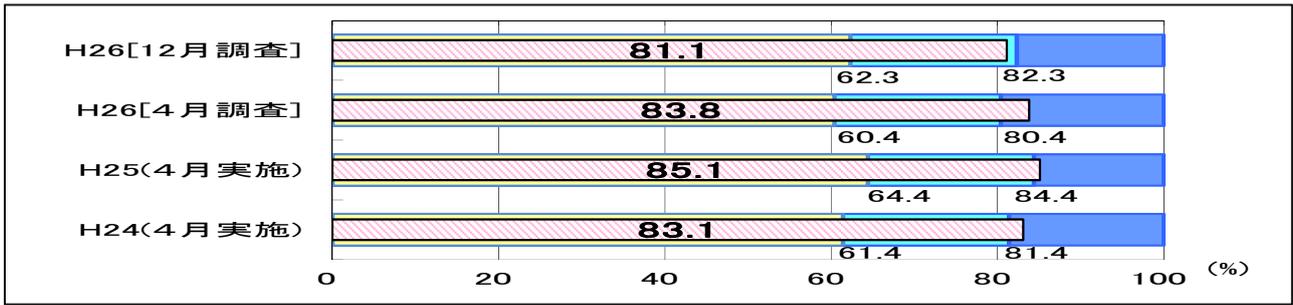


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

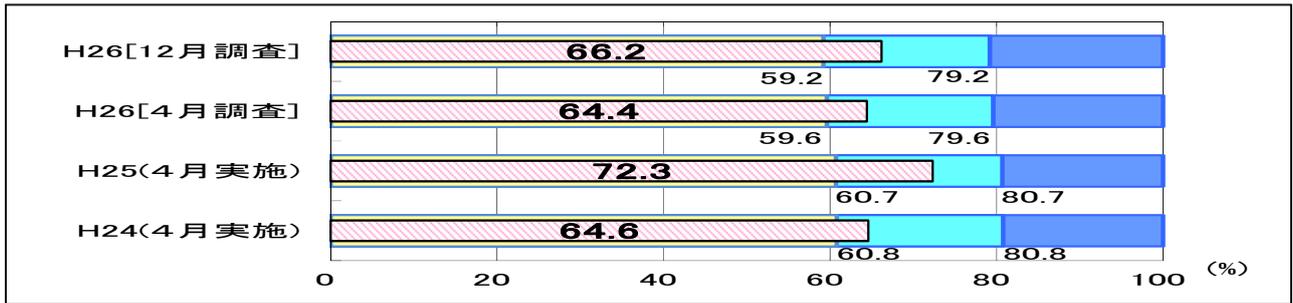
数学的な考え方



数量や図形についての技能

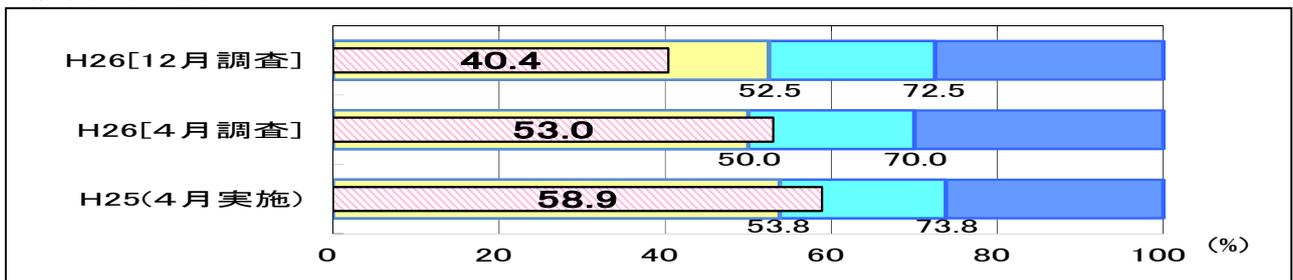


数量や図形についての知識・理解

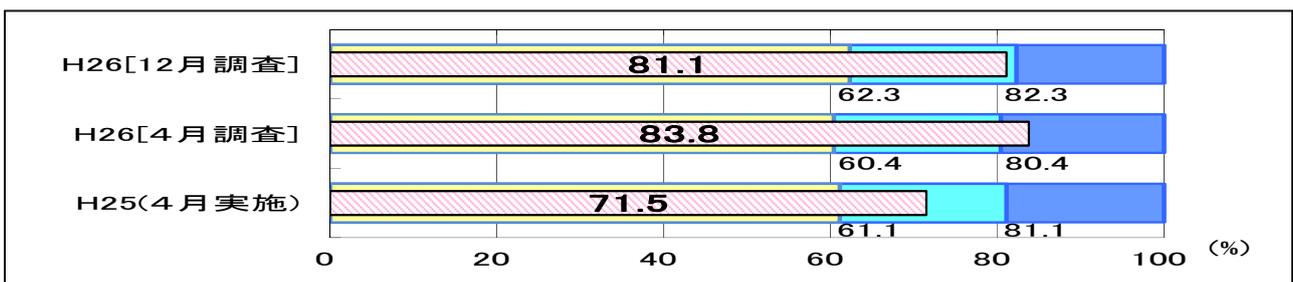


○ 評価の観点別正答率(同一児童)

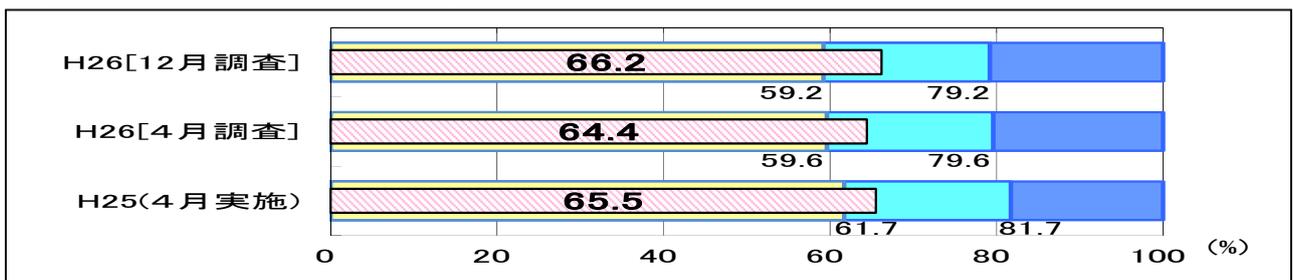
数学的な考え方



数量や図形についての技能



数量や図形についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 小学校全体

- 全ての学年において、評価の観点「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。基礎的な技能や知識など、基礎的・基本的な事項の定着はおおむね良好であった。
- [4月調査]と比べると、小学5年生、小学6年生の記述式の設問において、無解答率が減少した。式や言葉を用いて考えを説明しようとする態度が育ってきているのではないかと考える。
- [4月調査]において課題として挙げられていた評価の観点「数学的な考え方」は、小学4年生、小学5年生において「おおむね達成」の到達基準を上回っていたが、小学6年生において「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。既習事項を活用して問題を解決する力や、その解決方法を式や言葉で説明する力などには引き続き課題が見られた。

② 小学4年生

- 「活用」に関する問題において、「他者の考えを解釈し、異なる図の場合でも他者の考えを基に説明すること」を問う設問（大問8）は「十分達成」の期待正答率を上回った。
- 四則の混合した計算をする力に課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1(4)	四則の混合した式の計算 をすることができる。 (短答式)	$70 + 30 \times 4$ の計算を する。	45.9	0.6	80.0	60.0

・ 解答状況

「四則が混合した式の計算の順序についてのきまりを正しく使って計算をすること」を問う設問である。加法を乗法より先に計算したのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

計算の順序についてのきまりを理解し、正しく計算できるようにすることが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

- ㊦ 式を提示した際に、直ちに計算させるのではなく、まず、どの順序で計算すればよいのかを児童に考えさせる学習活動を仕組む。
- ㊧ 誤答例を提示し、どこが間違いなのかを説明したり、正しい計算の順序を考えたりする学習活動を仕組む。また、計算の順序についてのきまりは、様々な場面を捉えて指導し、確実に理解できるようにすることが大切である。

- 必要な情報を整理して考え、与えられた条件に合う時間を求める力に課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問10	示された情報を基に、図 書館にいた時間を考える ことができる。 (短答式)	出発、到着の時刻と移 動にかかった時間を基 に、図書館にいた時間 を求める。	39.9	2.7	75.0	55.0

・ 解答状況

「複数の情報を整理し、与えられた条件に合う時間を求めること」を問う設問である。示された情報から出発、到着の時刻と移動に掛かった時間を読み取り、整理しながら考えなければならない。複数の情報を整理して考えることが難しかったのではないかと推察される。

また、時間の学習内容について理解できていない児童もいたのではないかと考える。

- 改善・充実に向けて

複数の情報を整理しながら、問題を解決していく学習活動を行うことが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

- ㊦ 問題を提示する際に、問題場面を区切り、示された情報を整理させる学習活動を仕組む。
- ㊧ 示された情報を図の中に整理して表させる学習活動を仕組む。また、時間の学習内容は、授業中のみならず日常生活においても活用させることで理解を深めさせる必要がある。

③ 小学5年生

○ 「活用」に関する問題において、「表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を読み取ること」を問う設問（大問 11）は「十分達成」の期待正答率を上回った。

● 量の大きさについての感覚や、基本的な面積の求め方についての理解に課題が見られた。

- 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 4 (3)	条件に適した単位について理解している。 (選択式)	面積が 150cm^2 になるものを選ぶ。	15.1	0.7	80.0	60.0

- 解答状況

「教室の面積」「教室のつくえの面積」「算数の教科書の表紙の面積」「はがきの面積」の中から面積が 150cm^2 になるものを選択する設問である。 150cm^2 とは、縦が 15cm 、横が 10cm などの長方形の面積であることを捉えることができずに、誤った選択肢を選んだのではないかと推察される。

- 改善・充実に向けて

身の回りのいろいろなものの量について感覚を身に付け、簡単な計算でおおよその量が分かるようにさせることが大切である。また、面積を長方形や正方形などの分かりやすい図形の大きさに置き換えて考えることができるようにさせることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ㊦ 様々な具体物の大きさを調べたり、確かめたりする体験的な学習活動を仕組む。
- ㊧ 身の回りのものの面積を調べる活動において、示された面積に近いものを身の回りから探したり、示された面積を方眼紙にかいたりする学習活動を仕組む。

● 図形の性質についての理解に課題が見られた。

- 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 7 (2)	合同な図形について理解している。(選択式)	複数の図形の中から、合同になっている図形の組み合わせを選ぶ。	88.0	0.6	85.0	65.0
問 7 (3)	合同な三角形をかくために必要な条件を理解している。(選択式)	合同な図形をかくために測る必要がある辺や角を選ぶ。	32.4	1.3	80.0	60.0

- 解答状況

問 7(2)は「合同な図形の組み合わせを選択すること」を問う設問であり、問 7(3)は「合同な図形をかくために必要な条件を理解していること」を問う設問である。問 7(2)の正答率は「十分達成」の期待正答率を上回っており、形と大きさから合同な図形を判断することができた

推察する。しかし、問7(3)の正答率は「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、どのような条件を用いれば、合同な図形をかくことができるかについての理解ができていなかったのではないかと考える。

・ 改善・充実に向けて

2つの図形が合同であるとき、対応する辺の長さや対応する角の大きさがそれぞれ等しいという性質を理解させることが大切である。また、合同な三角形をかくために必要な条件を三角形の形が1つに決まるという観点から調べさせることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

㊦ 「合同な図形とはどのような図形か」などと問い、学習用語の意味を説明するような学習活動を仕組む。

㊧ 条件が不足した図を提示して「この図形は本当に合同になっているか」などと問うことで、示された考え方が条件に合っているかどうかを根拠を基に説明する学習活動を仕組む。

④ 小学6年生

○ 全ての内容・領域において、正答率が「おおむね達成」の到達基準を上回った。

● 2つの数量の関係を適切に捉え、それに基づいて演算を決定する力に課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2(2)	数量の関係を捉え、基準にする大きさを求める式を考えることができる。 (短答式)	長さが帯分数、重さが整数の鉄のぼうの1mの重さを求める式を立てることができる。	30.3	2.7	75.0	55.0

・ 解答状況

長さとし重さの2つの数量の関係を適切に捉えることができずに、乗法の式を立てたり、除数と被除数が逆になっている除法の式を立てたりした児童がいたのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

計算の指導に当たっては、計算の意味について理解させることが大切である。また、除法の指導に当たっては基準量と比較量の関係を的確に捉えさせることが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

㊦ 立式に際して、言葉の式や図などを基に立式させるような学習活動を仕組む。

㊧ 立式した際に、演算決定の根拠を説明させるような学習活動を仕組む。

● 2種類のグラフから比較する量の大小を判断し、その理由を説明することに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問13(2)	示された考え方が正しいかどうかを割合の考えを用いて判断し、その理由を説明することができる。 (記述式)	2種類のグラフに示された情報を基に、量の大小を判断し、理由を記述する。	31.5	3.9	70.0	50.0

・ 解答状況

棒グラフで示されている基準量と円グラフで示されている割合を基に、「本の貸し出し冊数は10月よりも11月の方が多い」という考えが正しいかどうかを判断し、その理由を記述する設問である。どちらか一方のグラフだけの情報を基に判断をしたのではないかと推察される。

また、判断の理由を式や言葉を用いて記述することが難しかったのではないかと考える。

・ 改善・充実に向けて

「比較量＝基準量×割合」の式から比較量を求めさせるために、複数のグラフから基準量と割合を読み取らせることが大切である。また、判断の理由を説明させる際に、説明に含む事柄を過不足なく説明させることが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

- ㉞ 「量を表すグラフ」「割合を表すグラフ」「変化を表すグラフ」など複数のグラフを提示し、それぞれから読み取ることができる情報を考える学習活動を仕組む。
- ㉟ 割合が違うだけでなく基準とする大きさも違う場面など、様々な場面の問題を解決する学習活動を仕組む。
- ㊱ 根拠となる事柄が不足した説明を提示し、よりよい説明に修正していくことで、説明に必要な事柄を考えさせる学習活動を仕組む。

(3) 改善のポイント

① 基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着を図る

- ・ 計算の技能の定着を図ったり、学習用語の暗記をさせたりするだけでなく、なぜそのような計算になるのか根拠を述べたり、学習用語の意味を説明したりできるようにすることが大切である。

② 必要な情報を選択したり、複数の情報を整理したりする算数的活動を仕組む

- ・ 問題提示の工夫をすることで、児童に問題解決に必要な情報を選ばせたり、考えさせたりすることが大切である。
- ・ 多くの情報を整理するために、与えられた図に書き込みをさせたり、図にまとめさせたりする指導を行うことが大切である。

③ 思考力・表現力を高める言語活動に取り組みさせる

- ・ 考え方を説明する活動だけにとどまらず、その考え方が成り立つ理由を説明したり、判断した根拠を説明したりする活動などを取り入れることが大切である。
- ・ 特定の児童のみに自分の考えを説明させるだけでなく、みんなで説明の仕方を考えたり、誤った説明を修正させたりするなど思考力・表現力を高める言語活動に取り組みさせることが大切である。

④ 算数の学習や日常の事象において、既習事項を活用させる

- ・ 本時の学習内容がどのような既習事項と関連しているのかを児童に捉えさせ、既習事項を用いて問題を解決できたということを振り返らせる指導を行い、既習学習を活用していこうとする態度を育てることが大切である。
- ・ 算数の時間以外の日常生活の中で既習事項が活用されていることに気付かせるような指導を様々な場面を捉えて行い、日常生活の中でも算数を活用しようとする態度を育てることが大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

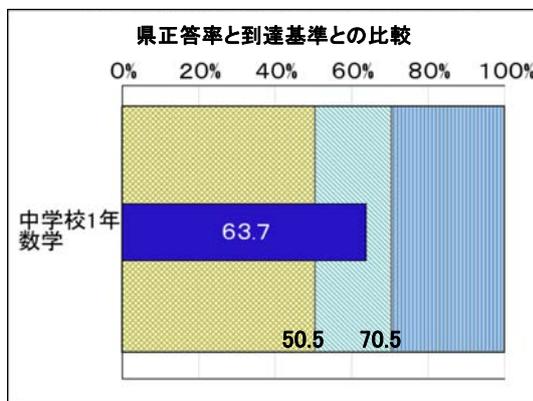
佐賀県教育センターでは、平成 21 年度から平成 24 年度に知識・技能の習得を図り、数学的な思考力・判断力・表現力を育む学習指導の在り方についてプロジェクト研究を行いました。教育センターWeb ページでは、算数的活動を効果的に取り入れた授業プランや、知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力を育む学習プリントを紹介しています。ぜひ、ご活用ください。

2 中学校数学

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

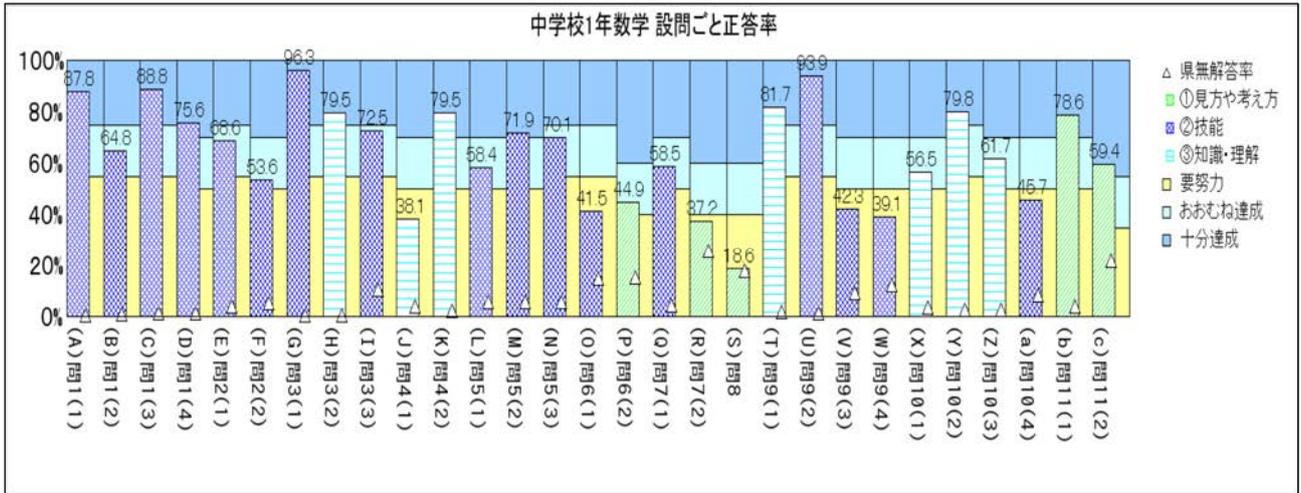
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点		問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方の活用	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式					
1 (1)	正の数と負の数の加減の計算をすることができる	○				○		○			75	55	87.8	0.4	◎
1 (2)	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○		○			75	55	64.8	0.9	
1 (3)	()を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○		○			75	55	88.8	1.1	◎
1 (4)	指数を含む数の計算をすることができる	○				○		○			70	50	75.6	1.3	◎
2 (1)	簡単な一次式の加法の計算をすることができる	○				○		○			75	55	68.6	4.0	
2 (2)	分配法則を用いて、一次式の加法と減法の計算をすることができる	○				○		○			70	50	53.6	5.1	
3 (1)	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	○				○		○			75	55	96.3	0.6	◎
3 (2)	正の数と負の数の大小関係を理解している						○	○			75	55	79.5	0.6	◎
3 (3)	文字を用いた式の表し方に従って、式を表すことができる	○				○		○			75	55	72.5	10.5	
4 (1)	正の数と負の数の範囲で絶対値の意味を理解している	○					○	○			70	50	38.1	3.9	●
4 (2)	数の集合と四則計算の可能性について理解している	○					○	○			70	50	79.5	2.0	◎
5 (1)	文字式で文字に数を代入して式の値を求めることができる	○				○		○			70	50	58.4	5.6	
5 (2)	一元一次方程式を解くことができる	○				○		○			70	50	71.9	5.5	◎
5 (3)	簡単な比例式を解くことができる	○				○		○			75	55	70.1	5.8	
6 (1)	数量を文字を用いて式に表すことができる	○				○		○			75	55	41.5	14.6	●
6 (2)	文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	○				○		○	○		60	40	44.9	15.1	
7 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○		○			70	50	58.5	4.5	
7 (2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○				○		○	○		60	40	37.2	25.6	●
8	具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくることができる	○				○		○	○		60	40	18.6	17.9	●
9 (1)	座標平面上に点の位置を示すことができる		○				○	○			75	55	81.7	1.7	◎
9 (2)	比例の関係を表す表から、表中の値を求めることができる		○				○	○			75	55	93.9	1.5	◎
9 (3)	比例の関係を式に表すことができる		○				○	○			70	50	42.3	9.1	●
9 (4)	比例のグラフから式を求めることができる		○				○	○			70	50	39.1	12.1	●
10 (1)	反比例のグラフ上にある点のx座標とy座標の値の組が、その式を満たしていることを理解している		○				○	○			70	50	56.5	3.5	
10 (2)	反比例の意味を理解している		○				○	○			75	55	79.8	2.6	◎
10 (3)	反比例の関係を表す表の特徴を理解している		○				○	○			70	50	61.7	2.5	
10 (4)	反比例の関係をグラフに表すことができる		○				○	○			70	50	45.7	8.3	●
11 (1)	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる		○			○		○		○	70	50	78.6	3.9	◎
11 (2)	事象の変化を読み取り、グラフや式を基に、求め方を数学的な表現を用いて説明することができる		○			○		○	○		55	35	59.4	21.8	◎

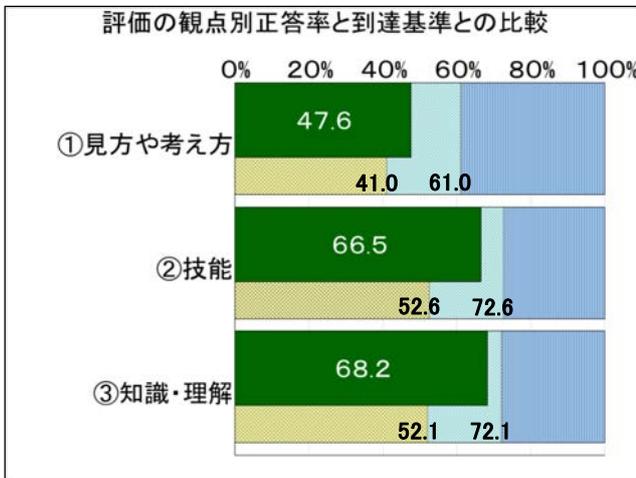
○ 設問ごと正答率



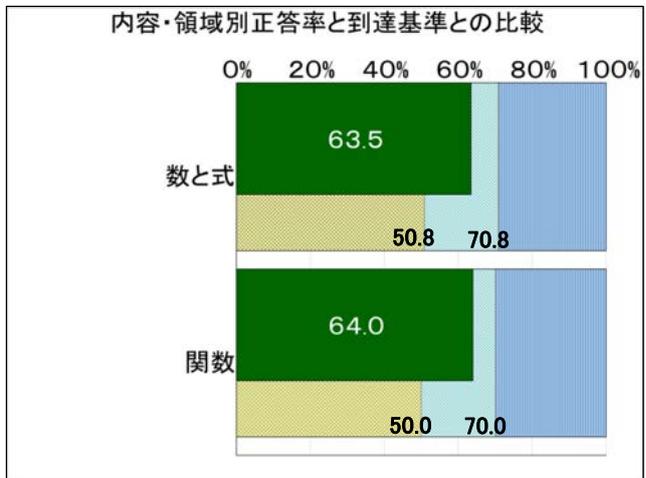
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率



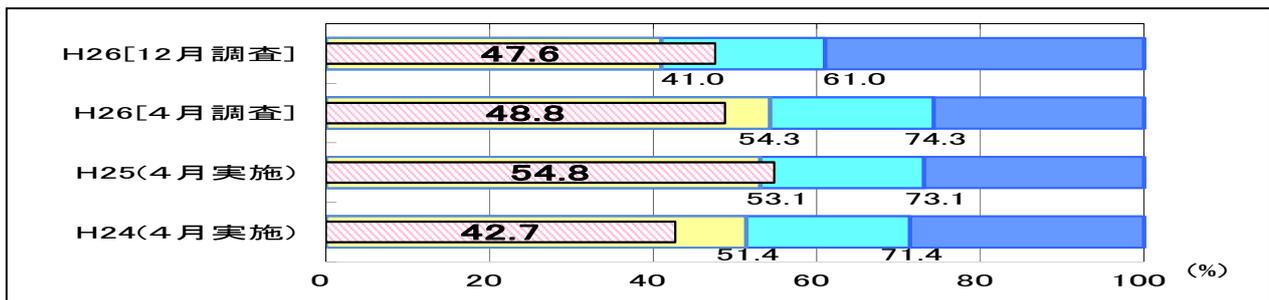
○ 内容・領域別正答率



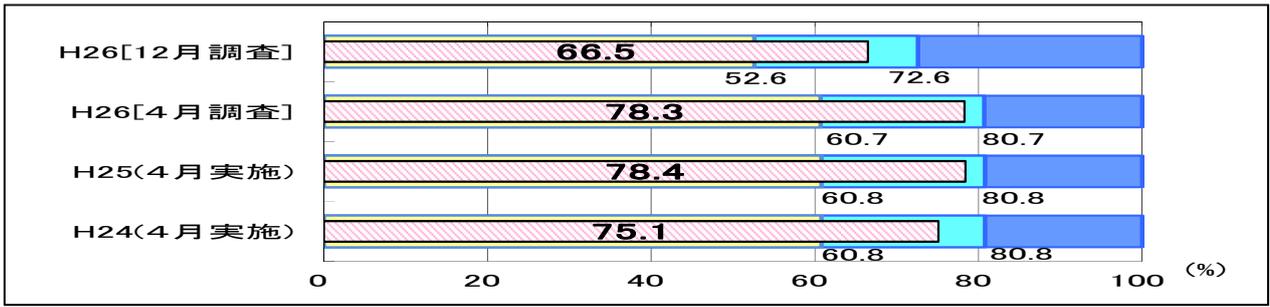
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までは、小学6年生までの内容で調査。

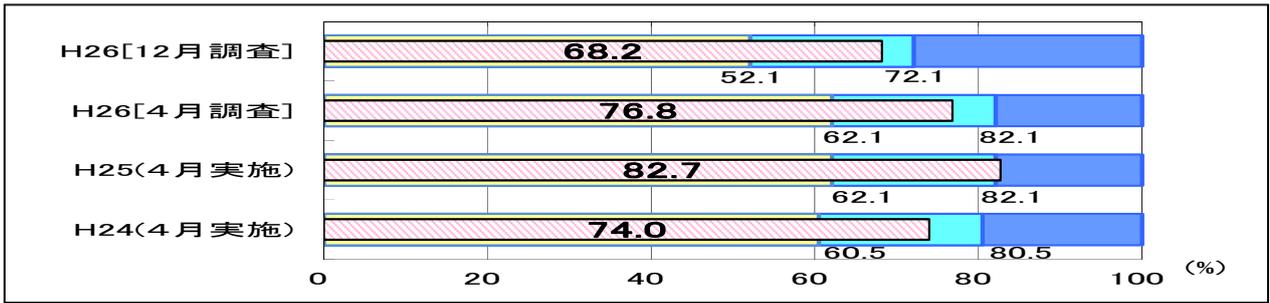
数学的な見方や考え方



数学的な技能



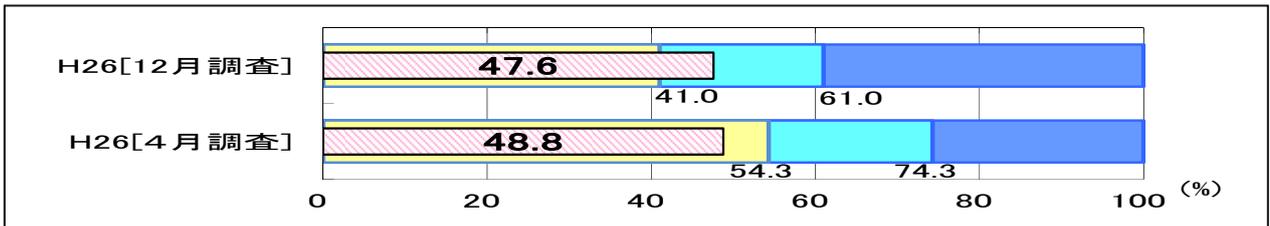
数量や図形についての知識・理解



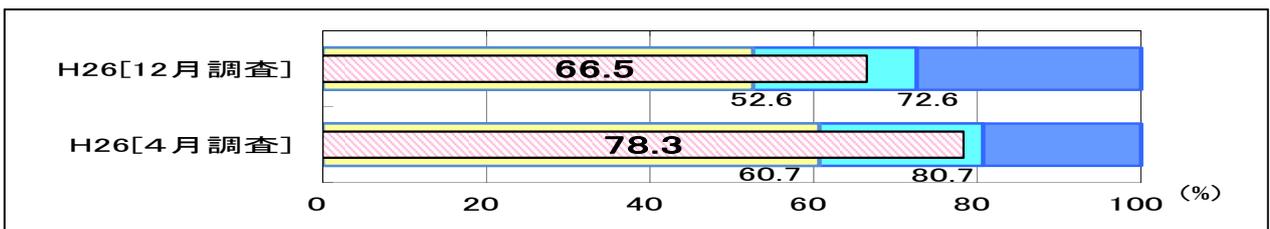
○ 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

※ 平成26年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

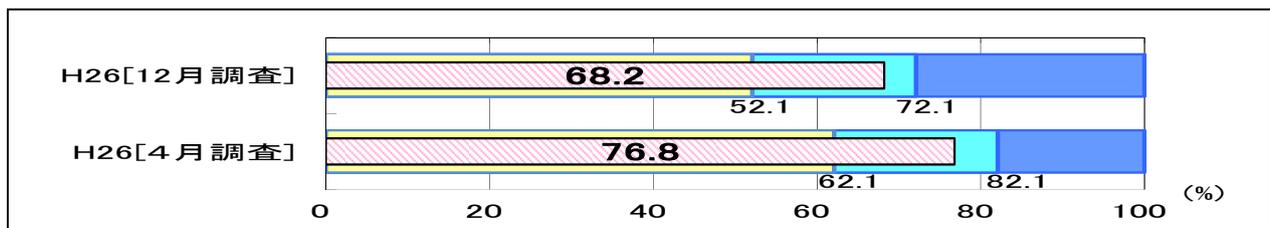
数学的な見方や考え方



数学的な技能

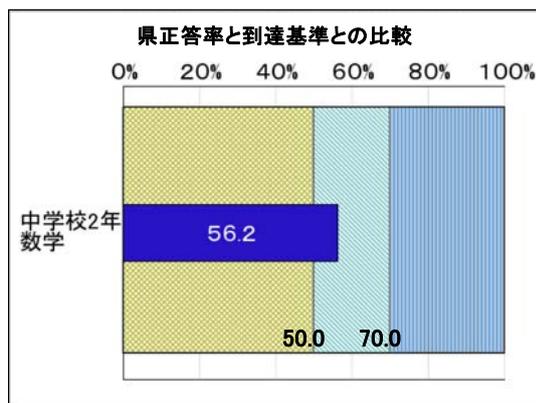


数量や図形についての知識・理解



② 中学2年生

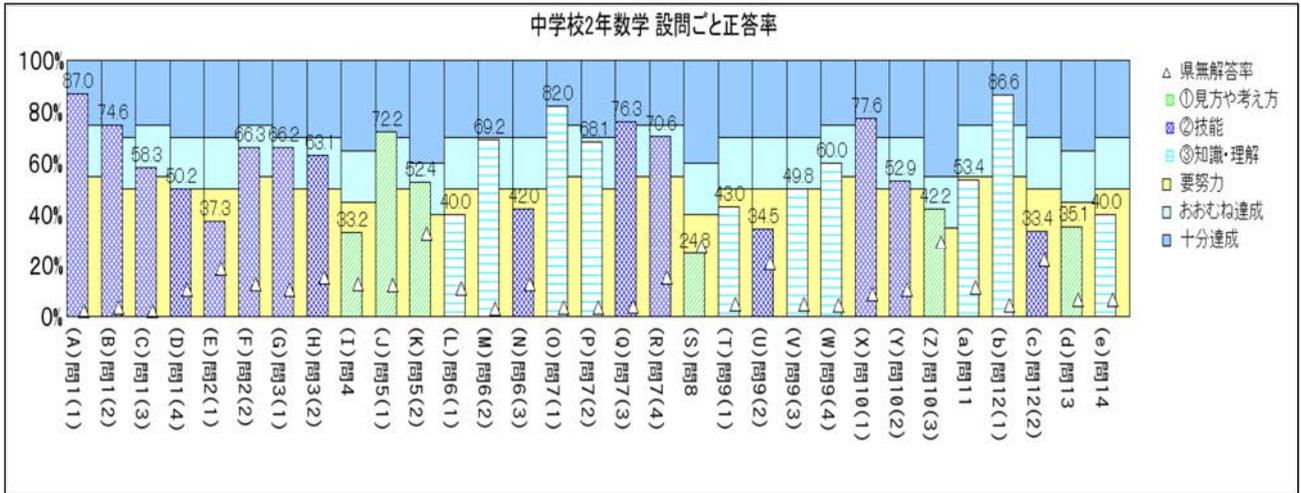
○ 教科全体正答率



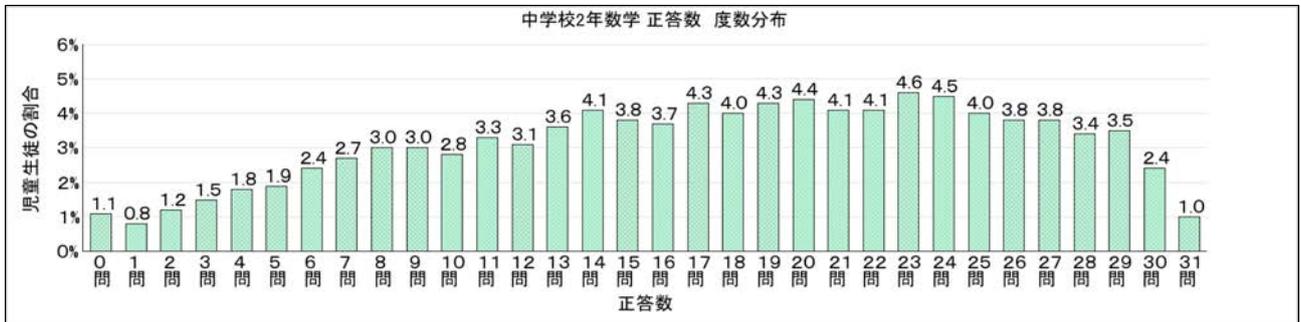
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数学的知識・理解	数量や図形などについて	選択式	短答式					
1 (1)	同類項をまとめる計算をすることができる	○				○			○			75	55	87.0	2.2	◎
1 (2)	整式の加法と減法の計算をすることができる	○				○			○			70	50	74.6	3.3	◎
1 (3)	指数を含む式の計算をすることができる	○				○			○			75	55	58.3	2.0	
1 (4)	単項式の乗法、除法の計算をすることができる	○				○			○			70	50	50.2	10.4	
2 (1)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○			○			70	50	37.3	18.8	●
2 (2)	等式を目的に応じて変形することができる	○				○			○			75	55	66.3	12.7	
3 (1)	連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○			70	50	66.2	10.6	
3 (2)	連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○			70	50	63.1	15.1	
4	具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくる ことができる	○				○			○	○		65	45	33.2	12.7	●
5 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○			○			70	50	72.2	12.0	◎
5 (2)	発展的に考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することができる	○				○			○	○		60	40	52.4	32.8	
6 (1)	円の一部分としての扇形について、同一円の扇形の面積がその中心角の 大きさに比例することを理解している		○						○	○		70	50	40.0	10.8	●
6 (2)	ねじれの位置にある二つの直線の位置関係について理解している		○						○	○		70	50	69.2	3.1	
6 (3)	柱体の表面積を求めることができる		○						○			70	50	42.0	12.7	●
7 (1)	1組の平行線に直線が交わってできる角の性質を理解している		○						○	○		75	55	82.0	3.4	◎
7 (2)	多角形の外角の性質を理解している		○						○	○		70	50	68.1	3.5	
7 (3)	合同な三角形の対応する角の大きさを求めることができる		○						○			75	55	76.3	3.7	◎
7 (4)	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を記号で表すこと ができる		○						○			75	55	70.6	15.1	
8	証明を見直して、改善することができる		○				○			○	○	60	40	24.8	27.2	●
9 (1)	一次関数のグラフ上にある点のx座標とy座標の値の組が、その式を満 たしていることを理解している			○					○	○		70	50	43.0	5.0	●
9 (2)	一次関数の表から、xとyの関係をy=ax+bの式で表すことができる			○					○			70	50	34.5	20.8	●
9 (3)	二元一次方程式の解を座標とする点の集合が、直線のグラフとして表 されることを理解している			○					○	○		70	50	49.8	4.9	●
9 (4)	二つの数量の関係が一次関数になることを理解している			○					○	○		75	55	60.0	4.2	
10 (1)	事象を数学的に解釈し、表やグラフから必要な情報を読み取ることが できる			○					○			70	50	77.6	8.8	◎
10 (2)	事象を数学的に解釈し、表や式から必要な情報を読み取り、的確に処 理することができる			○					○			70	50	52.9	10.6	
10 (3)	事象を数学的に解釈し、グラフや式を基に、求め方を数学的な表 現を用いて説明することができる			○		○				○	○	55	35	42.2	29.3	
11	最頻値について理解している			○					○	○		75	55	53.4	11.4	●
12 (1)	度数分布表について理解している			○					○	○		75	55	86.6	4.5	◎
12 (2)	度数分布表から相対度数を求めることができる			○		○				○		70	50	33.4	22.1	●
13	資料の傾向を的確に捉えることができる			○	○				○			65	45	35.1	6.6	●
14	有効数字の表し方について理解している			○					○	○		70	50	40.0	6.7	●

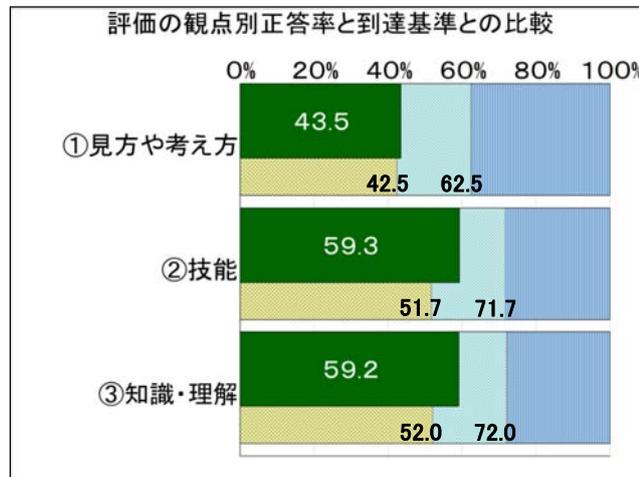
○ 設問ごと正答率



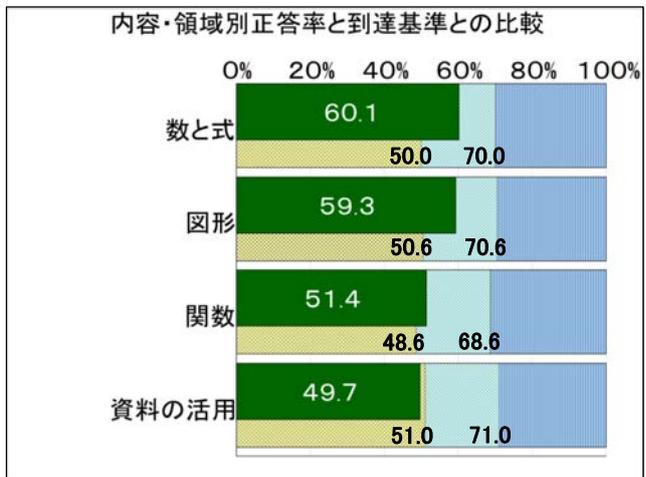
○ 教科正答数度数分布



○ 観点別正答率



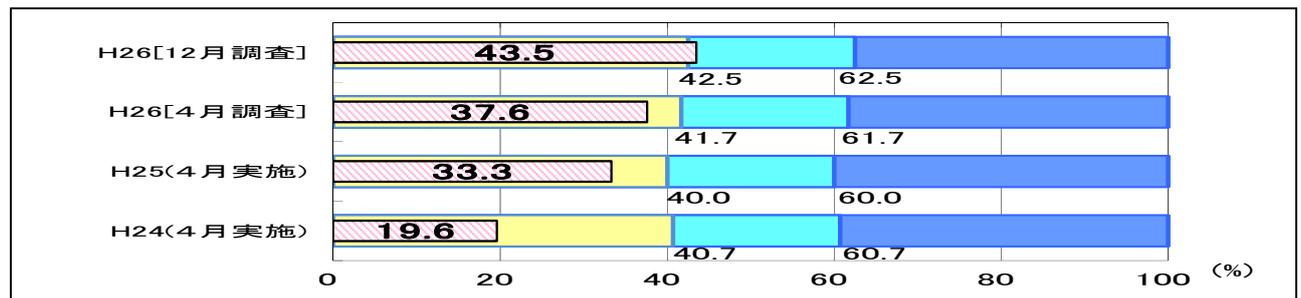
○ 内容・領域別正答率



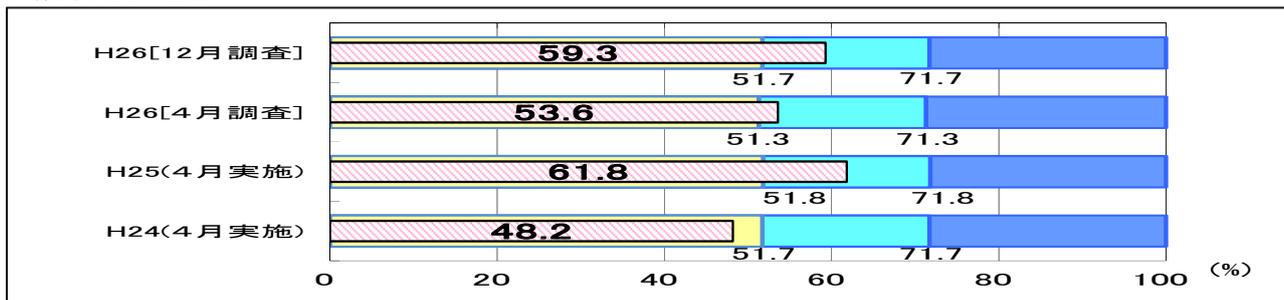
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までは、中学1年生までの内容で調査。

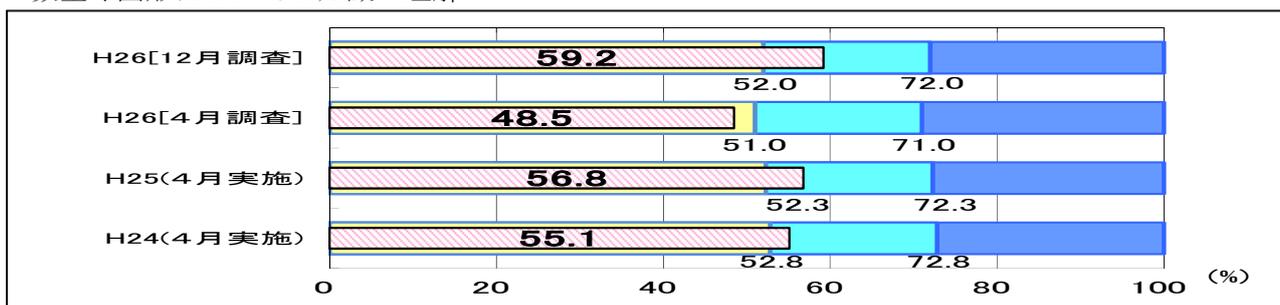
数学的な見方や考え方



数学的な技能

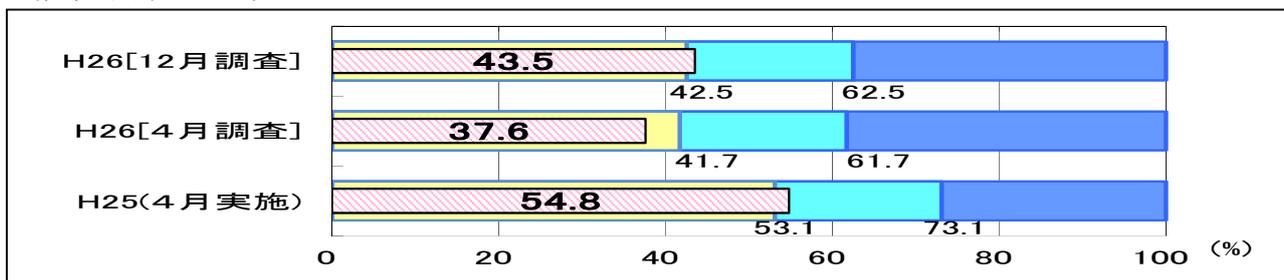


数量や図形についての知識・理解

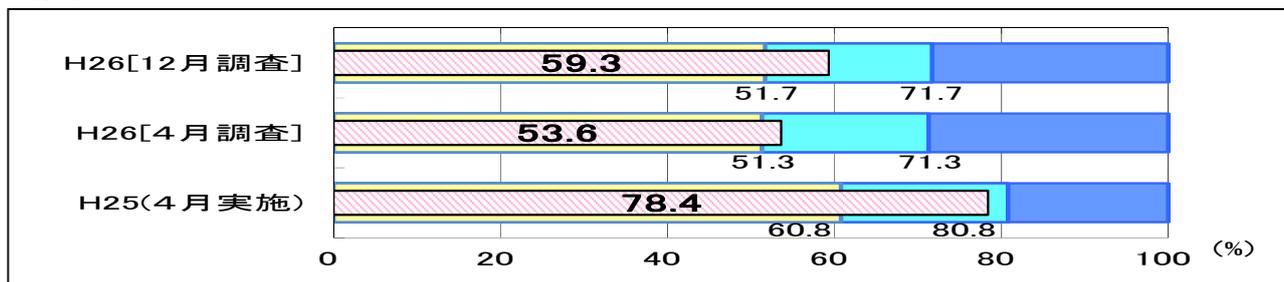


○ 評価の観点別正答率(同一生徒)

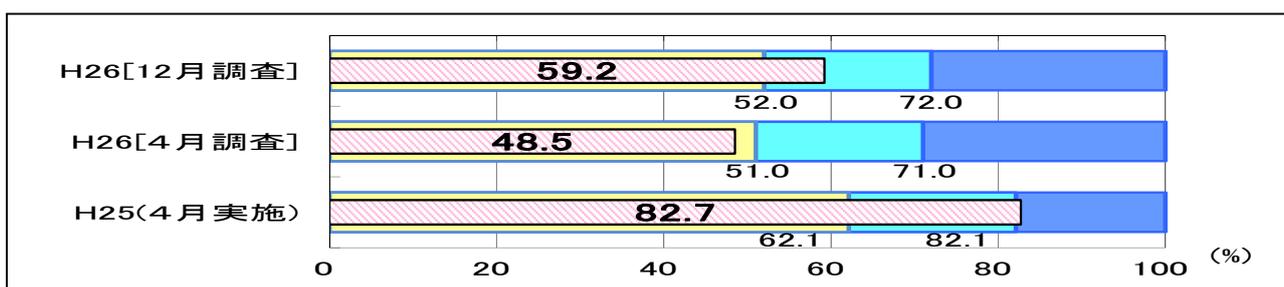
※ 中学1年生時である平成25年度(4月実施)は、小学6年生までの内容で調査。
 数学的な見方や考え方



数学的な技能



数量や図形についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は「おおむね達成」の到達基準を共に上回っていた。
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点別正答率について、到達基準を1として同一生徒の経年比較をすると、「数学的な見方や考え方」と「数量や図形についての知識・理解」は[4月調査]より上回っている。
- [4月調査]で課題として挙げられていた具体的な事象の中の数量の関係を捉えて、立式することを問う設問については、中学1年生及び中学2年生共に引き続き課題が見られた。
- [4月調査]で課題として挙げられていた内容・領域「関数」の表、式、グラフを関連付けた理解を問う設問は、中学1年生及び中学2年生共に引き続き課題が見られた。
- 事柄が成り立つ理由を説明することや図形の証明に関することなどの記述式の設問については課題が見られた。

② 中学1年生

- 評価の観点「数学的な見方や考え方」において、「グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈すること」「事象の変化を読み取り、グラフや式を基に、求め方を数学的な表現を用いて説明すること」を問う設問は、「十分達成」の期待正答率を上回っていた。
- 評価の観点「数量や図形についての知識・理解」において、「正の数・負の数の大小関係」「数の集合と四則計算の可能性」「座標平面上に点の位置を示すこと」「反比例の意味」を問う設問は、「十分達成」の期待正答率を上回っていた。
- [4月調査]において、「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること」を問う設問は、「おおむね達成」の期待正答率を上回っていたが、[12月調査]においては下回っており課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7 (2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 (記述式)	基石全部の個数を、 $4(n-2)+4$ という式で求めることができる理由を説明する。	37.2	25.6	60.0	40.0

・ 解答状況

文字を用いた式の意味を具体的な事象の言葉や図などと結び付けて考え、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することに課題があると推察される。

・ 改善・充実に向けて

事象を数学的に考察できるようにするために、数量の関係や法則などを式に表したり式の意味を具体的な事象の言葉や図などと結び付けて読み取ったりすることができるようにする。その上で、式を事象の言葉や図と結び付けて事柄が成り立つ理由を説明することができるようにすることが大切である。

指導に当たっては、囲み方の特徴から基石全部の個数を式に表したり、式の特徴から囲み方を見いだしたりする活動を取り入れることが考えられる。その上で、表した式の意味を事象の言葉や図と結び付けて説明するような学習活動を取り入れることが考えられる。具体的には、設問のような囲み方で基石全部の個数を求めると $4(n-2)+4$ という式で表されることを確認したり、その囲み方と式 $4(n-2)+4$ を比べて、式 $n-2$ が「1辺の頂点以外の基石の個

数」を意味することなどを読み取ったりする場面を設定することが考えられる。その上で、設問のような囲み方を基にして、式 $4(n-2)+4$ で基石全部の個数を求められる理由を説明できるようにする必要があると考える。事柄が成り立つ理由を説明できるようにするためには、事柄の意味を具体的な事象の言葉や図と結び付けて読み取ることができるようにすることが大切である。読み取った事柄の意味に基づいて、説明する事柄（B）とその根拠（A）を明確に区別し、「（A）であるから、（B）である。」のように的確に表現できるようにすることが必要であると考えられる。

- [4月調査]において課題として挙げられていた「具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくること」を問う設問は、「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、引き続き課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問8	具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくることができる。 (短答式)	数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくる。	18.6	17.9	60.0	40.0

- ・ 解答状況

設問の中の数量を整理し、2通りに表せる数量を見いだすことに課題があると推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

方程式をつくるためには、着目すべき数量を見だし、設問の中の数量を整理することができるようにする。その上で、その中から2通りに表せる数量を見だし、等しい関係を意識して方程式をつくることができるようにすることが大切である。

指導に当たっては、2人の会話から「最初に思いうかべた整数」、「ある整数から5をひいた数」、「ある整数から5をひいた数を2倍した数」、「ある整数から5をひいた数を2倍した数から、最初の整数をひいた数」など段階を踏んで文字を用いた式で表すことができるような学習活動を取り入れることが考えられる。このような活動を通して、「ある整数から5をひいた数を2倍し、最初の整数をひいた数」は、2通りに表せる数量であることに気付かせる。それを「 $2(x-5)-x$ 」と「 -4 」という2通りに表現できるようにして、一元一次方程式をつくることができるようにすることが必要であると考えられる。

③ 中学2年生

- 教科全体正答率は、[4月調査]においては、「おおむね達成」の到達基準を下回っていたが、[12月調査]では「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 評価の観点別正答率において、到達基準を1として正答率を算出し同一年生の経年比較をすると、全ての評価の観点で[4月調査]より上回っていた。
- 内容・領域別正答率は、[4月調査]においては、「図形」「関数」は「おおむね達成」の到達基準を下回っていたが、[12月調査]では「おおむね達成」の到達基準を共に上回っていた。
- 評価の観点「数学的な見方や考え方」においては、「具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること」「証明を見直して、改善すること」を問う設問で「おおむね達成」の期待正答率を下回っており課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 8	証明を見直して、改善することができる。 (記述式)	与えられた証明の中にある誤りを正しく改める。	24.8	27.2	60.0	40.0

・ 解答状況

証明の中で結論が使われている部分を正しい根拠を示しながら書き直し、それに伴った三角形の合同条件に改めることに課題があると推察される。

・ 改善・充実に向けて

図形の性質などを証明することができるようにするために、不十分な証明や誤った証明を基に、よりよい記述や正しい表現の仕方を考え、証明を見直していくことができるようにすることが大切である。

指導に当たっては、本設問のように結論を根拠として用いている誤った証明を取り上げ、生徒がよりよい証明に改める場を設定することが考えられる。その際、その証明を見直して、簡潔で分かりやすいものになるようにする必要があり、証明を書くだけでなく、読む活動を位置付けることも大切であると考え。証明を読むことで、その内容を振り返り、表現の仕方を理解したり、仮定や根拠の使い方や証明の記述に必要な表現方法を身に付けたりすることができる。そのために、生徒同士が互いの証明を説明し合い、よりよい記述を考えるような学習活動を取り入れることが考えられる。

- 内容・領域「関数」における「一次関数のグラフ上にある点の x 座標と y 座標の値の組が、その式を満たしていること」「一次関数の表から、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すこと」「二元一次方程式の解を座標とする点の集合が、直線のグラフとして表されること」などの一次関数については、表、式、グラフを相互に関連付けた理解を問う設問で「おおむね達成」の期待正答率を下回っており課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 9 (2)	一次関数の表から、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる。 (短答式)	一次関数の表から、式に表す。	34.5	20.8	70.0	50.0

・ 解答状況

一次関数の式を表から求めるためには、表から変化の割合と、 $x=0$ のときの y の値を読み取り、一次関数 $y=ax+b$ の a 、 b の値を決めることが求められる。一次関数の表から、変化や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すことに課題があると推察される。

・ 改善・充実に向けて

一次関数の学習では、伴って変わる2つの数量の変化や対応について、表、式、グラフを相互に関連付けながら調べ、一次関数についての理解を深めるようにすることが大切である。

指導に当たっては、与えられた表に基づいて一次関数の式を求めるためには、 $y=ax+b$ の a と b を求めればよいことを確認し、表から分かる特徴と式とを関連付けることができるような学習活動を取り入れることが考えられる。一次関数の表から x の増加量と y の増加量を読み取って、一次関数の変化の割合を求めれば、それが a になること、表中の $x=0$ のときの y の値を求めれば、それが b になることを見いだす活動など、表から式を求める方法を考える場面を設定することが考えられる。

(3) 改善のポイント

① 事象を数理的に考察するような学習活動を充実させること

- ・ 具体的な事象から数量の関係や法則を捉えることができるような場面を設定することが大切である。
- ・ 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表したり、具体的な事象の言葉や図などと結び付けて式の意味を読み取ったりする場面を設定することが大切である。

② 表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるような学習活動を充実させること

- ・ 表やグラフから特徴を読み取って式に表したり、比例定数の符号の違いによる変化の様子などを捉えたりする場面を設定することが大切である。
- ・ 表、式、グラフについて、反比例の学習後に比例と反比例の関係を対比させて考えさせたり、一次関数の学習後に比例と一次関数の関係を対比させて考えさせたりする場面を設定することが大切である。

③ 数学的な表現を用いて説明し伝え合うような学習活動を充実させること

- ・ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて、数量や図形などに関する事実、思考の過程や判断の根拠を表現させる場面を設定することが大切である。
- ・ 数学的な表現を用いて説明する活動である「見いだした事柄や事実を説明する活動」「事柄を調べる方法や手順を説明する活動」「事柄が成り立つ理由を説明する活動」の3つの場면을計画的・継続的に設定することが大切である。

④ 「おおむね達成」の到達基準に達していない生徒への手立てを充実させること

- ・ 事柄を調べる方法や手順を示したり、生徒のつまづきに応じたヒントカードやキーワードを示したりして数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切である。
- ・ 事象を観察して法則を見付けたり、具体的な操作や実験を通して試行錯誤したり、数学的な内容を帰納的に考えたりするなどして、数や図形の性質を見いだすような学習活動を充実させることが大切である。観察、操作や実験などの具体的な活動においては、予想を立ててその予想を記述し、それを確かめたり、その誤りに気付いて予想を見直したりする活動を設定することが大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、「すぐに役立つ！授業力UP！数学科学習指導のためのアイデア」で「知識・技能の習得を図り、数学的な思考力・判断力・表現力を育む学習指導の工夫—数学的活動の充実を通して—」という研究テーマで、平成24年度から全面実施となっている学習指導要領に対応した学習指導の在り方を紹介しています。

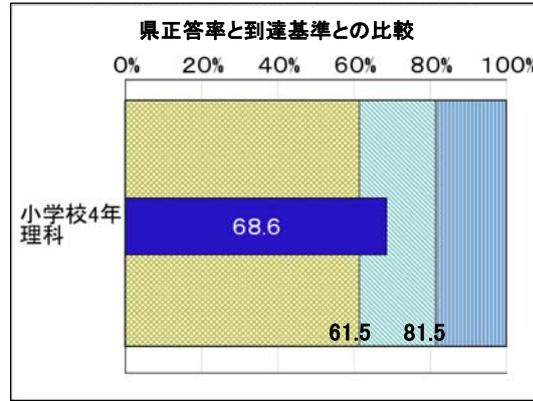
全学年の内容で、授業に生かせる授業展開案やワークシートと、宿題や長期休業中の課題にも利用できる学習プリントを紹介していますので、ご活用ください。

1 小学校理科

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

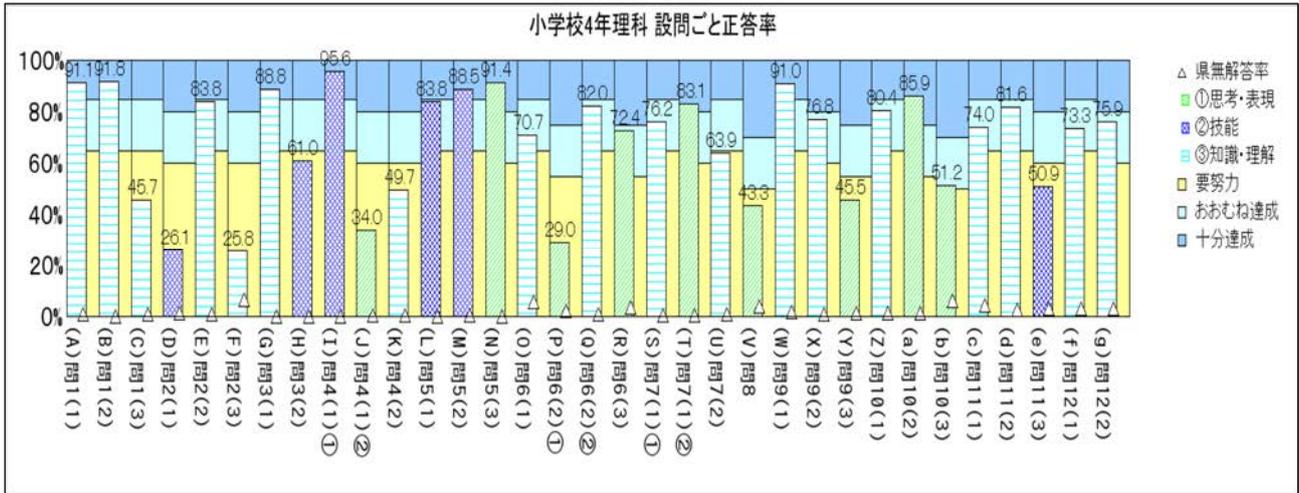
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	モンシロチョウの蛹の姿を理解している		○		○		○			85	65	91.1	0.8	◎
1 (2)	チョウの育ち方には一定の順序があることを理解している		○		○		○			85	65	91.8	0.1	◎
1 (3)	完全変態をする昆虫と不完全変態をする昆虫がいることを理解している		○		○		○			85	65	45.7	0.7	●
2 (1)	方位磁針を適切に使って、太陽の見える方位を調べることができる		○		○		○			80	60	26.1	1.3	●
2 (2)	影は、人や物が太陽の光を遮ると、太陽の反対側にできることを理解している		○		○		○			85	65	83.8	0.7	
2 (3)	遮光板の名称と使う理由を理解している		○		○		○			80	60	25.8	6.5	●
3 (1)	日光が集まったところを小さくすると、暖かさが増すことを理解している	○			○		○			85	65	88.8	0.2	◎
3 (2)	虫眼鏡を適切に使って、安全に日光を集める実験をすることができる	○			○		○			85	65	61.0	0.2	●
4 (1)①	観察をするときに必要な情報を記入することができる		○		○		○			85	65	95.6	0.2	◎
4 (1)②	春の桜の木についての観察カードを基に、花が散った後に実ができることを推測することができる		○	○			○			80	60	34.0	0.5	●
4 (2)	ツバメとスズメの季節ごとの様子について理解している		○		○		○			80	60	49.7	0.4	●
5 (1)	温度計で正しく気温を測ることができる		○		○		○			85	65	83.8	0.2	
5 (2)	グラフから、正午の気温を正しく読み取ることができる		○		○		○			85	65	88.5	0.3	◎
5 (3)	気温の変化のグラフを比較して、晴れの日のグラフであると判断することができる		○	○			○			80	60	91.4	0.2	◎
6 (1)	電流とは、回路を流れる電気であるということを理解している	○			○		○			85	65	70.7	5.5	
6 (2)①	乾電池2個を使った並列つなぎの回路を作ることができる	○		○			○			75	55	29.0	2.0	●
6 (2)②	乾電池の数やつなぎ方を変えると、モーターの回る速さが変わること理解している	○			○		○			85	65	82.0	0.7	
6 (3)	光電池を使って発生する電流を大きくする方法を、太陽の光と光電池の向きを関係付けて説明することができる	○		○			○	○		75	55	72.4	3.4	
7 (1)①	閉じ込めた空気を押し縮めて体積が小さくなると、押し返す力が大きくなることを理解している	○			○		○			85	65	76.2	0.5	
7 (1)②	図を基に押し縮められた空気の様子について考えることができる	○		○			○			80	60	83.1	0.6	◎
7 (2)	閉じ込めた水は、力を加えても押し縮めることができないことを理解している	○			○		○			85	65	63.9	1.0	●
8	筒状の容器のふたが閉まりにくいことを、閉じ込めた空気の性質と関係付けて説明することができる	○		○			○	○		70	50	43.3	4.0	●
9 (1)	関節という言葉とその働きを理解している		○		○		○			85	65	91.0	1.7	◎
9 (2)	骨は人の体を支えたり、内臓を守ったりしていることを理解している		○		○		○			80	60	76.8	0.7	
9 (3)	筋肉によって人は体を動かすことができるということを、自分の体に当てはめて説明することができる		○	○			○	○		75	55	45.5	1.5	●
10 (1)	水を冷やすと体積が小さくなることを理解している	○			○		○			85	65	80.4	1.2	
10 (2)	一円玉の動きから、閉じ込められた空気の体積の変化を温度と関係付けて考えることができる	○		○			○			75	55	85.9	1.4	◎
10 (3)	冬になると鉄道のレールにすき間が空くことと、温度が低くなると金属の体積が小さくなることを関係付けて説明することができる	○		○			○	○		70	50	51.2	6.2	
11 (1)	夏の大三角の星の並びを理解している		○		○		○			85	65	74.0	4.4	
11 (2)	星には色の違いがあることを理解している		○		○		○			85	65	81.6	2.6	
11 (3)	星座早見を適切に使用することができる		○		○		○			80	60	50.9	3.1	●
12 (1)	月は、時間が経つにつれて東の空から南の空を通過して、西の空へと見える位置が変わることを理解している		○		○		○			85	65	73.3	3.0	
12 (2)	月は、日によって形が変わって見え、太陽と同じように東の空から南の空を通過して、西の空へ動いていくことを理解している		○		○		○			80	60	75.9	3.1	

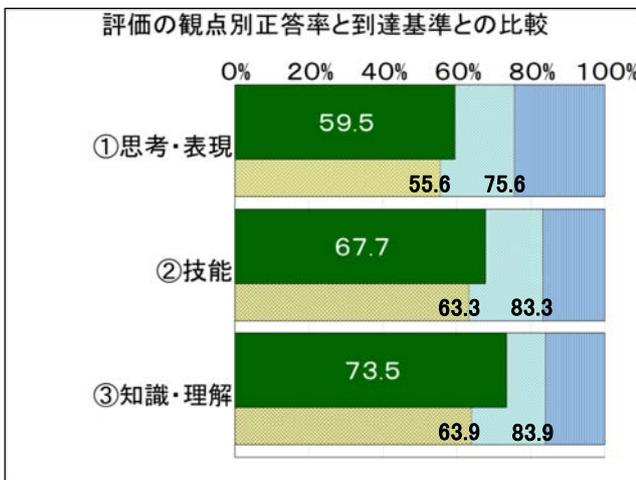
○ 設問ごと正答率



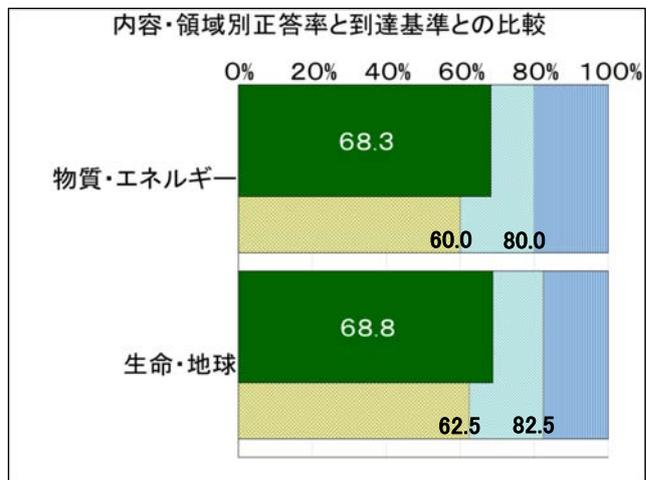
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

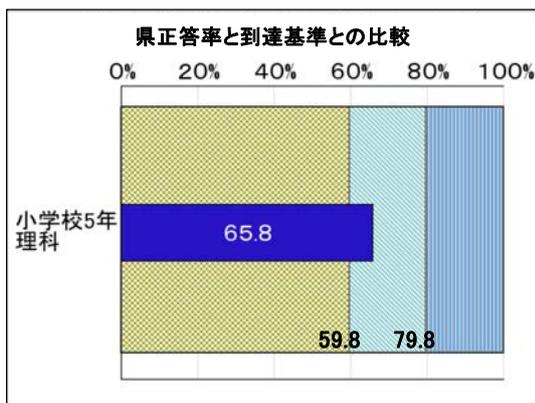


○ 内容・領域別正答率



② 小学5年生

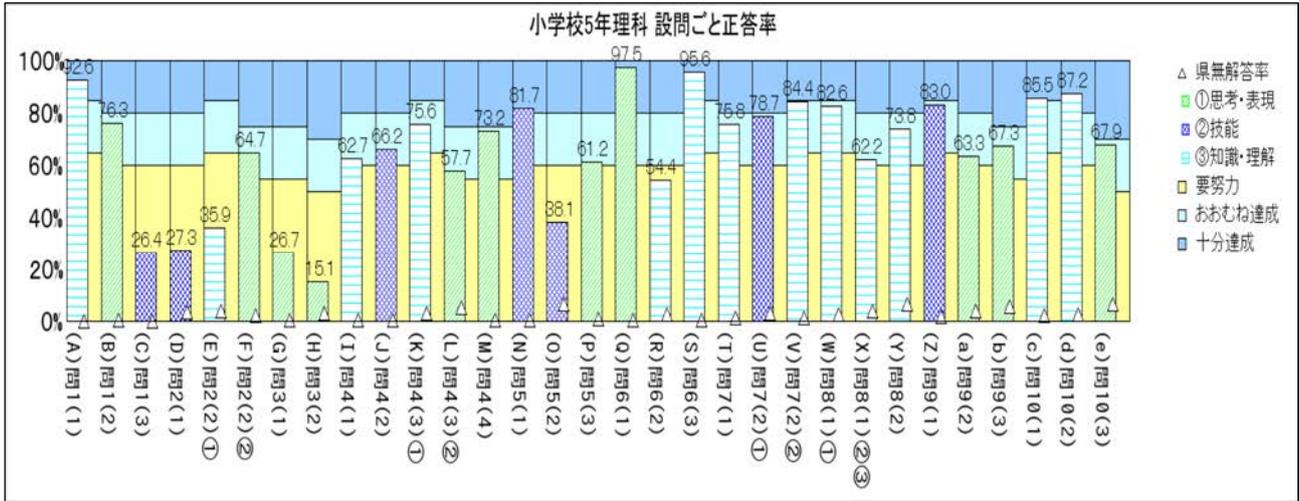
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等 物質・エネルギー	生命科学・地球	評価の観点			問題形式	「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
				科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解							
1 (1)	金属は、熱せられたところから遠くの方へと温まっていくことを理解している	○			○	○			85	65	92.6	0.0	◎
1 (2)	紅茶の葉や線香の煙の動きから、水や空気の温まり方を考えることができる	○	○			○			80	60	76.3	0.5	
1 (3)	アルコールランプを正しく使うことができる			○		○			80	60	26.4	0.2	●
2 (1)	水を加熱し、気化させる実験を安全に行うことができる	○		○			○		80	60	27.3	3.6	●
2 (2)①	水が沸騰しているときに出てくる泡は、水蒸気であることを理解している	○			○		○		85	65	35.9	3.8	●
2 (2)②	水が沸騰しているとき、水が水蒸気になって空気中に出て行っていることを説明することができる	○		○			○		75	55	64.7	2.3	
3 (1)	水は蒸発して水蒸気となり、空気中に含まれていくことを、生活と結び付けて考えることができる		○	○			○		75	55	26.7	0.3	●
3 (2)	空気中の水蒸気が水に変わることを、温度と関係付けて考え、説明することができる		○	○			○	○	70	50	15.1	3.0	●
4 (1)	インゲンマメの発芽の条件を理解している	○			○				80	60	62.7	0.5	
4 (2)	インゲンマメの発芽の条件を調べる実験を計画することができる	○		○			○		80	60	66.2	0.4	
4 (3)①	ヨウ素デンプン反応を調べる薬品がヨウ素液であることを理解している	○			○		○		85	65	75.6	3.0	
4 (3)②	発芽前後の種子の中の養分の存在を調べ、発芽と種子の養分との関係を説明することができる	○	○				○		75	55	57.7	5.3	
4 (4)	トウモロコシの種まきの時期を、平均気温のグラフや発芽、成長の適温資料を読み取って考えることができる	○	○				○	○	75	55	73.2	0.6	
5 (1)	発芽したインゲンマメの成長に必要な条件を調べる実験を計画することができる	○		○			○		80	60	81.7	0.4	◎
5 (2)	パーライトを使うことで、条件をそろえて植物の成長と肥料との関係を調べる実験をすることができる		○		○			○	80	60	38.1	6.7	●
5 (3)	発芽したインゲンマメが、条件の違いによってどのように成長していくかを考えることができる	○	○				○		80	60	61.2	0.9	
6 (1)	孵化するまでの受精卵の変化について考えることができる	○	○				○		80	60	97.5	0.3	◎
6 (2)	メダカの稚魚の成長に必要な養分が、腹の中にあることを理解している	○			○			○	80	60	54.4	2.5	●
6 (3)	水中の小さな生き物のミジンコを理解している	○			○				85	65	95.6	0.5	◎
7 (1)	アサガオの花の部位の名称を理解している	○			○			○	80	60	75.8	1.1	
7 (2)①	受粉と結実の関係を調べる際、必要な条件をそろえて実験することができる	○		○				○	80	60	78.7	2.9	
7 (2)②	受粉したアサガオには実ができることを理解している	○			○				85	65	84.4	1.3	
8 (1)①	へその緒の名称を理解している	○			○			○	85	65	82.6	2.4	
8 (1)②③	へその緒の働きを理解している	○			○				80	60	62.2	3.7	
8 (2)	羊水の働きを理解している	○			○			○	80	60	73.8	6.7	
9 (1)	雲画像とアメダスの情報から、佐賀、東京の天気を読み取ることができる	○		○				○	85	65	83.0	1.6	
9 (2)	雲画像の情報から、雲の動きを考えることができる	○	○					○	80	60	63.3	3.8	
9 (3)	台風の雨が人々の生活に影響を与えていることを説明することができる	○	○					○	75	55	67.3	5.6	
10 (1)	川の内側と外側の流れの速さや浸食、運搬の大きさの違いを理解している	○			○				85	65	85.5	2.1	◎
10 (2)	川の上流と下流での石の大きさや形の違いがあることを理解している	○			○				80	60	87.2	2.6	◎
10 (3)	遊水地は洪水を防ぐための施設であることを説明することができる	○	○					○	70	50	67.9	6.5	

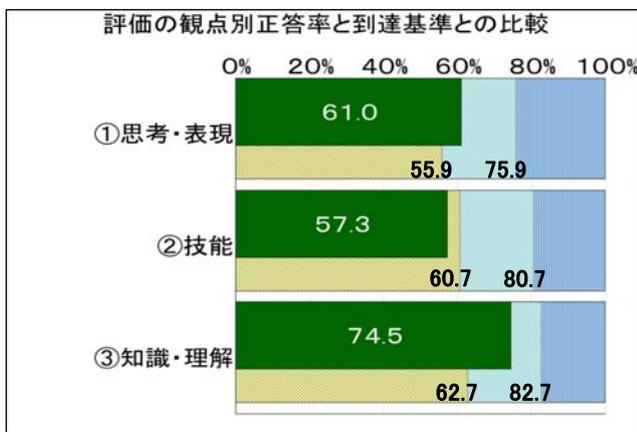
○ 設問ごと正答率



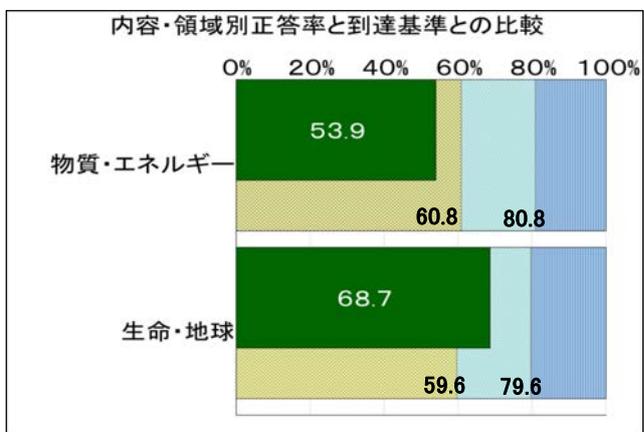
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

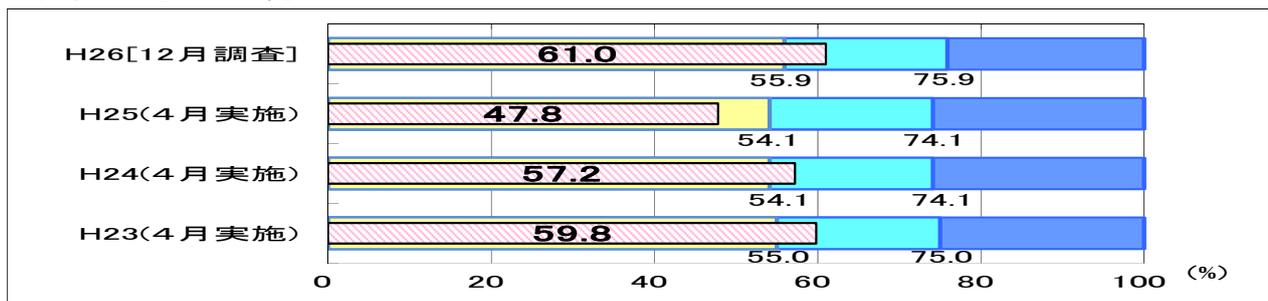


○ 内容・領域別正答率

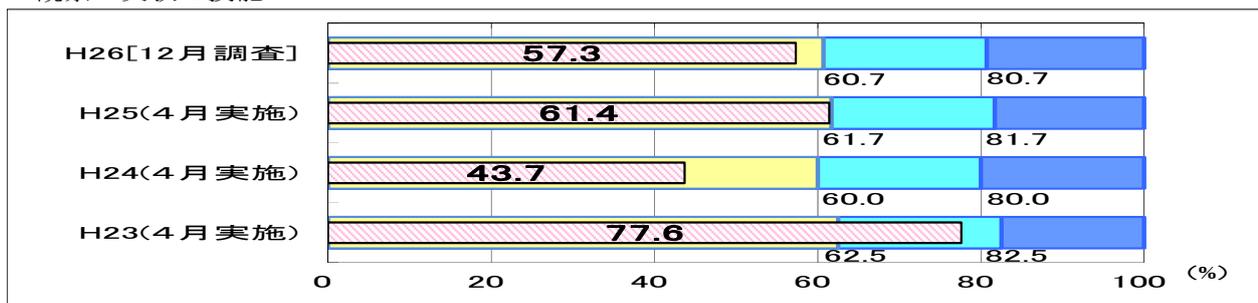


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

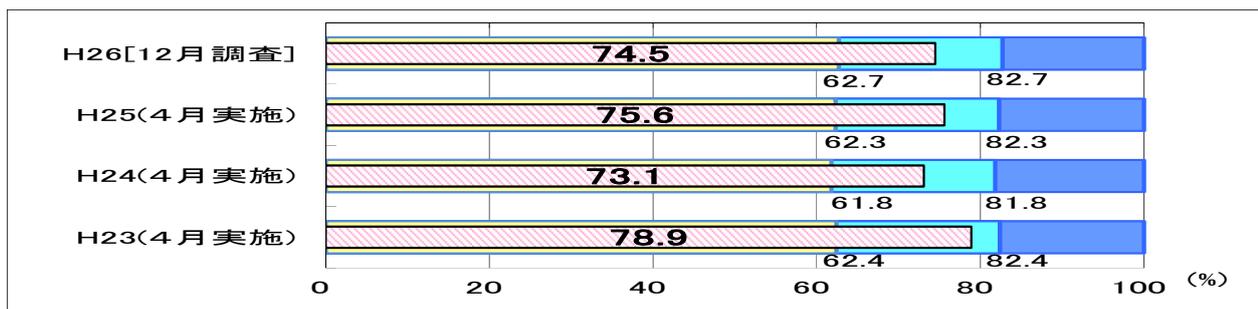
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

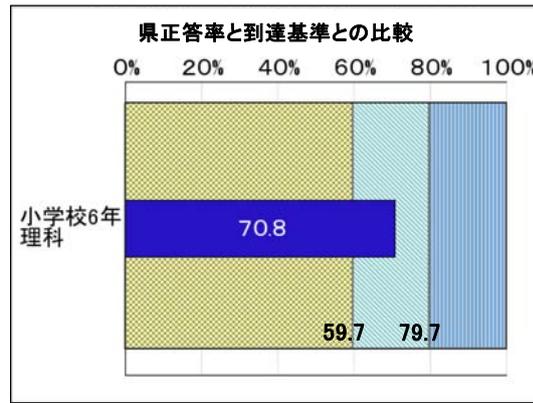


自然事象についての知識・理解



③ 小学6年生

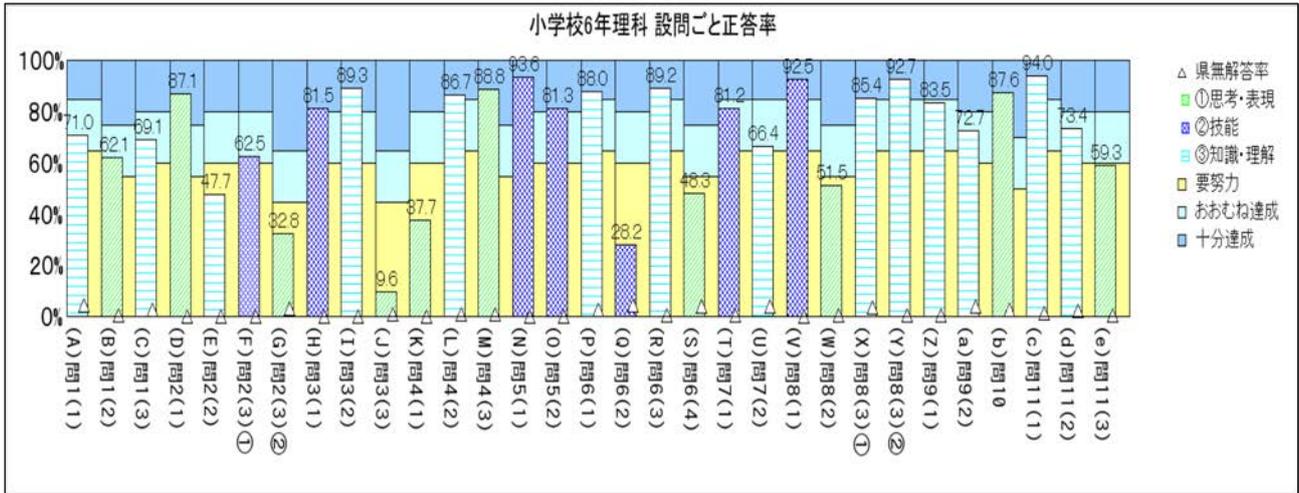
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				問題形式	「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	科学的な思考・表現	観察・実験の技能							
1 (1)	導線を同じ向きに何回も巻いたものの名称を理解している	○			○	○		85	65	71.0	4.2	
1 (2)	電磁石に近付けた方位磁針の様子から、電磁石の極を考慮することができる	○	○			○		75	55	62.1	0.5	
1 (3)	電磁石の磁力の変化とコイルの巻き数の関係を理解している	○			○	○		80	60	69.1	2.8	
2 (1)	物が水に溶ける量と水の温度を関係付けて考えることができる	○	○			○		75	55	87.1	0.1	◎
2 (2)	水の量を増やしたり水の温度を上げたりするとホウ酸の溶ける量が増えることを理解している	○			○	○		80	60	47.7	0.1	●
2 (3)①	ろ過の方法について適切な実験用具を選ぶことができる	○		○		○		80	60	62.5	0.1	
2 (3)②	水の温度による物の溶ける量と溶け残りとの関係から、水溶液に溶けている物の量について考えることができる	○	○			○	○	65	45	32.8	3.1	●
3 (1)	振り子の往復する時間と振幅の関係を調べる実験を計画することができる	○		○		○		80	60	81.5	0.2	◎
3 (2)	振り子の往復する時間は、振り子の長さに関係することを理解している	○			○	○		80	60	89.3	0.1	◎
3 (3)	振り子の長さの意味を理解し、実験の様子から振り子の規則性について考えることができる	○	○				○	65	45	9.6	0.8	●
4 (1)	実験の結果を基に、物を燃やした後の空気の変化の様子を考慮することができる	○	○			○		80	60	37.7	0.2	●
4 (2)	物が燃えるためには、酸素が必要であることを理解している	○			○	○		85	65	86.7	0.9	◎
4 (3)	物が燃え続けることと空気とを関係付けて説明することができる	○	○			○		75	55	88.8	0.8	◎
5 (1)	気体検知管の目盛りを正しく読み取ることができる		○	○		○		80	60	93.6	0.2	◎
5 (2)	吐いた空気の二酸化炭素の有無について、石灰水で調べることができる		○	○		○		80	60	81.3	0.1	◎
6 (1)	ヨウ素液を使ってでんぷんの有無を調べることができることを理解している		○		○	○		85	65	88.0	2.4	◎
6 (2)	日光と植物の葉のでんぷんのでき方との関係を調べる実験をすることができる		○	○			○	80	60	28.2	4.3	●
6 (3)	日光と植物の葉のでんぷんのでき方との関係を理解している		○		○	○		85	65	89.2	0.4	◎
6 (4)	日光とでんぷんのでき方との関係を基に、植物の葉が重ならないように付く理由を説明することができる		○	○			○	75	55	48.3	3.8	●
7 (1)	根から取り入れられた水が、主に葉から出ていることを調べる実験をすることができる		○	○		○		85	65	81.2	0.3	
7 (2)	水が水蒸気となって植物から出ていくことが蒸散であるということを理解している		○		○	○		85	65	66.4	4.0	
8 (1)	電灯を太陽のモデル、ボールを月のモデルとして、太陽と月の位置と月の見え方を調べる実験をすることができる		○	○		○		85	65	92.5	0.2	◎
8 (2)	月の形の見え方は、太陽と月の位置関係によって変わること考えることができる		○	○		○		75	55	51.5	0.3	●
8 (3)①	月の表面にはクレーターがあることを理解している		○		○	○		85	65	85.4	3.5	◎
8 (3)②	月は太陽の光を反射し、太陽は自ら光を出していることを理解している		○		○	○		85	65	92.7	0.4	◎
9 (1)	生物の間には、食う食われるという関係があることを理解している		○		○	○		85	65	83.5	0.4	
9 (2)	植物だけを食う動物が草食動物であるということを理解している		○		○	○		80	60	72.7	3.7	
10	動物と植物は、空気を通してどのように関わって生きているかを説明することができる		○	○			○	70	50	87.6	2.5	◎
11 (1)	幾重にも層が重なり合って広がっているものが地層であることを理解している		○		○	○		85	65	94.0	1.4	◎
11 (2)	砂が固まってきた岩石が砂岩であることを理解している		○		○	○		80	60	73.4	2.2	
11 (3)	地層が、火山の働きと流れる水の働きでつくられたものであることを考えることができる		○	○		○		80	60	59.3	0.6	●

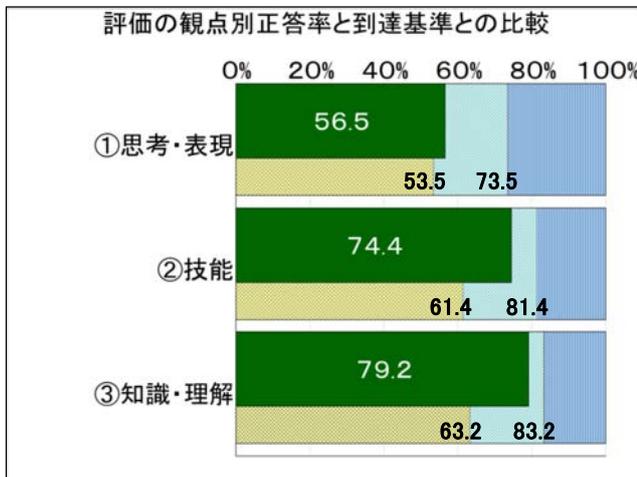
○ 設問ごと正答率



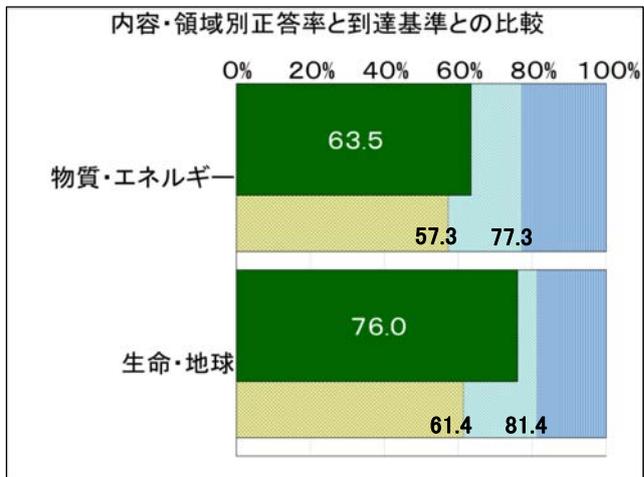
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

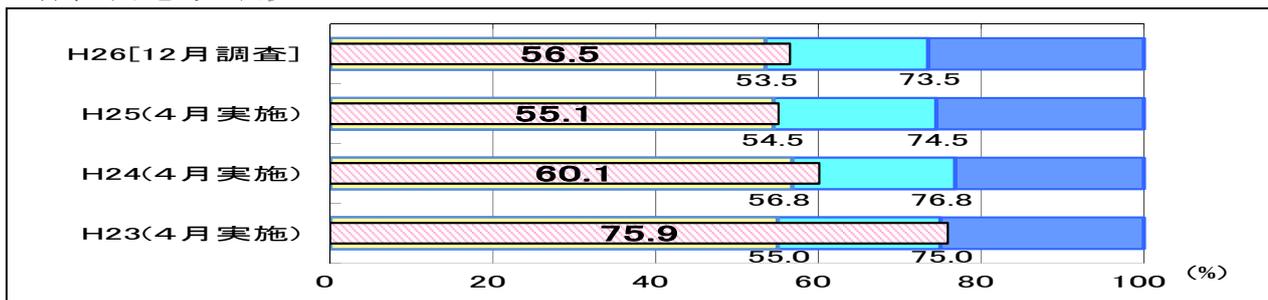


○ 内容・領域別正答率

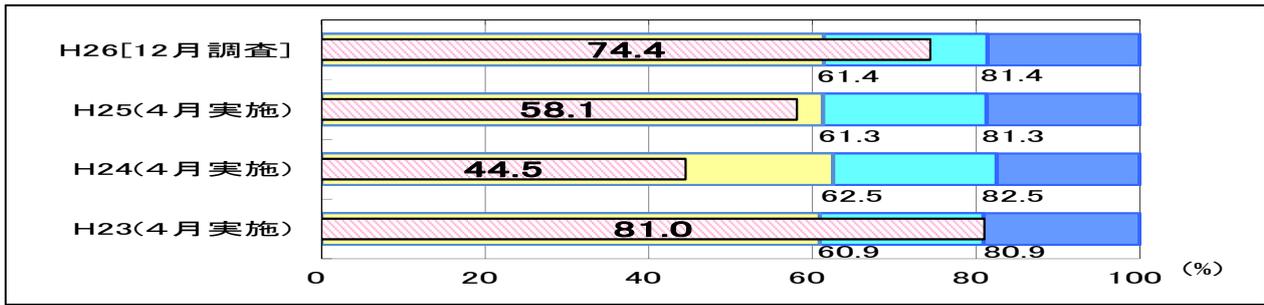


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

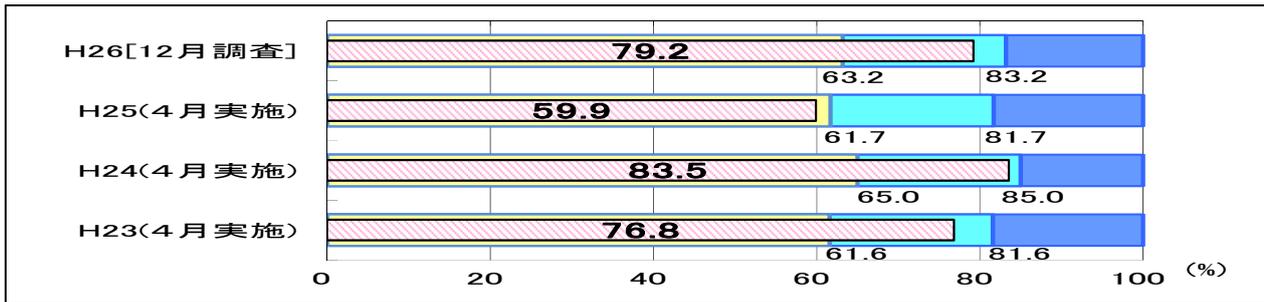
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

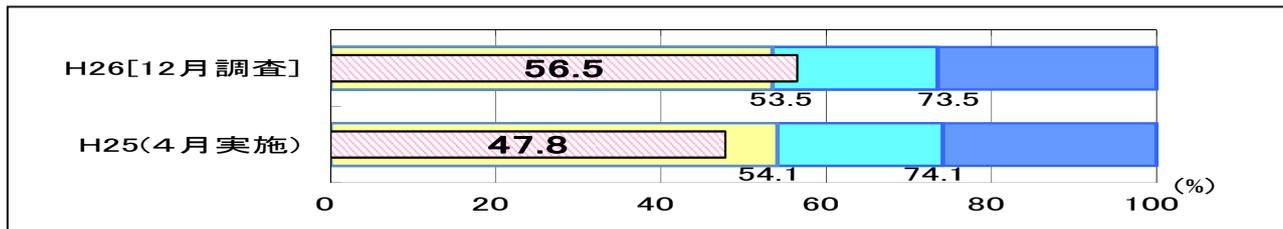


自然事象についての知識・理解

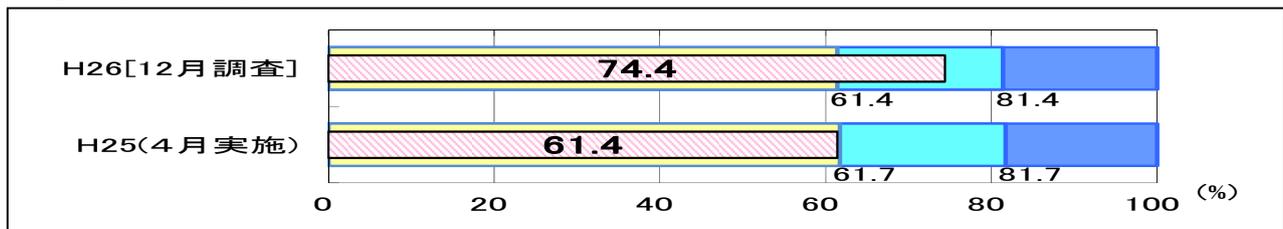


○ 評価の観点別正答率(同一児童)

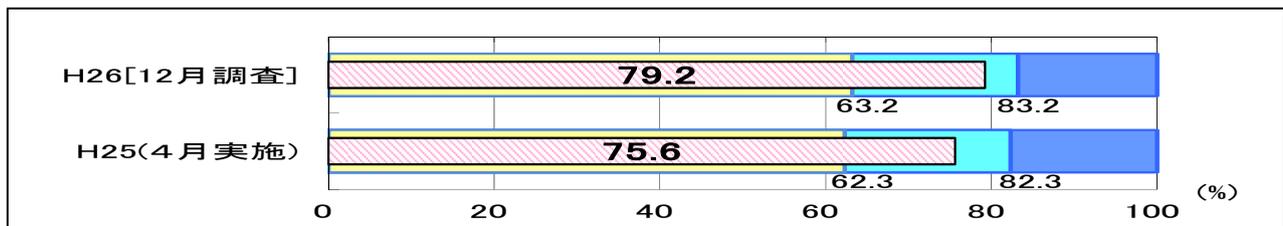
科学的な思考・表現



観察・実験の技能



自然事象についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 小学校全体

- 教科全体正答率については、全ての学年において、「おおむね達成」の到達基準を上回った。
- 評価の観点別正答率については、小学5年生の「観察・実験の技能」以外は全て「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。また、「自然事象についての知識・理解」においては、全ての学年で「おおむね達成」の到達基準を10.0ポイント以上上回っていた。
- 記述式の設問の無解答率については、平成25年度調査に比べて割合が減少しており、改善が見られた。授業において、結果の考察や自分の考えなどを記述する活動が継続的に取り入れられ、その成果が表れていると思われる。
- 平成25年度調査で課題として挙げられていた科学的用語の定着については、設問により正答率の差はあるものの、全体的には改善が見られた。特に、平成25年度調査で正答率が23.5であった小学5年生の内容「へその緒」の名称とその働きについては、平成26年度[12月調査]では、名称の正答率が82.6、働きの正答率が62.2と改善が見られた。
- 「活用」に関する問題の正答率については、各学年4問中、小学4年生が2問、小学5年生が3問、小学6年生が1問「おおむね達成」の期待正答率を上回っていた。小学6年生においては、4問中3問で「おおむね達成」の期待正答率を下回っていたものの、同一児童である平成25年度調査における小学5年生の結果と比較すると、改善が見られた。平成25年度調査で課題として挙げられていた、「自然の事象・現象の解釈をし、学んだ知識を活用して考えを述べる」ことについては、改善が見られた。
- 評価の観点別正答率については、「科学的な思考・表現」において、全ての学年で「おおむね達成」の到達基準を上回ってはいたが、「十分達成」の到達基準は下回っていた。児童の思考力・表現力を育てることについて、指導を継続していくことが求められる。
- 平成25年度調査で課題として挙げられていた「学習問題に沿う観察・実験の計画をしたり、実験方法について考えたりする」ことについては、改善が見られた。しかし、「十分達成」の到達基準を下回っており、平成26年度[12月調査]においても課題として残った。
- 方位磁針や遮光板、アルコールランプ、沸騰石などの実験道具の使い方や使う理由などの基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られた。

② 小学4年生

- 教科全体正答率は68.6であり、「おおむね達成」の到達基準を7.1ポイント上回った。評価の観点別に見ても、全ての観点において「おおむね達成」の到達基準を上回った。
- 平成25年度調査で課題として挙げられていた「ものの温度と体積」の内容に関する設問の正答率は「おおむね達成」の期待正答率を上回っており、改善が見られた。
- 平成25年度調査で課題として挙げられていた、学習したことを基に事象の説明をしたり、学んだことと事象を関連付けて説明したりすることについて、平成26年度[12月調査]においても引き続き課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問8	筒状の容器のふたが閉まりにくいことを、閉じ込めた空気の性質と関連付けて説明することができる。 (記述式)	筒状の容器にふたをかぶせたときに、そのふたが浮き上がってきた理由を説明する。	43.3	4.0	70.0	50.0

・ 解答状況

筒状の容器の中に閉じ込められた空気が、ふたを押し返したことを考えなければならない。プラスチックの筒に閉じ込めた空気を棒で押すと、空気によって押し返されるという実験は行っている、理科の学習だけのことと認識していると考えられる。生活場面における筒状

の容器とそのことを結び付けて考え、筒状の容器の中の空気にまで考えを及ぼすことができなかつたと推察される。

・ 改善・充実に向けて

日常生活に見られる事象から、学習問題を導き出したり、学習した内容を使って、日常生活に見られる事象の説明をしたりすることを繰り返すことで、学習内容は自分たちの生活と深く関わっていると感じ取らせるとともに、科学的に説明する力を育てていきたい。また、そうすることで、理科を学ぶ意義や有用性も感じさせることができると考える。

● 方位磁針などの基礎的な観察・実験道具の使い方の定着に課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2 (1)	方位磁針を適切に使って、太陽の見える方向を調べることができる。 (短答式)	方位磁針の針の向きから、指定された方向がどの方位であるかを考える。	26.1	1.3	80.0	60.0

・ 解答状況

方位磁針は、針の色が付いている方が北を指すことを踏まえて、針の色付きの部分に北の文字が来るように方位磁針を回し、針の色が付いていない方が南を指すことを考えなければならない。児童は、正しく置かれていない方位磁針の文字をそのまま読み、指定された方向は西であると判断してしまつたと推察される。

・ 改善・充実に向けて

観察・実験道具の使い方を説明するだけでは十分な定着は期待できない。定着させるためには、実際に使わせることが重要である。教師が使っている様子を見せるだけであつたり、班の中の1人だけが使つて、情報を共有したりといった授業ではなく、児童全員が道具に触れることができ、実際に調べる体験ができる授業を心掛けたい。時間や準備の都合上1時間の授業の中で全員が道具に触れることが難しい場合などは、単元の中で、その機会を設定するように計画を立てる必要がある。

③ 小学5年生

○ 教科全体正答率は65.8と「おおむね達成」の到達基準を6.0ポイント上回つた。

○ 「活用」に関する問題の正答率は、平成25年度調査の小学5年生と比較すると、「おおむね達成」の期待正答率を上回っている設問が増えている。平成25年度調査で課題として挙げられていた「自然の事象・現象の解釈をし、学んだ知識を活用して考えを述べる」ことを問う設問について、改善が見られた。

● 内容・領域「物質とエネルギー」の正答率は53.9であり、「おおむね達成」の到達基準を6.9ポイント下回っていた。小学5年生の「物質とエネルギー」の設問は、全て小学4年生での学習内容であつたことから、小学4年生の学習内容の定着に課題があると推察される。特に、沸騰石、アルコールランプなどの実験道具の使い方や使う理由などの基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2 (1)	水を加熱し、気化させる実験を安全に行うことができる。 (記述式)	実験の際、ビーカーの中に沸騰石を入れる理由を説明する。	27.3	3.6	80.0	60.0

- ・ 解答状況

「ふっとう石」という名称は知っていても、突沸を防ぐために使うものであることまでは理解できておらず、「早く沸騰させるため」や「沸騰したことが分かりやすいように」といった間違えた認識をもっていることが推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

安全面への配慮からも、沸騰石を使う理由については、十分な指導が必要である。授業においては、「ビーカーに沸騰石を入れなさい」と教師が一方的に指導するのではなく、実験の計画を立てる際に、実験の道具として必要なものを児童に考えさせ、なぜそれが必要なのかを、児童自らに説明させるような発問をしたい。また、体験を通して、実感を伴った理解を図り、学習したことが、単なる短期記憶にならないように心掛けたい。

④ 小学6年生

- 教科全体正答率は70.8と「おおむね達成」の到達基準を11.1ポイント上回った。評価の観点別に見ても、全ての観点において「おおむね達成」の到達基準を上回っており、特に「観察・実験の技能」と「自然事象についての知識・理解」においては、「おおむね達成」の到達基準を10.0ポイント以上上回った。
- 平成25年度調査で課題として挙げられていた「月と太陽」「土地のつくりと変化」の設問の正答率は、「月と太陽」で4問中3問、「土地のつくりと変化」で3問中2問がそれぞれ「おおむね達成」の期待正答率を上回っており、改善が見られた。
- 評価の観点「科学的な思考・表現」において、観察・実験の結果から結論を導き出すことに課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4 (1)	実験の結果を基に、物を燃やした後の空気の変化の様子を考えることができる。(選択式)	ろうそくを入れる前とろうそくが消えた後の気体検知管の写真から、空気の変化について考える。	37.7	0.2	80.0	60.0

- ・ 解答状況

問5(1)では、正答率が93.6であり、気体検知管の目盛りを正しく読み取ることができていることがうかがえる。このことから、この設問では、気体検知管の目盛りを読み取ることができるにも関わらず、正答には至っていないことが分かる。読み取ったデータを比較し、しっかりと分析することなく、もともともっていた概念で解答したり、色が付いている部分が増えている酸素用検知管の写真を見て、印象だけで解答したりしていることが推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

多くの時間で問題解決的な学習を仕組む必要がある。観察・実験の結果と考察の区別をはっきりとさせ、観察・実験の結果を根拠として結論を述べさせる活動を続けていかなければならない。そのためには、授業の導入において、学習への問題意識をしっかりともおくことも大切である。

(3) 改善のポイント

① 児童に見通しをもたせる事象提示の工夫を行う

授業導入での事象提示を工夫することで、レディネスの調整や学習内容への興味・関心を高めること、問題意識をもたせることなどができ、その後の観察・実験や結果の考察をスムーズに行わせることができる。そうすることで、問題解決の能力を育てることができ、理科学習における様々な力を育むことにつながる。

② 児童と一緒に観察・実験の計画を立てる

- ・ 児童が立てた計画を生かした観察・実験をさせる。または、児童とやりとりをしながら観察・実験の計画を立てることで、児童は観察・実験の意図や目的を理解し、主体的に観察・実験に取り組むことができる。
- ・ 教科書の実験を教師側から提案する場合でも、観察・実験の意図やその道具を使う理由などを児童に尋ねながら説明することで、児童の意識が高まる。
- ・ 観察・実験の計画を立てることを日頃から行うことで、新たな問題場面において、知識や技能を活用して解決の方法を構想したり、問題の解決を想定したりする力を育てることができる。

③ 思考と表現を結ぶ言語活動の充実を図る

- ・ 児童が事象に対してどのように考えるのか、どのように解決しようとしているのか、なぜそう思うのかなどの考えを表現させる場が必要である。児童は自分では分かっているつもりでも、実際に書いたり友達と意見交換をしたりすることで、「自分の分かっている点」「曖昧な点」「間違っていた点」などを整理する。それらを自覚し、再び思考することで探究活動がより充実したものになると考えられる。
- ・ 問題解決的な学習において、児童に考えを表現させる場としては、①事象提示②学習問題の作成③観察、実験の記録④考察⑤補充的・発展的な課題などが考えられる。
- ・ 言語に限らず、図や絵などを用いて表現することも、児童の思考を助けるのに効果的であるので、場面に応じた表現方法を考え、授業を行いたい。

④ 観察・実験の結果を踏まえた考察を行わせる

- ・ 観察・実験の結果と考察を区別して指導し、結果を踏まえた考察を行わせることで、自然の事象・現象の解釈をしたり、理由について考えを述べたりする力を高めることができる。
- ・ 児童に観察・実験の「結果」を重要視させることが大切である。観察・実験の結果を根拠として、結論を述べさせることを意識して指導を行うことで、児童の科学的な言葉や概念を使用して考え、説明する力を育むことができる。

⑤ 日常生活との関連を図った問題解決に取り組ませる

- ・ 学習を日常生活と関連付けることで、児童の学習に対する関心・意欲の高まりが期待できる。
- ・ 単元の導入で、生活場面の事象から問題を見だし、単元全体を通した学習問題を立てることで、単元全体を見通した問題意識をもたせることができる。また、そうすることで、日常生活の中でも、学習内容と自然事象を関連させて考えようとする意識や態度が育まれる。
- ・ 学習内容が、自分たちの生活と深く関わっていることや、生活の中で生かされていることを知ることは、理科を学ぶ意義や有用性を感じることや実感を伴った理解につながる。
- ・ 補充的・発展的な内容として、日常生活における自然事象について考えさせることも、学習内容の定着を図ったり、知識・技能を活用して考える力を育てたりする上で効果的である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

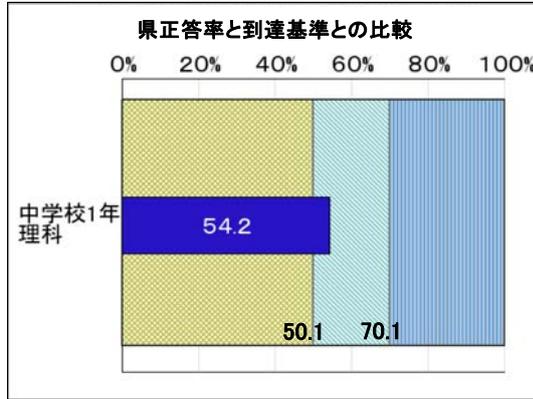
佐賀県教育センターでは、理科力向上サポートチームを組織し、教員の指導力向上を図る公開授業研究会、観察・実験講習会、教材提供及び授業支援活動を通して、科学的な思考力・表現力を高める学習モデルの提案や授業における観察・実験の充実をサポートする取組を行っています。教育センターWeb ページには、授業づくりの考え方や過去の実践例等も紹介していますので、ご活用ください。

2 中学校理科

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

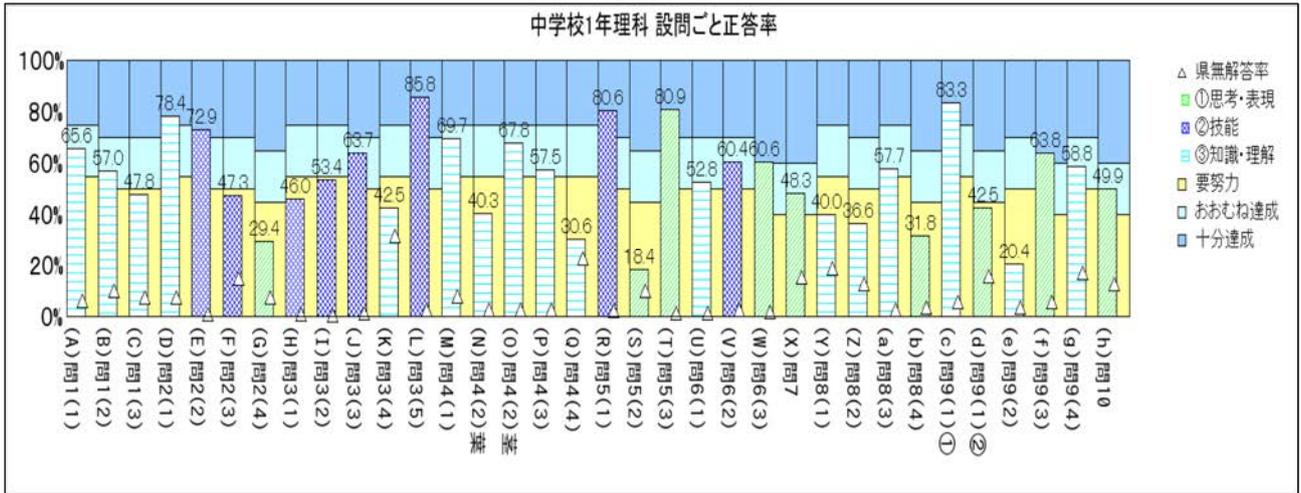
○ 教科全体正答率



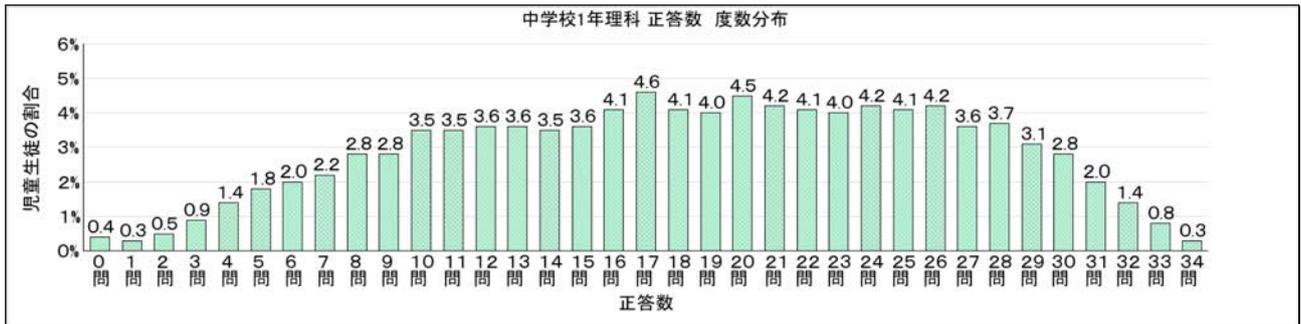
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		植物の生活と種類	身の回りの物質	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	識・理解	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式					
1 (1)	被子植物の花弁の特徴を理解している	○			○		○			75	55	65.6	6.2	
1 (2)	種子植物のつくりを理解している	○			○		○			70	50	57.0	9.8	
1 (3)	植物の種類における子孫の残し方を理解している	○			○		○			70	50	47.8	7.5	●
2 (1)	葉緑体を理解している	○			○		○			75	55	78.4	7.3	◎
2 (2)	光合成の働きを確かめる実験を正しく行うことができる	○		○			○			70	50	72.9	0.7	◎
2 (3)	光合成の働きを確かめる実験を正しく行うことができる	○		○			○		○	70	50	47.3	14.6	●
2 (4)	実験結果を基に光合成に必要なものを考えることができる	○	○				○			65	45	29.4	7.3	●
3 (1)	ルーペの操作を正しく行うことができる	○		○			○			75	55	46.0	0.7	●
3 (2)	顕微鏡の操作を正しく行うことができる	○		○			○			75	55	53.4	0.6	●
3 (3)	顕微鏡の操作を正しく行うことができる	○		○			○			70	50	63.7	1.2	
3 (4)	プレパラートのつくりを理解している	○			○		○			75	55	42.5	31.6	●
3 (5)	顕微鏡で微生物の観察を正しく行うことができる	○		○			○			70	50	85.8	2.8	◎
4 (1)	根・茎・葉の水の通り道を理解している	○			○		○			75	55	69.7	8.0	
4 (2)葉	葉の維管束のつくりとはたらきを理解している	○			○		○			75	55	40.3	2.7	●
4 (2)茎	茎の維管束のつくりとはたらきを理解している	○			○		○			75	55	67.8	2.6	
4 (3)	被子植物の体のつくりを理解している	○			○		○			75	55	57.5	2.7	
4 (4)	被子植物の分類を理解している	○			○		○			75	55	30.6	22.8	●
5 (1)	蒸散量を調べる実験を正しく行うことができる	○		○			○			70	50	80.6	2.0	◎
5 (2)	表を基に、蒸散による水の減少量を考えることができる	○	○				○			65	45	18.4	9.8	●
5 (3)	表を基に、蒸散による水の減少量の違いと気孔の数とを関連付けて考えることができる	○	○				○			70	50	80.9	1.1	◎
6 (1)	パルミチン酸の温度の違いによる状態変化を理解している	○			○		○			70	50	52.8	1.3	
6 (2)	状態変化のグラフから、パルミチン酸の融点を読み取ることができる	○		○			○			70	50	60.4	2.5	
6 (3)	質量と融点の関係から、パルミチン酸の温度変化の様子を考えることができる	○	○				○		○	60	40	60.6	1.6	◎
7	実験結果を基に、ろうの状態変化の特徴を説明することができる	○	○						○	60	40	48.3	15.3	
8 (1)	溶解度の意味を理解している	○			○		○			75	55	40.0	18.7	●
8 (2)	質量パーセント濃度の求め方を理解している	○			○		○			70	50	36.6	12.5	●
8 (3)	水溶液の特徴を理解している	○			○		○			75	55	57.7	2.5	
8 (4)	グラフを基に、水溶液の温度を下げたときに出てくる結晶の量を考えることができる	○	○				○		○	65	45	31.8	3.5	●
9 (1)①	二酸化炭素の性質を理解している	○			○		○		○	75	55	83.3	5.6	◎
9 (1)②	ペットボトルの形の変化を二酸化炭素が水に溶けることから考えることができる	○	○						○	65	45	42.5	15.5	●
9 (2)	塩素の性質を理解している	○			○		○			70	50	20.4	3.6	●
9 (3)	酸素と窒素の分別方法を考えることができる	○	○						○	60	40	63.8	5.7	◎
9 (4)	水上置換法について理解している	○			○				○	70	50	58.8	16.8	
10	ガスと空気の密度の違いから、ガス警報器の正しい設置場所を考えることができる	○	○						○	60	40	49.9	12.8	

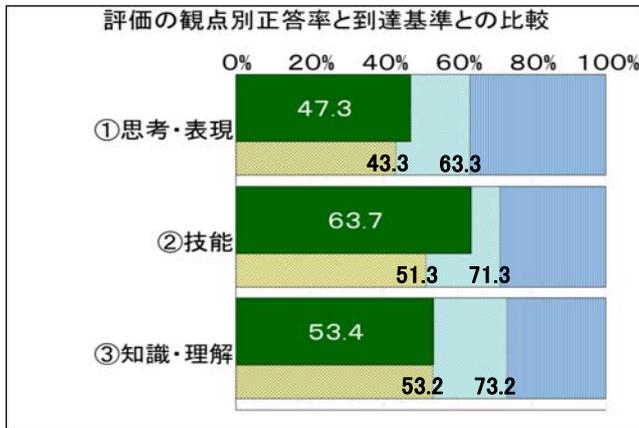
○ 設問ごと正答率



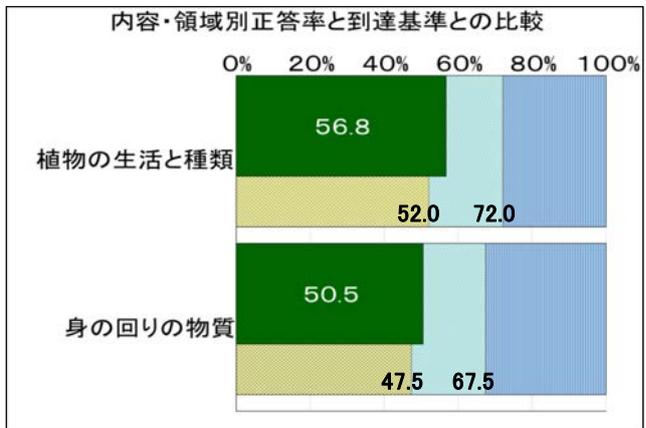
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率



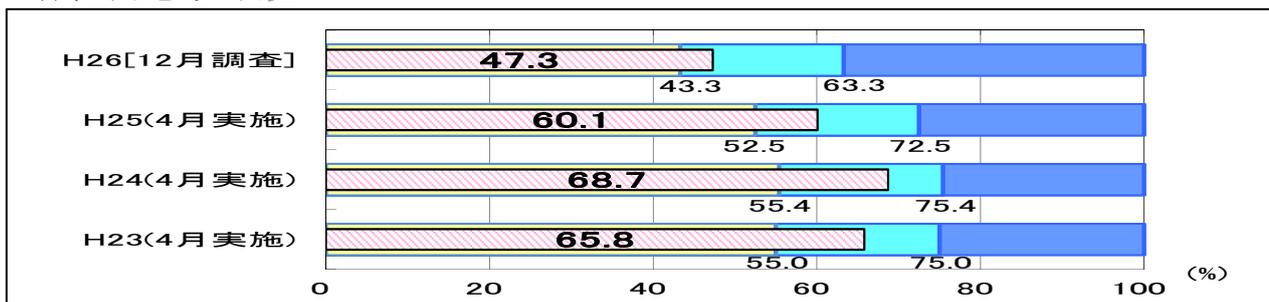
○ 内容・領域別正答率



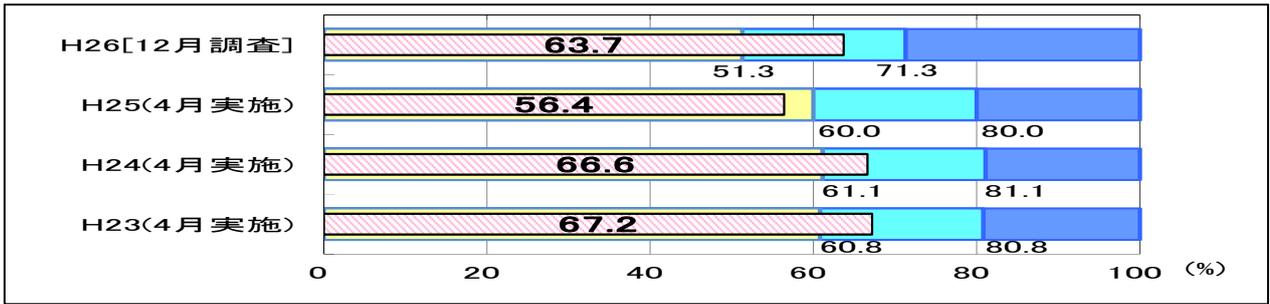
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成25年度(4月実施)までは、小学6年生までの内容で調査。

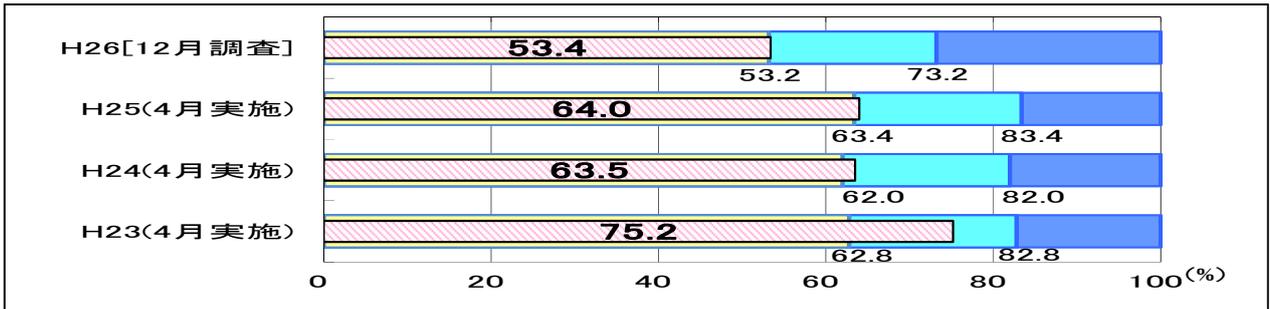
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

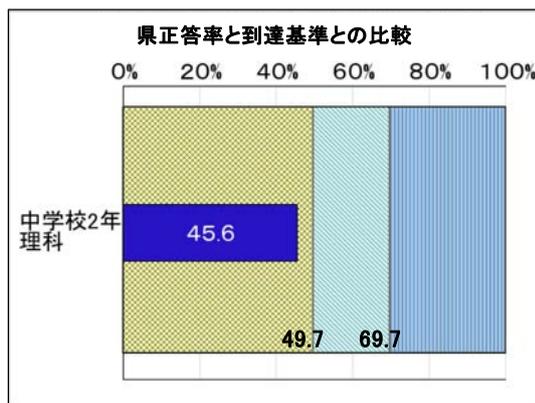


自然事象についての知識・理解



② 中学2年生

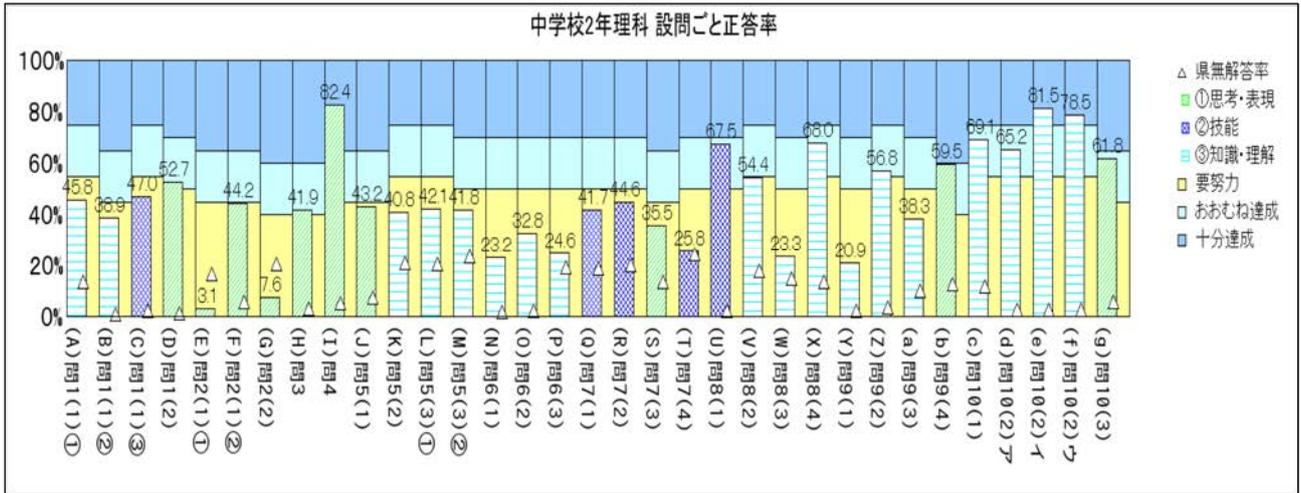
○ 教科全体正答率



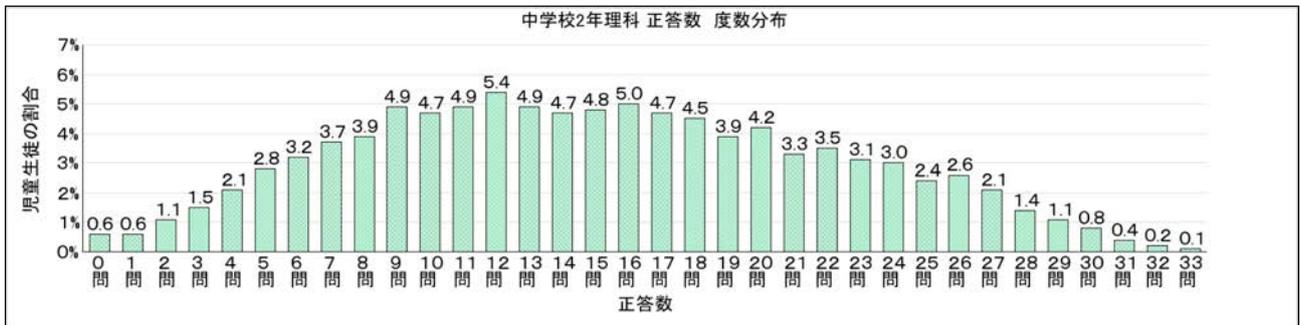
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式		「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		身近な物理現象	大地の成り立ちと変化	化学変化と原子・分子	動物の生活と生物の変遷	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	識・理解	自然事象についての知	選択式						
1	(1)① 浮力の大きさの求め方を理解している	○					○		○			75	55	45.8	13.4	●
1	(1)② 浮力を理解している	○					○	○				65	45	38.9	0.9	●
1	(1)③ メスシリンダーの目盛りの読み取り方を身に付けている	○					○		○			75	55	47.0	2.0	●
1	(2) 水中の物体に浮力が働く理由を考えることができる	○					○		○			70	50	52.7	1.2	
2	(1)① グラフを基に、振動数の大きさを考えることができる	○					○		○			65	45	3.1	16.7	●
2	(1)② グラフを基に、何種類の音が使われているかを考えることができる	○					○		○			65	45	44.2	5.7	●
2	(2) 与えられた情報を基に、漁船と魚の群れまでの距離を考えることができる	○					○		○	○		60	40	7.6	20.3	●
3	円柱に空けた穴から水が出る様子の変化を考えることができる	○					○			○	○	60	40	41.9	3.2	
4	音が伝わる仕組みを基に、糸電話の音が聞こえなくなる理由を説明することができる	○					○			○	○	65	45	82.4	5.3	◎
5	(1) 地震計の記録を基に、震源からの距離を考えることができる		○				○			○		65	45	43.2	7.5	●
5	(2) 震度を理解している		○						○	○		75	55	40.8	21.0	●
5	(3)① P波を理解している		○						○	○		75	55	42.1	20.5	●
5	(3)② 震源からの距離と地震発生までの時間からP波が伝わる速さを求める方法を理解している		○						○	○		70	50	41.8	23.5	●
6	(1) マグマの粘性と火山の形、火山灰の色との関係を理解している		○						○	○		70	50	23.2	1.7	●
6	(2) 火山岩の特徴を理解している		○						○	○		70	50	32.8	2.1	●
6	(3) 軽石にたくさん穴が空いている理由を理解している		○						○	○		70	50	24.6	19.1	●
7	(1) 小さな電圧で水の電気分解を行うことができる		○						○	○		70	50	41.7	18.6	●
7	(2) 気体が酸素であることを確かめることができる		○						○	○		70	50	44.6	19.9	●
7	(3) 水の電気分解を原子のモデルで考えることができる		○				○			○		65	45	35.5	13.4	●
7	(4) 水の電気分解を化学反応式で表すことができる		○						○	○		70	50	25.8	24.2	●
8	(1) 鉄と硫黄の混合物と加熱後にできた物質を区別することができる		○						○	○		70	50	67.5	2.3	
8	(2) 化合を理解している		○						○	○		75	55	54.4	17.7	●
8	(3) 硫化鉄と塩酸の反応を理解している		○						○	○		70	50	23.3	14.8	●
8	(4) 気体の性質を調べる時に注意することを理解している		○						○	○		75	55	68.0	13.6	
9	(1) 肝臓の働きを理解している				○				○	○		70	50	20.9	2.0	●
9	(2) 大腸、じん臓の名称と位置を理解している				○				○	○		75	55	56.8	3.6	
9	(3) 表面積を大きくし、効率よく働きを行う体のつくりについて理解している				○				○	○		70	50	38.3	9.9	●
9	(4) 表を基に、消化管の長さを食性と関連付けて説明することができる				○	○				○	○	60	40	59.5	12.6	
10	(1) 卵生を理解している				○				○	○		75	55	69.1	11.9	
10	(2)ア 両生類の特徴を理解している				○				○	○		75	55	65.2	2.4	
10	(2)イ ハチュウ類の特徴を理解している				○				○	○		75	55	81.5	2.5	◎
10	(2)ウ 鳥類の特徴を理解している				○				○	○		75	55	78.5	2.5	◎
10	(3) 資料や表を基に、ハリモグラと生物進化との関連を考えることができる				○	○				○	○	65	45	61.8	5.6	

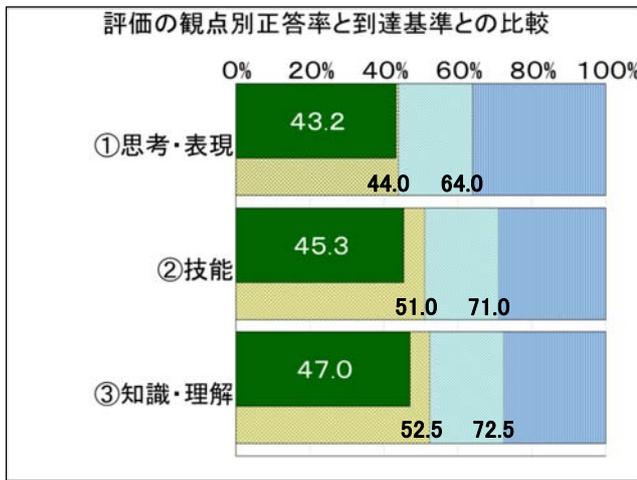
○ 設問ごと正答率



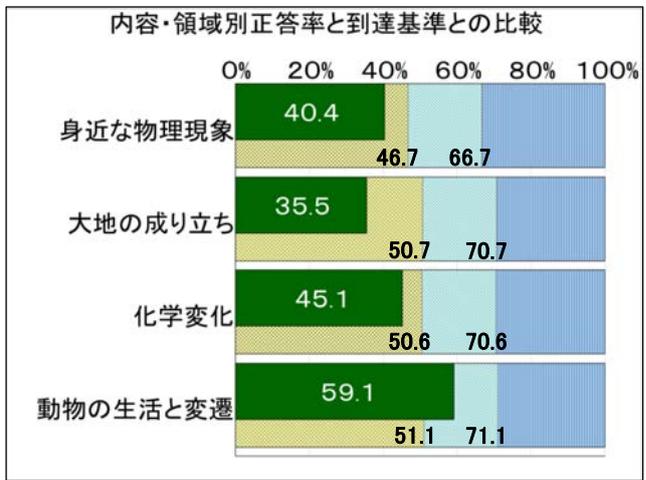
○ 教科正答数度数分布



○ 観点別正答率



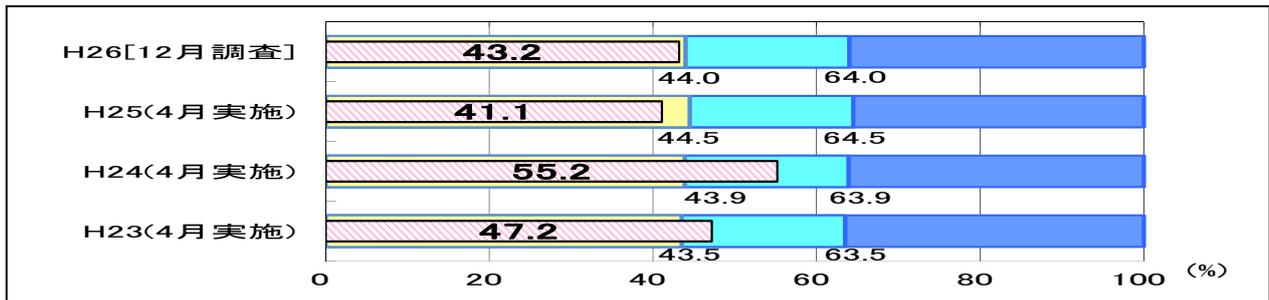
○ 内容・領域別正答率



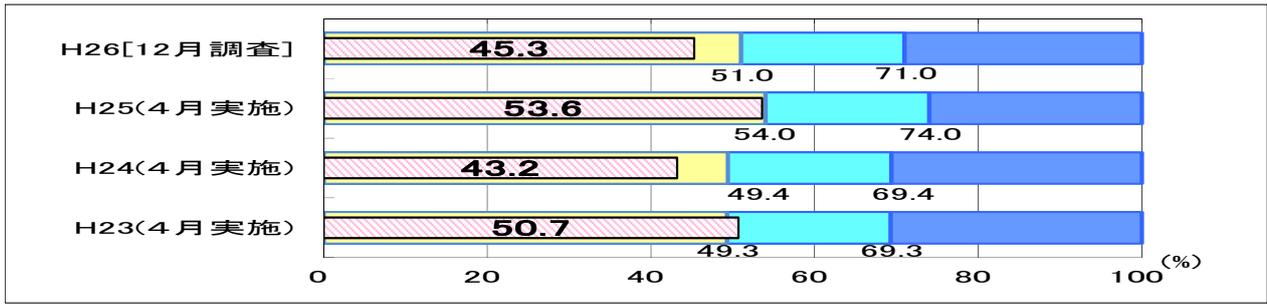
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成25年度(4月調査)までは、中学1年生までの内容で調査。

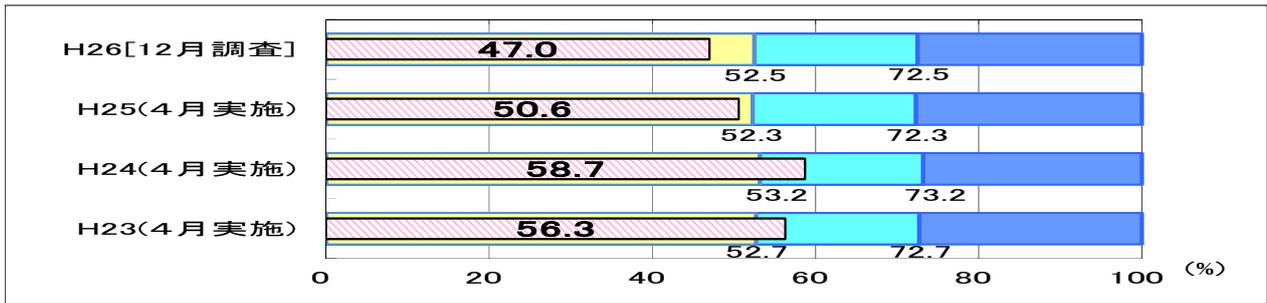
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

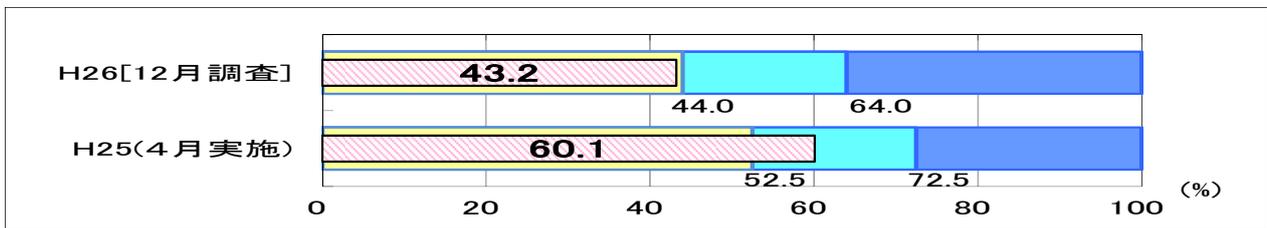


自然事象についての知識・理解

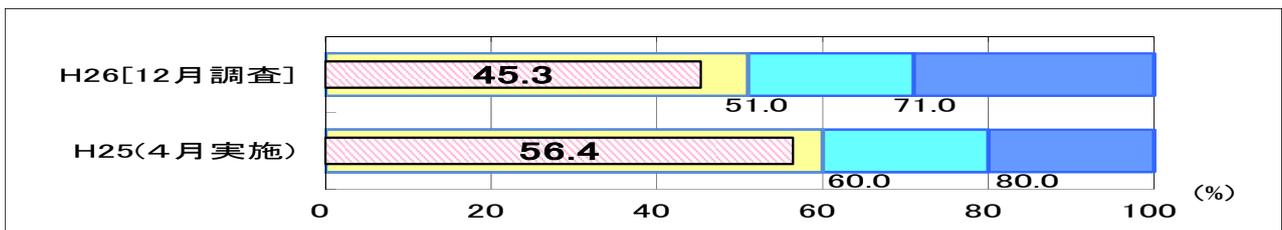


○ 評価の観点別正答率(同一生徒)

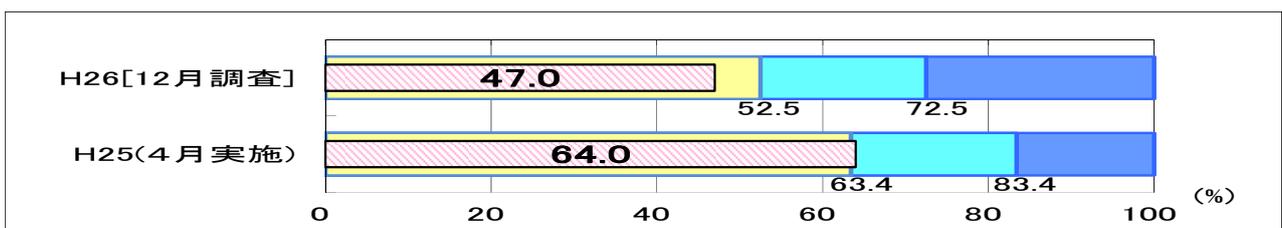
※ 中学1年生時である平成25年度(4月実施)は、小学6年生までの内容で調査。
科学的な思考・表現



観察・実験の技能



自然事象についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生の教科全体正答率が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 中学1年生で、評価の観点「科学的な思考・表現」の正答率が「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。中学2年生においては、「おおむね達成」の到達基準を1として同一学年で比較すると、評価の観点「科学的な思考・表現」は平成25年度調査より上回っていた。
- 中学2年生の教科全体正答率は、「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。
- 中学2年生の内容・領域「大地の成り立ちと変化」については、全ての設問で「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。
- 表やグラフからデータを読み取り、公式に当てはめて答えを導き出す設問においては、全ての学年で引き続き課題が見られた。

② 中学1年生

- 評価の観点「観察・実験の技能」の正答率が「おおむね達成」の到達基準を12.4ポイント上回った。該当する設問を見ると、8問中3問が「十分達成」の期待正答率を上回り、8問中1問が「おおむね達成」の期待正答率を上回っていた。
- 実験結果の表やグラフからデータを読み取り、問いに対する答えを導き出すことに課題が見られた
 - ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問5 (2)	表を基に、蒸散による水の減少量を考えることができる。 (短答式)	蒸散量を調べた実験結果を基に、植物全体の蒸散量を求める。	18.4	9.8	65.0	45.0

・ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率を26.6ポイント下回った。水の減少量の表が何を意味しているのかを実験操作と関連付けて、十分に分析・解釈できなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

まず、葉の両面にワセリンを塗った植物から蒸散した水の量を表から読み取り、それが葉以外から蒸散した水の量であることを理解することが大切である。それを基に、葉の表と裏にワセリンを塗った場合の蒸散量から植物全体の蒸散量を導き出していくという手順を順を追って指導していくことが大切である。

- 公式に含まれる語句とその意味を理解して、答えを求めることに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問8 (2)	質量パーセント濃度の求め方を理解している。 (短答式)	60°Cの水100gに25gの硫酸銅が溶けた水溶液の質量パーセント濃度を計算する。	36.6	12.5	70.0	50.0

・ 解答状況

計算の分母が溶媒の水と溶質の硫酸銅を合わせた125gとして計算できなかったのではないかと推察される。また、無解答率の高さが示しているように、質量パーセント濃度とは何かを理解できていなかったのではないかと推察される。

- 改善・充実に向けて

水溶液は溶質と溶媒でできていることを押さえ、質量パーセント濃度の意味を確認した上で計算させることが大切である。また、問題に繰り返し取り組ませることで質量パーセント濃度の求め方を定着させることが大切である。

③ 中学2年生

- 評価の観点「科学的な思考・表現」の正答率が、「おおむね達成」の到達基準を0.8ポイント下回ったものの、該当設問数10問中5問が「おおむね達成」の期待正答率を上回っていた。
- 実験結果の表やグラフからデータを読み取り、問いに対する答えを導き出すことに課題が見られた。
 - 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2 (1) ①	グラフを基に、振動数の大きさを考えることができる。(短答式)	オシロスコープの波形から、1回振動するのに0.004秒かかることを読み取り、1秒あたりに何回振動しているかを求める。	3.1	16.7	65.0	45.0

- 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率を41.9ポイント下回った。無解答率の高さが示しているように、オシロスコープが示す波形の意味を理解できていなかったのではないかと推察される。また、0.004秒間に1回振動していることを1秒間に何回振動するかに変換する計算ができなかったのではないかと推察される。

- 改善・充実に向けて

オシロスコープやパソコンソフトなどを用いて音の波形を調べる実験を行い、振幅や振動数など波形が示す意味を音の大きさや高さや照らし合わせて考えさせたい。グラフから読み取った数値を基に、計算をする取り組みを繰り返して行うことが大切である。

- 基本的・基本的な観察・実験の技能の定着に課題が見られた。

- 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1 (1) ③	メスシリンダーの目盛りの読み取り方を身に付けている。(短答式)	水と物体Aが入ったメスシリンダーの体積を読む。	47.0	2.0	75.0	55.0

- 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率を8.0ポイント下回った。最小目盛りの10分の1まで目分量で読むことができなかったのではないかと推察される。

- 改善・充実に向けて

メスシリンダーを使って体積を測定する活動をできる限り多く仕組むことで、技能の定着を更に図りたい。また、体積を測定させ、測定した値を用いて密度を求めるなどの活動へとつなげることも大切である。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7 (4)	水の電気分解を化学反応式で表すことができる。(短答式)	水に電圧をかけ水素と酸素に分解したときの化学変化をモデルを参考にして化学反応式で表す。	25.8	24.2	70.0	50.0

・ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率を24.2ポイント下回った。教科書でも1番初めに扱われる化学反応式であるが、無解答率が高い。これは化学反応式に対する苦手意識の大きさがはっきりと表れていると考える。正答は「 $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2$ 」であるが、左右の原子の数が異なっていたり、「 \rightarrow 」を「 $=$ 」と表したりするなど、化学反応式の表し方の定着が十分でなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

化学反応式で表す際には、決まった表し方のルールが存在する。ルールに従った表し方を定着させるためには、授業で取り扱う化学変化の実験において化学反応式で表す活動に取り組みせたり、確認のテストを行ったりするなど、繰り返し定着を図る学習が必要である。合わせて「 \rightarrow 」の意味やモデルを利用して原子の数を合わせる意味なども考えさせることで定着を図っていきたい。

- 日常生活や社会の特定の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2 (2)	与えられた情報を基に、漁船と魚の群れまでの距離を考慮することができる。(短答式)	漁船から出した超音波が魚群からはね返り、0.24秒後にもどってきたことと、海中での超音波の伝わる速さが毎秒1500mであることから距離を求める。	7.6	20.3	60.0	40.0

・ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率を32.4ポイント下回った。設問の設定が魚群探知機や海中という設定であることに対して、これまで学習した空気中での音の伝わり方の知識を活用できなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

教科書では音の速さは約340m/sと学ぶ。打ち上げ花火や山びこなど音の速さを感じる場面を例に挙げ、距離や時間と関連付けながら具体的な数値で考えさせていきたい。魚群探知機という特殊な装置でも考え方は同じで授業で学んだことのどの部分がどのように活用されているのかを考えさせながら指導していくことが大切である。

(3) 改善のポイント

① 小学校と中学校の接続を意識した指導方法を工夫する

中学校は小学校と比較すると、学習内容が増加したり、複雑、難解になったりするが、それ以前に、小学校の授業づくりから中学校の授業づくりにおいて、スムーズな接続がなされていないところが大きな課題の1つではないかと考える。教育センターが提案している理科力向上サポートの授業づくりを参考にするなどして、スムーズな接続を図りたい。

② 科学的な思考力や表現力を育成するために、探究的な学習の充実を図る

生徒自らが課題を解決する探究的な学習には、「問題を見だし観察や実験を計画する学習活動」、「観察や実験の結果を分析し解釈する学習活動」、「科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動」等がある。これらを意識した指導を心掛けることで、思考力や表現力が育成できると考えられる。

㊦ 「問題を見だし観察や実験を計画する学習活動」の充実を図る

この活動は、生徒が自然の事物・現象に進んで関わるために大切である。そのためには、授業の導入で生徒が「あれっ?」、「どうして?」と思うような事象提示を取り入れて問題意識を高めさせたり、「おもしろそうだ」、「やってみよう」という知的好奇心を喚起し、学習に対して意味を見だしさせたりする手だてを取ることが大切である。特に、「おおむね達成」の到達基準に達していない生徒には、まず、理科の不思議さやおもしろさなどを体感させたい。そして、そのことを通して、学習に対し前向きに取り組もうとする態度を育てていきたい。また、ICT機器を思考の手助けとして活用することも有効である。そして、考えを発表する機会や、検証方法を討論する機会などを仕組み、互いの考えを深め合わせることで、思考力や表現力を育成していきたい。

㊧ 「観察や実験の結果を分析し解釈する学習活動」の充実を図る

この活動は、思考力や表現力を育成するために重要である。そのためには、データを図、表、グラフなどで表したり、結果を考察したりする時間を十分に確保することが大切である。グラフを作成する際、独立変数や従属変数を十分に意識させることで、グラフの目的や意味を理解し、読み取りの技能が向上すると考えられる。そして、グラフを活用して考察させたり、データの解釈により規則性を発見させたりして、思考の深まりへとつなげていきたい。

㊨ 「科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動」の充実を図る

この活動も、思考力や表現力を育成するために重要である。そのためには、事象の再説明やレポートの作成、発表、討論等、知識や技能を活用する学習活動の充実を図る必要がある。「分かったつもり」でいる生徒を、「分かった」という段階まで高めるために、実験結果から作成した表やグラフを基に、生徒が考えたことを根拠を示して記述させたり、発表で論理的に説明させたりする言語活動へとつなげることで概念の定着を図っていきたい。

③ 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、評価の充実を図る

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、つまづきの原因を分析した上で、指導の改善を図って行くことが重要になってくる。特に、重要語句や計算など基礎的・基本的な知識・技能については、取り扱うたびに確認テスト等の評価を行い定着させていきたい。その際、授業の始まりに前時を振り返る活動を取り入れたり、授業中の観察やノートの点検、授業の終わりに確認テストを実施したりすることで評価をすることが大切である。また、単元末の確認テストや定期テスト・実力テストによる評価を組み合わせることも大切である。実態に応じた継続的な取組を、学校全体で共通認識をもって行っていくことが大切になってくる。

◎ ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

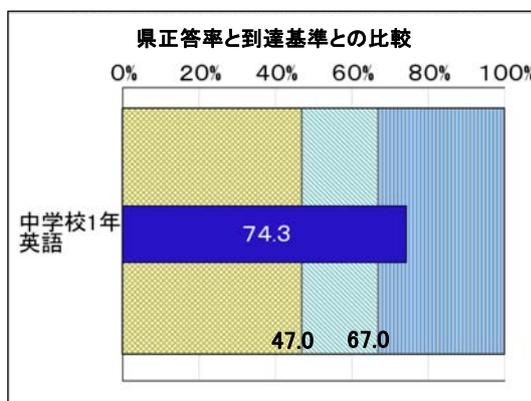
佐賀県教育センターでは、理科力向上サポートチームを組織し、教員の指導力向上を図る公開授業研究会、観察・実験講習会、教材提供及び授業支援活動を通して、科学的な思考力・表現力を高める学習モデルの提案や授業における観察・実験の充実をサポートする取り組みを行っています。特に提案している学習モデルは、小中連携の視点からもスムーズな接続ができるよう工夫されております。教育センターWeb ページには、授業づくりの考え方や過去の実践例等も紹介していますので、ご活用ください。

1 中学校英語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

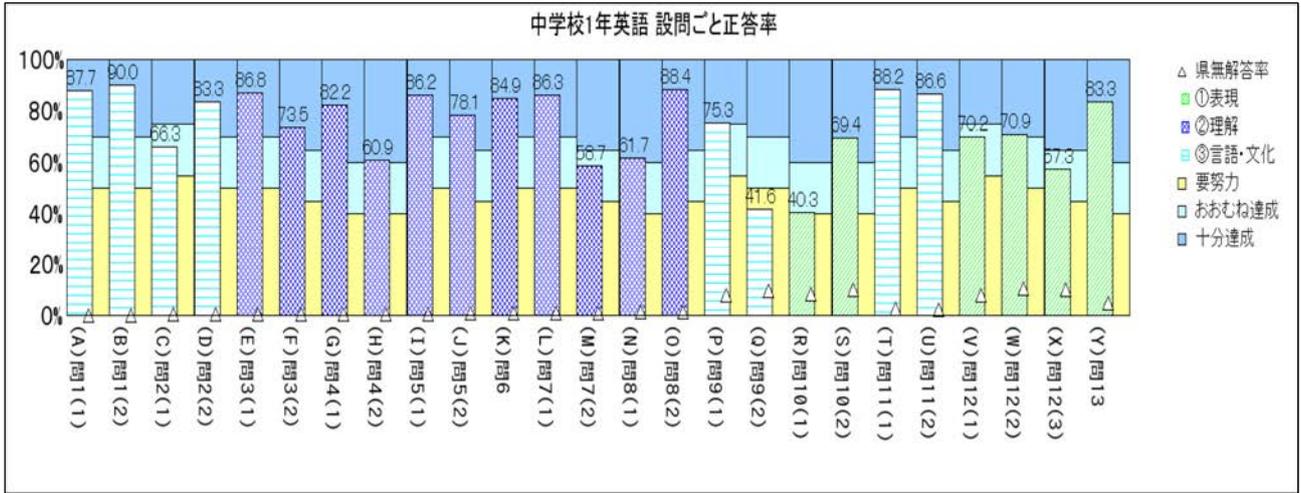
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			70	50	87.7	0.2	◎
1 (2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			70	50	90.0	0.2	◎
2 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			75	55	66.3	0.3	
2 (2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			70	50	83.3	0.4	◎
3 (1)	対話を聞いて、概要を理解する	○					○	○			70	50	86.8	0.3	◎
3 (2)	対話を聞いて、概要を理解する	○					○	○			65	45	73.5	0.4	◎
4 (1)	聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○		○	60	40	82.2	0.3	◎
4 (2)	聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○					○	○		○	60	40	60.9	0.3	◎
5 (1)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる		○				○	○	○		70	50	86.2	0.6	◎
5 (2)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる		○				○	○	○		65	45	78.1	0.7	◎
6	説明文を読んで、概要を理解する		○				○	○	○		70	50	84.9	1.0	◎
7 (1)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○				○	○	○		70	50	86.3	0.7	◎
7 (2)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○				○	○	○		65	45	58.7	0.8	
8 (1)	対話文を読んで得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○				○	○	○		60	40	61.7	1.4	◎
8 (2)	英文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○				○	○	○		65	45	88.4	1.4	◎
9 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○		○		75	55	75.3	7.9	◎
9 (2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○		○		70	50	41.6	9.6	●
10 (1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く		○	○	○	○	○		○		60	40	40.3	8.4	
10 (2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く		○	○	○	○	○		○		60	40	69.4	10.2	◎
11 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○		○		70	50	88.2	2.4	◎
11 (2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○		○		65	45	86.6	2.3	◎
12 (1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○		○		75	55	70.2	7.8	
12 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○		○		70	50	70.9	10.5	◎
12 (3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○		○	○	65	45	57.3	9.9	
13	テーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英語で文章を書く			○	○				○	○	60	40	83.3	4.8	◎

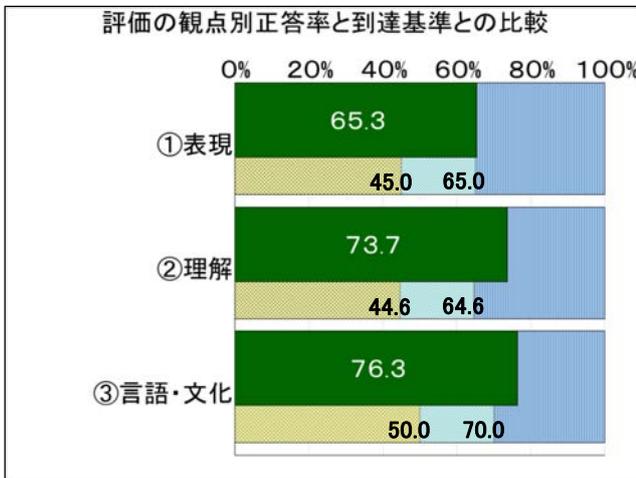
○ 設問ごと正答率



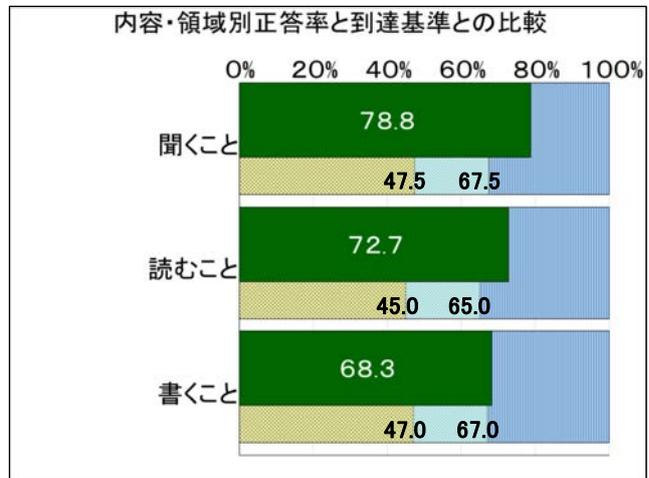
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

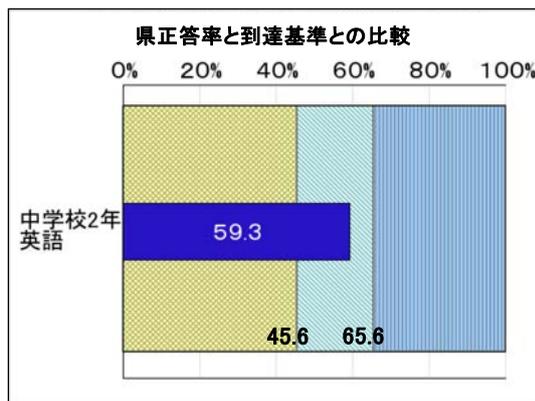


○ 内容・領域別正答率



② 中学2年生

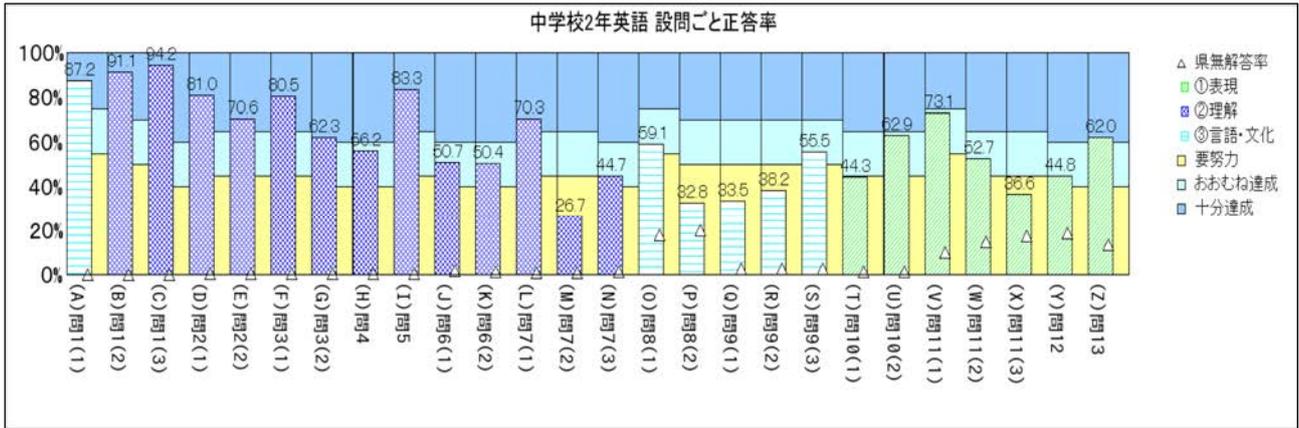
○ 教科全体正答率



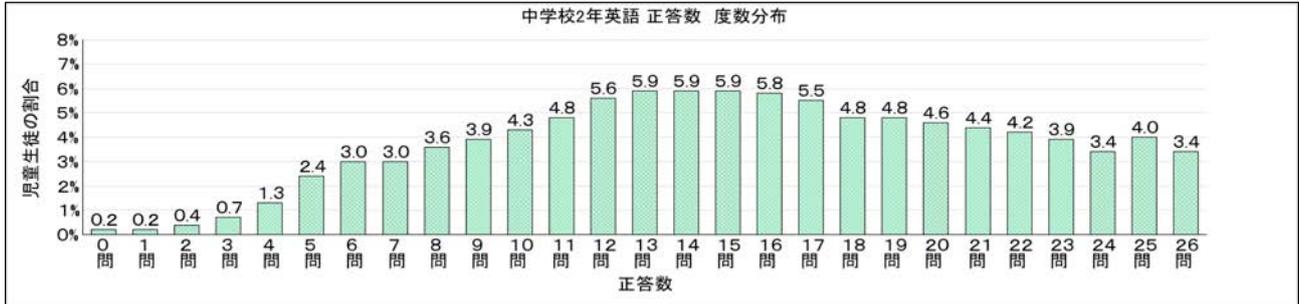
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	知識・理解	言語や文化についての	選択式	短答式						
1 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○					75	55	87.2	0.2	◎
1 (2)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○				70	50	91.1	0.2	◎
1 (3)	聞いて得た情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○				60	40	94.2	0.2	◎
2 (1)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○				65	45	81.0	0.4	◎
2 (2)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○				65	45	70.6	0.4	◎
3 (1)	対話を聞いて、必要な情報を理解する	○				○		○				65	45	80.5	0.3	◎
3 (2)	対話を聞いて、複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○				○		○		○	60	40	62.3	0.3	◎	
4	まとまりのある英語を聞いて、話し手が伝えたいことや聞き手にとって必要な情報を理解する	○				○		○				60	40	56.2	0.4	
5	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○			○		○				65	45	83.3	0.5	◎
6 (1)	説明文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○			○		○		○	60	40	50.7	1.6		
6 (2)	説明文や対話文を読んで、大切な部分を理解する		○			○		○				60	40	50.4	1.3	
7 (1)	対話文を読んで、大切な部分を理解する		○			○		○				65	45	70.3	0.8	◎
7 (2)	対話文を読んで、流れを理解する		○			○		○				65	45	26.7	0.8	●
7 (3)	対話文を読んで、流れを理解する		○			○		○				60	40	44.7	1.2	
8 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○		75	55	59.1	17.9	
8 (2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○		70	50	32.8	19.8	●
9 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○		70	50	33.5	2.6	●
9 (2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○		70	50	38.2	2.4	●
9 (3)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○		70	50	55.5	2.5	
10 (1)	文と文の関係に注意して文章を書く			○	○				○			65	45	44.3	1.1	●
10 (2)	文と文の関係に注意して文章を書く			○	○				○			65	45	62.9	1.1	
11 (1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○		75	55	73.1	10.1	
11 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○		65	45	52.7	14.7	
11 (3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○		65	45	36.6	17.4	●
12	電子メールを読んで、自分が伝えたいことを書く			○	○					○	○	60	40	44.8	18.6	
13	テーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英語で文章を書く			○	○					○	○	60	40	62.0	13.4	◎

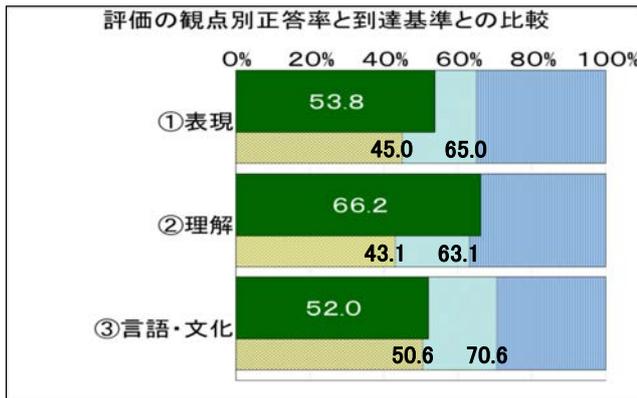
○ 設問ごと正答率



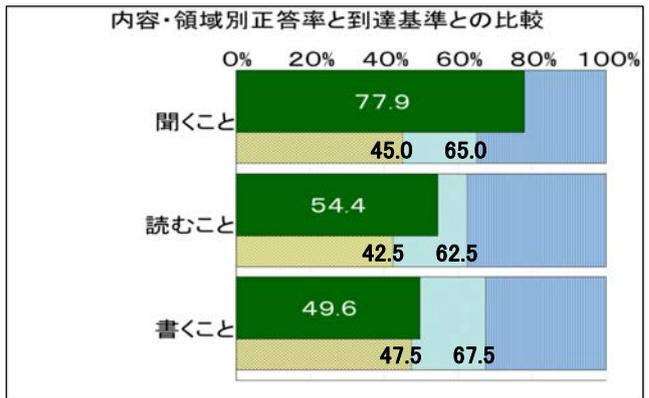
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

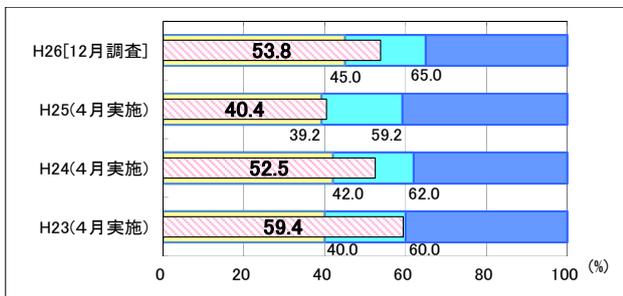


○ 内容・領域別正答率

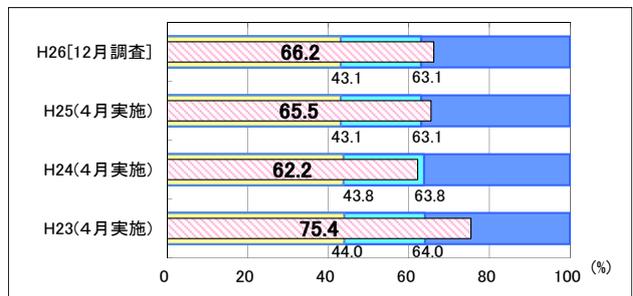


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

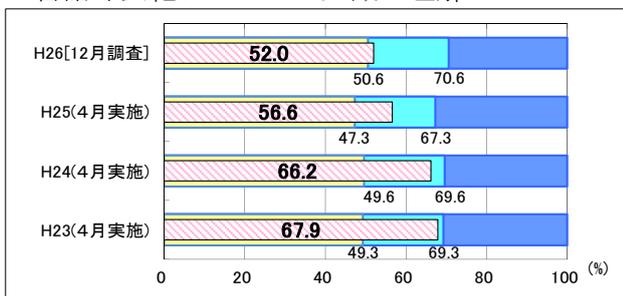
外国語表現の能力



外国語理解の能力



言語や文化についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生において、全ての評価の観点、「十分達成」の到達基準を上回っていた。中学2年生において、「理解の能力」が、「十分達成」の到達基準を上回っており、「表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。どちらの学年も、内容・領域「聞くこと」においては「十分達成」の到達基準を上回っている状況にあり、正しく聞き取る力の定着が見られた。
- 平成25年度調査において課題として挙げられていた「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く」ことにおいては、平成26年度[12月調査]でも「おおむね達成」の期待正答率を下回っている設問があり、課題が見られた。
- 教科正答度数分布において、中学1年生と中学2年生との分布の違いが顕著であった。平成26年度[12月調査]の出題範囲では、中学1年生はおおむね学習内容を理解していると考えられるが、中学1年生の終盤までにつまずく生徒が出てくることを踏まえておく必要がある。

② 中学1年生

- 全ての評価の観点、全ての内容・領域の正答率が、「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- 内容・領域「書くこと」において、一般動詞を含む疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くことに課題が見られた。
 - ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問9 (1)	疑問文の構造を理解し、 語と語のつながりに注意 して書く。 (記述式)	be動詞を含む現在形の 平叙文を、対話の流れに 応じて疑問文にする。	75.3	7.9	75.0	55.0
問9 (2)		一般動詞を含む3人称 単数現在形の平叙文を、 対話の流れに応じて疑 問文にする。	41.6	9.6	70.0	50.0

- ・ 解答状況

書くときの条件は、(1)は教室での会話という場面設定で、「あなたはケンですか。」と尋ねる文にすること、(2)は写真を見ながらの会話という場面設定で、「彼は野球をしますか」と尋ねる文にすることである。(1)はbe動詞を含む疑問文であり、(2)は一般動詞を含む3人称単数現在形の疑問文である。どちらも、対話の流れの中で平叙文を疑問文に変えることに気付くことができるかどうか、さらに、疑問文の構造が理解できているかどうかを見る設問である。2つを比較すると、(2)の定着に課題があると言える。言語習得に関する研究においては、3人称単数現在形の一般動詞の語形変化は習得順序が遅いとされており、現段階では難しかったのではないかと推察される。
- ・ 改善・充実に向けて

学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。実際のコミュニケーションの中で文法操作ができるように授業を仕組みたい。また、習得順序が遅い文法事項については、3年間の中で繰り返し指導を行ったり、関連のある文法事項はまとまりをもって整理したりするなど、長期的なスパンで定着を図る視点ももっておきたい。具体的には次のような指導が効果的である。

㊦ 文法事項は一方的な説明を行うのではなく、生徒とのやり取りの中で言語への気付きを促すようにする。その際、関連のある文法事項を合わせて整理をする。

- ① 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。
- ② 活動例として、スピーチ活動とQ&A活動を組み合わせたものが挙げられる。まず、発表者が他己紹介を”I’m going to tell you about ○○. He is 129.3 cm tall. He sleeps in the closet. He always helps his friend. Can you guess?”というように名を明かさずにクイズ形式で行う。次に、聞き手が、情報を聞き出すために”What color does he like? Does he like *dorayaki*?”などの質問を行っていく。最後に、発表者が質問に応答し、聞き手が”Is he ○○?”と質問して当てる。グループ対抗などで制限時間を設定して行うと活動が活性化される。このように文法事項は、それを使う必然性のある場面を与えることが大切である。意味内容のやり取りの中で、形式面についての生徒同士のフィードバックが出現し始め、本人の気付きも起こり始める。帯学習として短時間で繰り返し継続的に行う方が望ましい。#

③ 中学2年生

- 評価の観点「理解の能力」、内容・領域「聞くこと」が、「十分達成」の到達基準を上回っていた。評価の観点「表現の能力」と「言語・文化についての知識・理解」、内容・領域「読むこと」と「書くこと」が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 内容・領域「読むこと」において、対話文を読んで、流れを理解することに課題が見られた。
- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7 (2)	対話文を読んで、流れを理解する。 (選択式)	対話の流れを理解し、Tomの出身国を選択肢から選ぶ。	26.7	0.8	65.0	45.0
問7 (3)		対話の流れを理解し、Kenの適切な応答を選択肢から選ぶ。	44.7	1.2	60.0	40.0

・ 解答状況

サッカーをテーマにした内容の対話文である。対話の流れを理解し、(2)はトムの出身国を選択肢から選び、(3)はケンの適切な応答を選択肢から選ぶ設問になっている。(2)は、対話の最初にワールドカップの開催地であったブラジルのことが出てくることと、直前にアメリカという語が出てくることから、混乱してしまったのではないかと推察される。(3)は、直前の文の主語である **Some Japanese soccer players** を受けて、選択肢の中の **They** を含む文を選択したのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

読みの指導においては、発問構成が重要であり、読みの段階に応じて工夫をしていくことが大切である。あわせて、情報を可視化するためのマッピングなどを用いれば、英文の中に登場する人物や物事の間関係を明らかにしやすくなる。一文一文の情報を積み重ねても、それだけでは英文全体の場面や状況を把握することにはならない。書き手の意図を読み取らせるためには、情報を関連付けて推論させる場면을授業の中で仕組んでいく必要がある。具体的には次のような指導が効果的である。

※参考文献 卯城 祐司著 『英語で英語を読む授業』 2011年 研究社

- ⑦ 本文内容の理解ができているかどうかを確認するために、情報についてそのまま問うのではなく、少し形を変えた活動を行う。例えば **Picture Describing**、**Reproduction**、**Summary** などの活動、情報を表にまとめる活動、対話文を説明文にするといった文章の

スタイルを変える活動などを行うことで、本文内容を様々な角度から見ることになり、深い読みが促される。

- ① 本文を類型化(対話文、物語文、説明文)し、それに応じた発問構成を考える。
- ② 本文内容の読みの段階に応じた発問を組み立てる。まず、本文に明示された内容を読み取らせる事実発問、次に、本文に明示された情報を基に直接明示されていない内容を推測させる推論発問、最後に、本文に書かれた内容に対する読み手としての考えを答えさせる評価発問というように、段階に応じた発問を行うことで、最終的に生徒の考えを引き出す。

- 内容・領域「書くこと」において、一般動詞を含む過去形の疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くことに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問8 (1)	疑問文の構造を理解し、 語と語のつながりに注意 して書く。 (記述式)	be 動詞を含む過去形の 平叙文を、対話の流れに 応じて疑問文にする。	59.1	17.9	75.0	55.0
問8 (2)		一般動詞を含む過去形 の平叙文を、対話の流れ に応じて疑問文にする。	32.8	19.8	70.0	50.0

・ 解答状況

書くときの条件は、(1)は東京に行った先生に天気はどうであったかを聞く場面で、「晴れていましたか。」と尋ねる文にすること、(2)は友達同士の対話の場面で「昨日ケンを訪ねましたか。」と尋ねる文にすることである。(1)は be 動詞を含む過去形の疑問文であり、(2)は一般動詞を含む過去形の疑問文である。どちらも、対話の流れの中で平叙文を疑問文に変えることに気付くことができるかどうか、さらに、疑問文の構造が理解できているかどうかを見る設問である。2つを比較すると、(2)の定着に課題があると言える。言語習得に関する研究においては、規則動詞の過去形の語形変化も習得順序が遅いとされており、十分に定着できていないのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

中学1年生同様、学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。実際のコミュニケーションの中で文法操作ができるように授業を仕組みたい。また、習得順序が遅い文法事項については、3年間の中で繰り返し指導を行ったり、関連のある文法事項はまとまりをもって整理したりするなど、長期的なスパンで定着を図る視点ももっておきたい。具体的には次のような指導が効果的である。

- ① 文法事項は一方的な説明を行うのではなく、生徒とのやり取りの中で言語への気付きを促すようにする。その際、関連のある文法事項を合わせて整理をする。
- ② 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。
- ③ 活動例として、ここでもスピーチ活動とQ&A活動を組み合わせたものが挙げられる。夏休み明けに実践できる。手順としては、まず、発表者が夏休みの思い出についてスピーチを行う。次に、聞き手が、スピーチ内容について質問をする。発表者は質問に応答する。ある程度質問が出たら、最後に聞き手が、スピーチについてコメントをする。グループ対抗などで制限時間を設定して行うと活動が活性化する。#

(3) 改善のポイント

① 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導する

- ・ 新出の文法事項を指導する際には、その意味や機能を十分に理解させた上で、新出の内容と既習の内容との関連を図り、言語活動の中で自分の考えや気持ち、事実などを伝え合うことに生かす。
- ・ 文法事項の取扱いについては、単元の中での位置付けを明確にする。単元の最後にはパフォーマンス課題を設定し、学習したことを活用する場面を与える。学習した文法事項は、理解の段階や機械的な **Pattern Practice** にとどめることなく、表現の段階まで高める指導を行う。

② 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫する

- ・ 文法事項を指導する際、一つ一つの事項の指導において英語の特質を理解させるだけでなく、英語と日本語の違いに焦点を当て、関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理して理解させる。例えば、現在形や過去形の指導の後、時制として整理したり、不定詞や関係代名詞などを修飾という側面から整理したりするなど体系的に理解させる。
- ・ 文法事項は、1回の説明で終わることなく、関連した事項を3年間のスパンの中で繰り返し整理して提示する。その際、習得順序の遅い事項については、長期的な視点で定着を図る。教科正答数度数分布における中学1年生と中学2年生との分布の違いについて考察してみると、英語を苦手だと感じる時期として最も高い割合を示している中学1年生の後半¹⁾は、3人称単数現在形の動詞の語形変化、現在進行形や過去形などの時制に関する文法事項を学習する時期となっている。加えて疑問詞のほとんどをこの時期に学習するという配列になっている。そのため、英語科としては、この時期の学習内容は長期的な見通しをもって定着を図りたい。

※参考文献 Benesse 『第1回中学校英語に関する基本調査報告書』 (2009)

- ・ 田地野は「現在の外国語教育の研究では、間違いは学習が進むうえでむしろ必要な条件だと考えられている」¹⁾とするものの、間違いには質の違いがあり、コミュニケーションを取ることが言語を使う目的でもあるが、意味の通じる間違いと、意味の通じない間違いを区別することが大切だとしている。そこを踏まえた上で、間違いの質に応じたフィードバックを行っていく必要がある。

※引用文献 田地野 彰著 『〈意味順〉英作文のすすめ』 2011年 p.26

③ 読みの段階に応じた発問構成を工夫する

- ・ 読みの指導に当たっては、読みの指導過程を、読む前、読んでいる間、読んだ後の3段階の枠組みで捉え、事前に内容を尋ねる質問をしたり、発問の仕方に工夫をしたり、手掛かりとなる語句や表現をヒントとして与えたりなどする。
- ・ 発問を行う際には、情報や情報同士の関連性を可視化するために、マッピングなどを合わせて活用する。マッピングは、理解活動と表現活動をつなぐツールとして使うことができる。
- ・ 内容・領域「読むこと」をコミュニケーション能力を身に付けるための活動として位置付け、「読むこと」を通して得た知識等について、読んだ後の段階においては、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結び付ける。
- ・ 内容・領域「読むこと」の活動においては、目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行わせる。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、「4技能『聞く・話す・読む・書く』を関連付けた中学校英語科学習指導の工夫」という研究テーマで、「書くこと」の指導の充実を目指した授業実践を提案しています。また、ICT利活用による授業実践も紹介していますので、ご活用ください。